

# 2019年度入試状況分析



## 私立大分析 <501 大学集計（志願者数確定募集単位）>

※文中の（ ）内の数値は、志願者数あるいは合格者数の前年度同時期対比指数を表します。

### Point of Data

#### ①志願状況全体概況

- 延べ志願者数は13年連続増加だが、増加率は過去2年間からわずかにダウン
- センター利用方式は前年度以上の増加

#### ②系統別志願状況・合格状況

- 志願状況は、文系は増加率がダウン、理系は理、工が連続増加、薬、農・水産は連続減少
- 理、工は、人気の高い情報科学、情報工以外の主要な専攻も増加が目立つ
- 合格者数は絞り込みが一段落し、18系統のうち芸術を除いた17系統で増加

#### ③地区別志願・合格状況

- 志願者数は全ての地区が増加、北関東、北海道は10%以上の増加
- 合格者数は四国以外の地区は増加だが、全体では競争が激化

#### ④模試合格判定ライングループ別志願者数・合格者数増減状況

- 志願者数は、最難関グループはやや減少、合格目標ラインの低いグループは大幅増加
- 合格者数は文理とも全グループが増加し、絞り込みは一段落

#### ⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

- 文系は最難関グループで競争緩和、合格目標ラインの低いグループは競争激化
- 理系は合格目標ラインの低いグループで競争激化

#### ⑥志願者数が多い大学

- 大学全体の志願者数が5万人以上だった大学は19大学、前年度より2大学増加

#### ⑦増減が目立った大学

- 合格者数絞り込みへの不安から慎重な出願が目立つ

#### ⑧主要私立22大学 入試結果概況

- 志願者数は13大学が減少、22大学合計では5年ぶりに減少
- 合格者数は13大学で増加、絞り込みは一段落し競争緩和の大学が目立つ

#### ⑨大学別志願状況

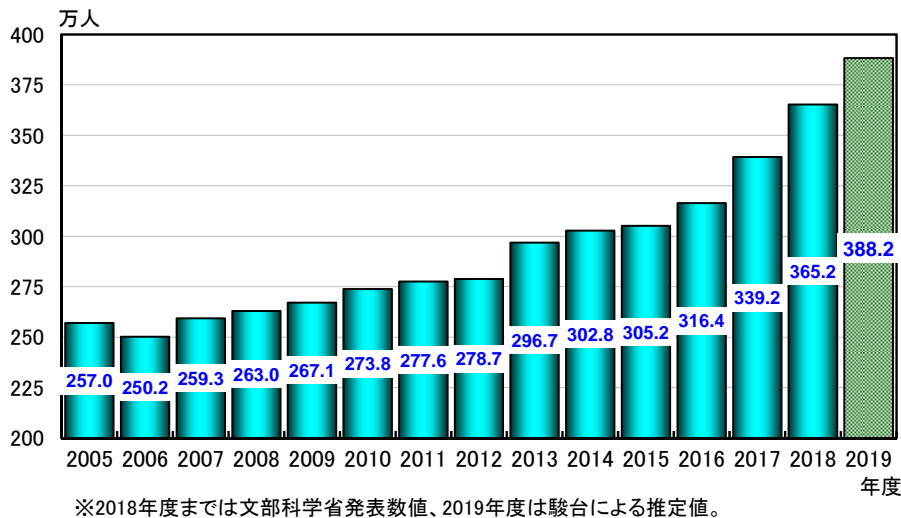
#### ⑩医学部医学科志願状況

- 29大学集計ではやや減少

## ①志願状況全体概況

□延べ志願者数は13年連続増加だが、増加率は過去2年間からわずかにダウン

〔私立大志願者数推移〕

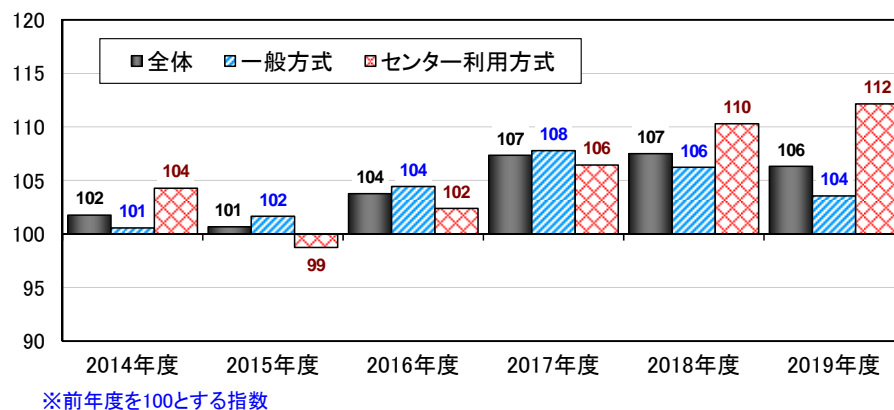


駿台が集計した私立大501大学の一般選抜(推薦・AO入試等の特別選抜を除く)の延べ志願者数は、384.1万人(106)となっており、13年連続増加が確定しました。

最終的な延べ志願者数は388万人あまりになるものと思われますが、増加率は7%以上だった過去2年間と比べてわずかにダウンし、6%あまりになると考えられます。

□センター利用方式は前年度以上の増加

〔私立大一般選抜 方式別志願者数前年度対比指数推移〕



入試方式別での志願者数を見ると、センター利用方式が前年度以上に増加したのが目立ちました。新規に導入されたセンター利用方式の募集単位を除いても、(107)のやや増加でした。近年の合格者数絞り込みで厳しくなった入試への不安から出願校数は増えましたが、結果として出願先

は受験料が安価で、受験対策や日程的な負担が少ないセンター試験の成績のみで合否が決まる募集単位が多いセンター利用方式に向かったことがわかります。さらにセンター試験の平均点アップが、センター試験後に出願締切日を設定した募集単位での志願者数増加につながったことも影響しました。

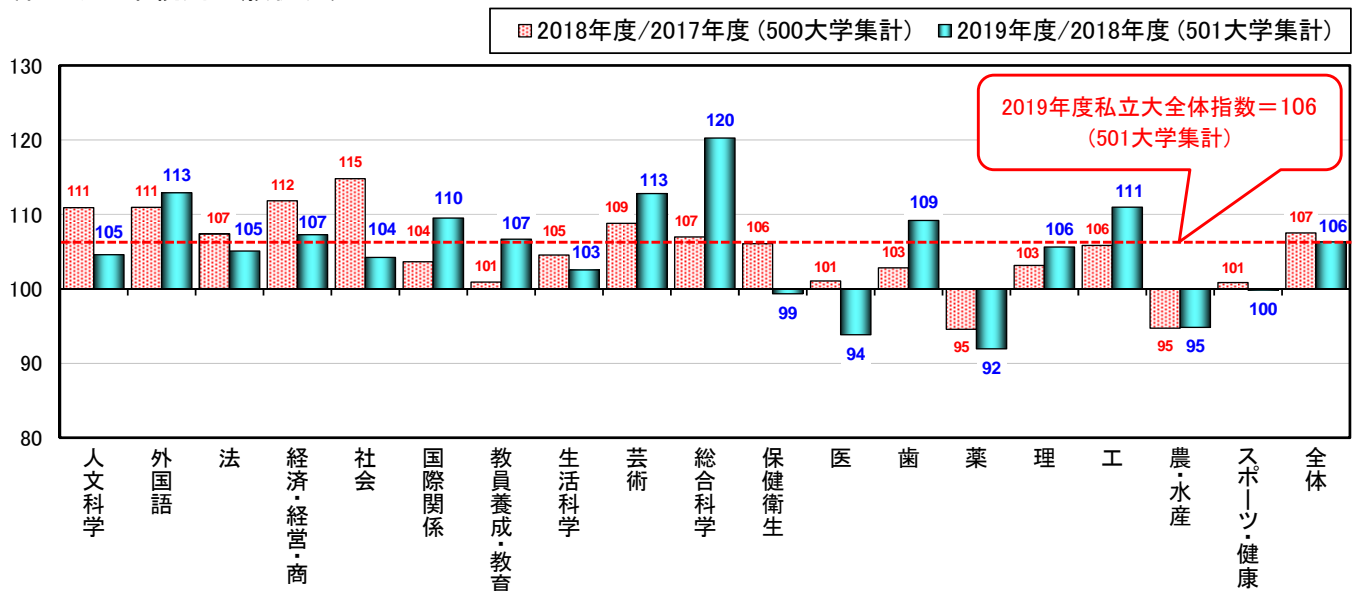
## ②系統別志願状況・合格状況

□志願状況は、文系は増加率がダウン、理系は理、工が連続増加、薬、農・水産は連続減少

系統別志願状況では、文系は増加が継続しているものの増加率はダウンしました。大学別では首都圏の大規模な総合大学で減少した大学が多くなりましたが、募集人員に占める文系の割合が大きいため、この減少が増加率ダウンの要因につながりました。なお、増加は継続していることから、競争はさらに厳しくなったことがわかります。

文系の系統では外国語(113)、国際関係(110)の増加が目立ちました。いずれも人文科学、法、経済・経営・商、社会と比べると志願者数が少ないため、増減率が大きくなりやすい系統ですが、外国語は昭和女子大・国際(英語コミュニケーション)(159)、杏林大・外国語(英語、中国語)(153)、武蔵野大・グローバル(141)、摂南大・外国語(132)などの大幅増加が影響しました。国際関係では、新設の京都産業大・国際関係(250)が前年度の外国語(国際関係)との比較で激増したことや津田塾大・学芸(多文化・国際協力)の新設に加え、既存の津田塾大・学芸(国際関係)(133)などの大幅増加が影響しました。

〔私立大 系統別志願状況〕



※前年度を100とする指数

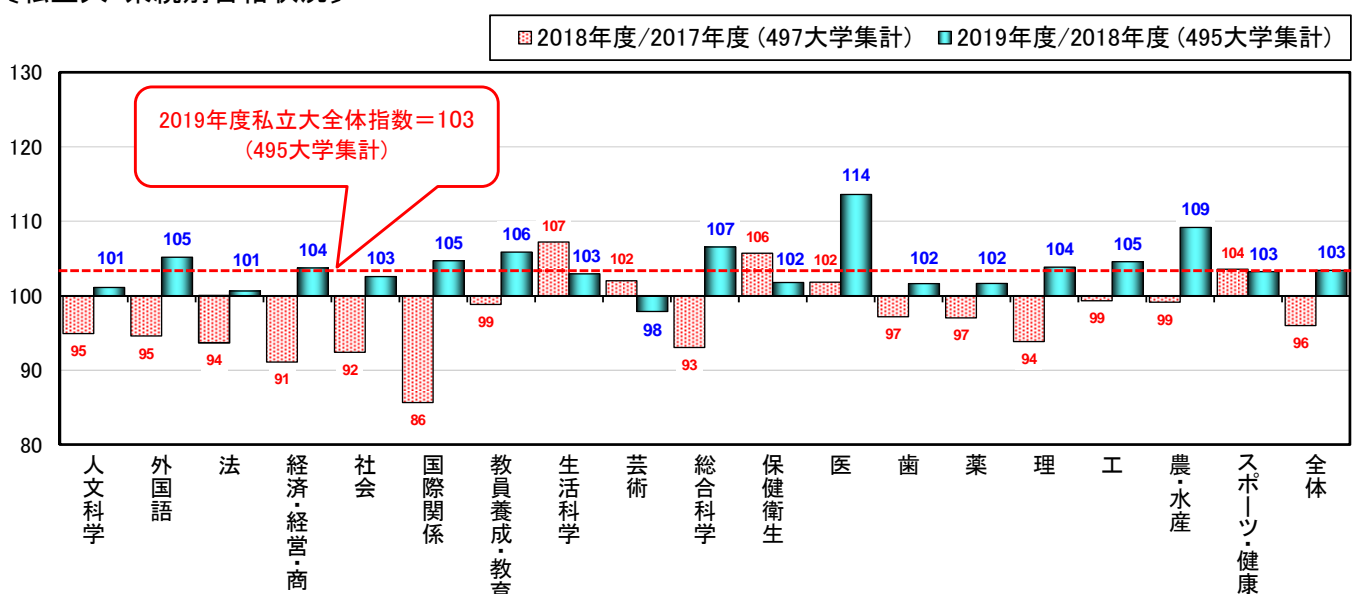
理系では、工(111)、理(106)が増加しました。AIやIoTへの注目がさらに高まっていることで、情報科学、情報工の人气がアップしていることが要因ですが、その他の主要な専攻も増加が目立ち、全体として増加傾向が継続しました。一方で、農・水産(95)は減少が継続しました。主要な専攻で減少が目立ち、特に畜産学(87)、農学(88)、獣医学(91)の減少が目立ちました。

メディカル系では、薬(92)は減少が継続し、減少率が大きくなりました。医(94)はやや減少し、保健衛生(99)も微減したことから、職業直結のメディカル系は人气がダウンしたといえます。保健衛生は、細かい専攻別では増加が目立ちましたが、医療技術(96)および系統全体の志願者数の半数以上を占める看護(98)が2019年度も新設があったにもかかわらず微減したことが系統全体の減少につながりました。

文理のいずれからも志願者がいる系統では、総合科学(120)の大幅増加が目立ちました。全系統の中で増加率が最大でしたが、これはこの系統に分類される青山学院大・コミュニティ人間科学、中央大・国際情報、武蔵野大・データサイエンスなどの新設が大きく影響しました。なお、新設のうち具体名を記した前述の3学部を除いても(113)と増加しました。

□合格者数は絞り込みが一段落し、18系統のうち芸術を除いた17系統で増加

〔私立大 系統別合格状況〕



※前年度を100とする指数

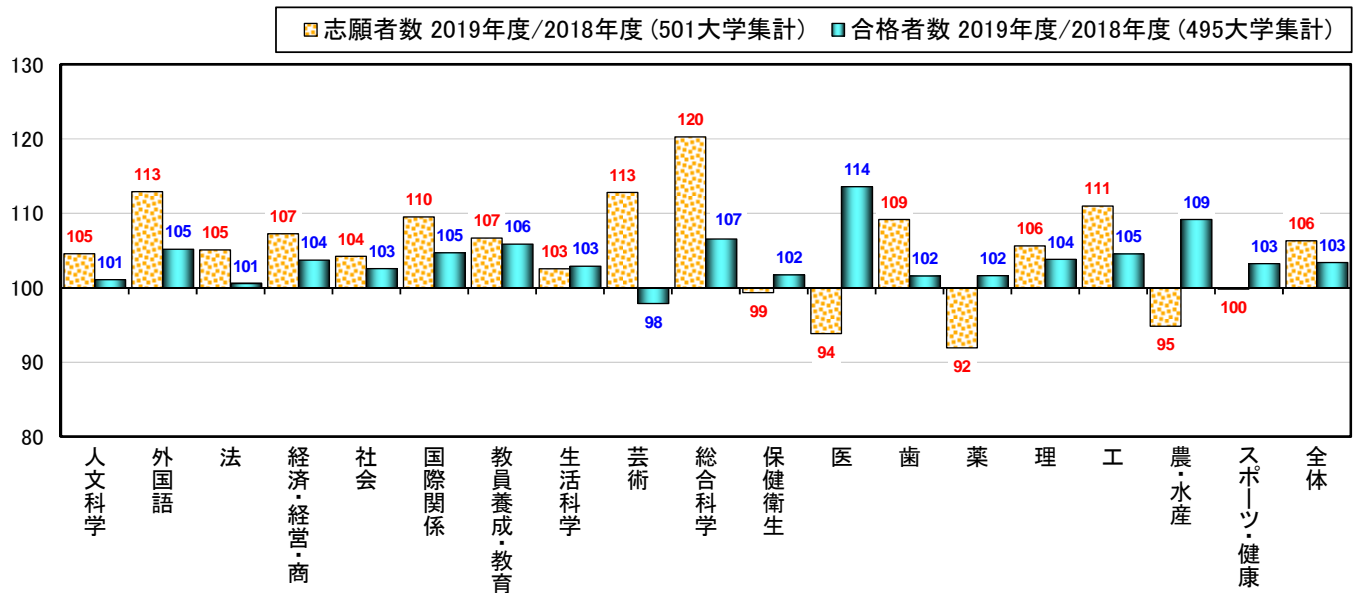
駿台が集計した私立大495大学の系統別合格者状況では、芸術(98)を除いた17系統で増加しました。全体では(103)とやや増加し、合格者数絞り込みが一段落したことがわかります。

文系は、いずれの系統も志願者数の増加率と比べると競争が厳しくなったといえますが、特に外国語(105)は厳しくなりました。しかし、前年度はどの系統も志願者指数が合格者指数より10ポイント以上大きかったことから、競争激化が一段落したといえます。

理系・メディカル系では、医(114)、農・水産(109)の増加が目立ち、いずれも競争が緩和しました。薬(102)は微増でしたが、志願者数は全系統の中で最も大きな減少率だったため、やはり競争が緩和したといえます。一方で、理(104)、工(105)はいずれもやや増加でしたが、工は志願者数が10%以上増加だったため競争は厳しくなりました。

文理のいずれからも志願者がいる系統では、総合科学(107)、教員養成・教育(106)、スポーツ・健康(103)がいずれもやや増加でしたが、志願者指数との比較から総合科学のみ競争が厳しくなったことがわかります。なお、教員養成・教育の増加は、教育を取り巻く厳しい環境下で入学者を確保するため、スポーツ・健康の増加は競合大学が増加しつつある中で入学者を確保するための合格者数増加だったといえます。

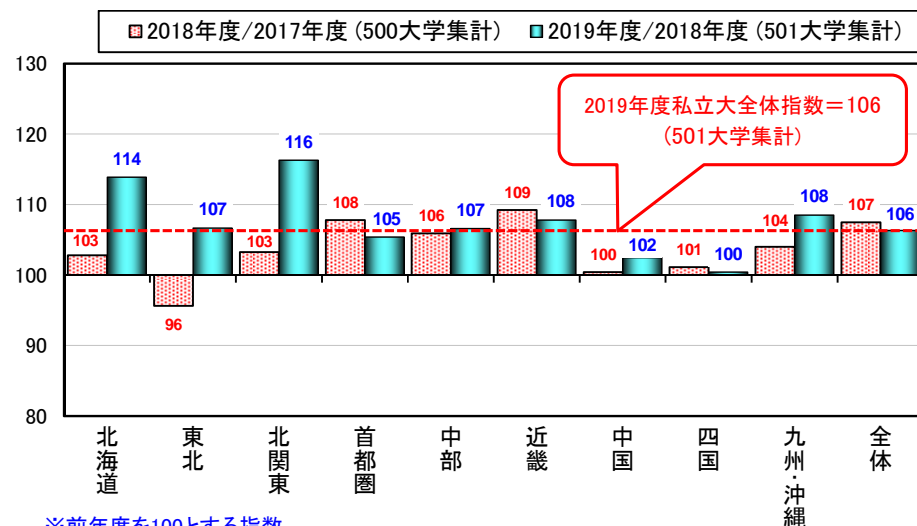
〔私立大 系統別志願・合格状況〕



※前年度を100とする指数

③地区別志願・合格状況

□志願者数は全ての地区が増加、北関東、北海道は10%以上の増加



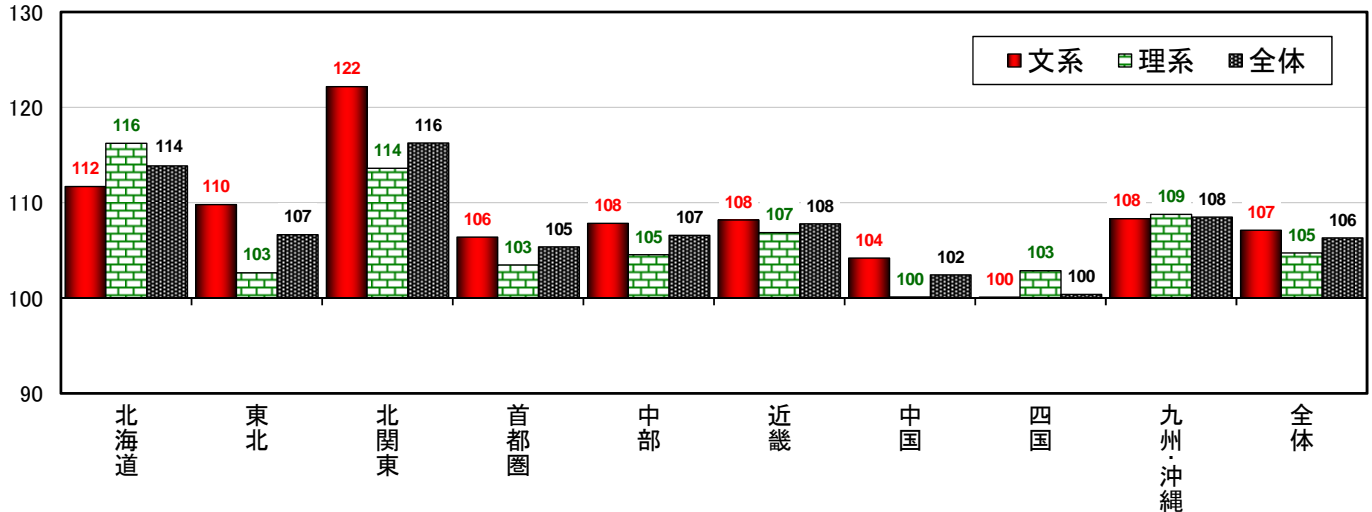
※前年度を100とする指数

志願状況を大学の所在地別に見ると、全ての地区が増加しました。

募集人員の多い大規模な総合大学が多い首都圏(105)はやや増加、近畿(108)は増加し、全体の増加数の80%以上を占めていました。また、増加率が最も大きかった北関東(116)は、集計対象の17大学中16大学が増加しました。これは、合格者数の

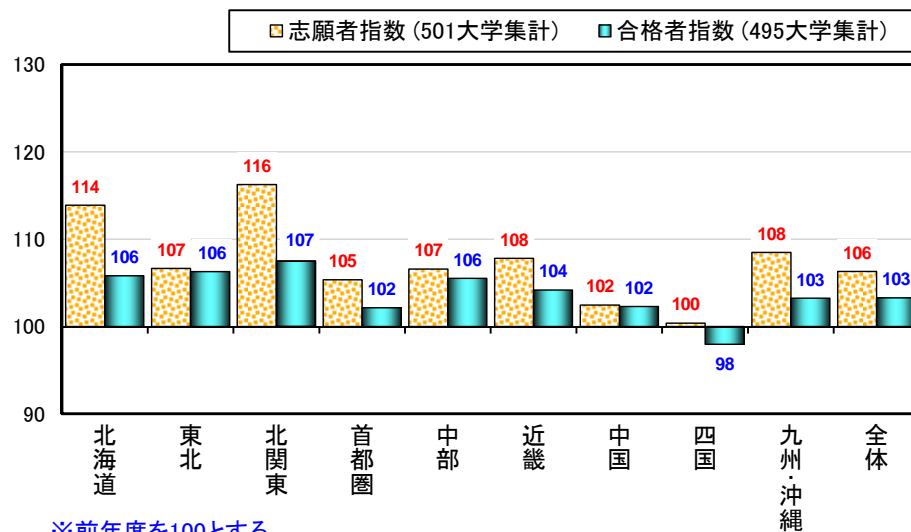
絞り込みで前年度難化した首都圏の大学からの併願先として狙われたといえます。次いで増加率が大きかった北海道(114)は、北海道科学大が1,394人(124)、2019年度から公立大に移行した千歳科学技術大が1,352人(221)といずれも大幅増加したことが地区全体の増加に大きく影響しました。

地区ごとに文理別で集計すると、全体では文系の増加率が大きい中で、北海道の理系(116)の大幅増加が目立ちました。これは、先に述べた北海道科学大、千歳科学技術大の大幅増加が影響しました。また、大規模な総合大学の多い地区では、首都圏は文理とも全体の増加率を下回りました。



※前年度を100とする指数

### □合格者数は四国以外の地区は増加だが、全体では競争が激化



※前年度を100とする

合格状況を大学の所在地別に見ると、四国(98)は微減しましたが、他の地区はいずれも増加しました。

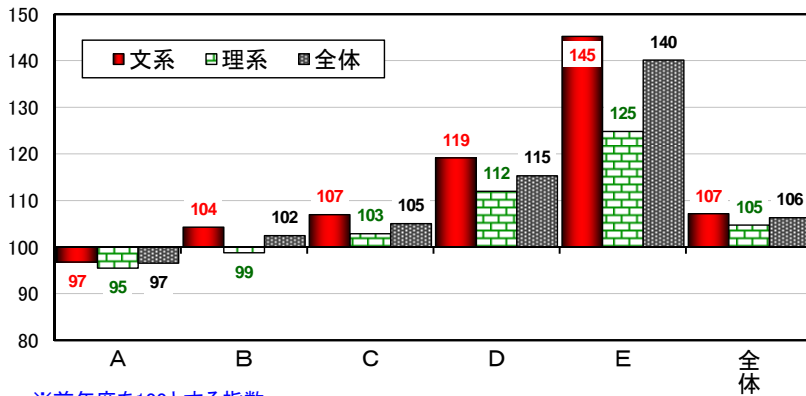
増加した8地区のうち東北(106)、中部(106)、中国(102)の3地区は、いずれも志願者数と合格者数の増加率がほぼ同じため、地区全体での競争は前年度並だったといえます。

一方で、他の5地区は志願者数増加率に比べて合格者数

増加率がはっきりと小さかったため、地区全体では競争が激化したといえます。

## ④模試合格判定ライングループ別志願者数・合格者数増減状況

□志願者数は最難関のAグループはやや減少、合格目標ラインの低いEグループは大幅増加



※前年度を100とする指数

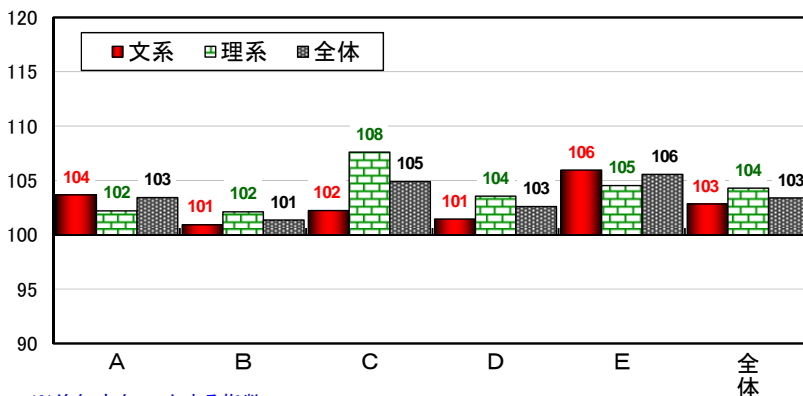
〈集計について〉  
 ※一般方式とセンター利用方式に分けて、各大学の学部単位で最もラインの高い募集区分を代表値として集計。  
 ※医学科は分けて集計。  
 〈各グループの③駿台・ベネッセマーク模試Bラインについて〉  
 Aグループ=65以上      Dグループ=50~54  
 Bグループ=60~64      Eグループ=49以下  
 Cグループ=55~59

第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの志願者数合計の前年度対比指数を示したのが左のグラフです。

Aグループは、文理とも減少したのが特徴です。Bグループは文系(104)がやや増加、理系(99)は微減の前年度並で、文理とも増加したのはCグループ以下でした。また、増加率は文理とも下位グループほど大きくなりましたが、これは近年の合格者数絞り込みによる

厳しい入試のため、より慎重な出願になったことが最大要因といえます。

□合格者数は文理とも全グループが増加し、絞り込みは一段落



※前年度を100とする指数

〈集計について〉  
 ※一般方式とセンター利用方式に分けて、各大学の学部単位で最もラインの高い募集区分を代表値として集計。  
 ※医学科は分けて集計。  
 〈各グループの③駿台・ベネッセマーク模試Bラインについて〉  
 Aグループ=65以上      Dグループ=50~54  
 Bグループ=60~64      Eグループ=49以下  
 Cグループ=55~59

志願者数と同じ基準で、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類し、各グループの合格者数合計の前年度対比指数を示したのが左のグラフです。

文系(103)、理系(104)のいずれもやや増加し、ともに全グループが増加しました。

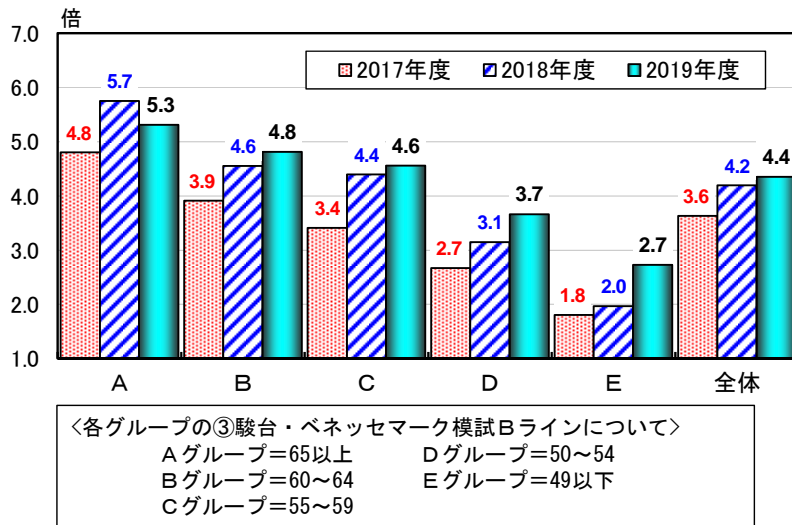
文系は、Eグループ(106)を除き増加率は大きくありませんでした。最難関のAグループ(104)はやや増加しましたが、志願者数はやや減少だったため、文系の中では唯一競争が緩和しました。

しかし、他の4つのグループはいずれも競争が厳しくなりました。特にD・Eグループは志願者数が大幅増加したため、激戦だったことがわかります。これらのグループはAO・推薦入試ですでに相当数の入学者を確保している大学が多く、一般選抜での合格者を多く発表できないことが影響しています。

理系は、Cグループ(108)を除き増加率は大きくはありませんでした。Aグループ(102)、Bグループ(102)は志願者数がいずれも減少したため、競争は緩和しました。一方で、D・Eグループでは競争が厳しくなりました。これは文系同様にAO・推薦入試ですでに相当数の入学者を確保している大学が多く、一般選抜での合格者を多く発表できなかったことが影響しています。

## ⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

### □文系は最難関のAグループは競争緩和、D・Eグループは競争激化



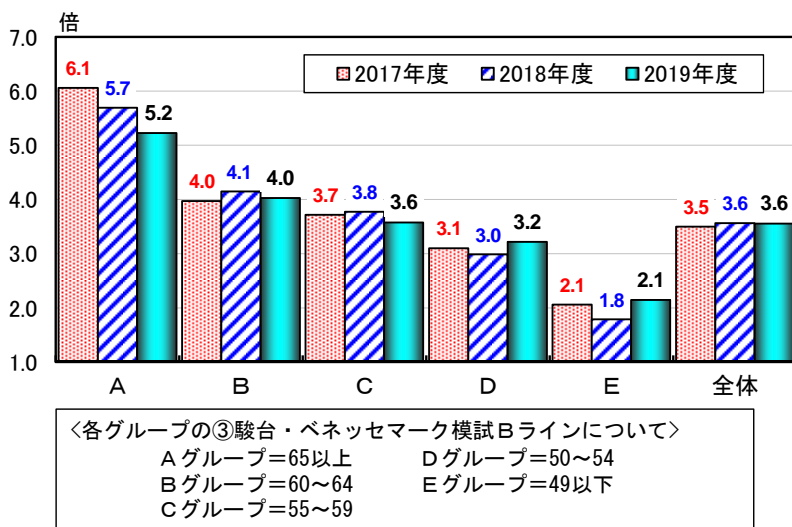
受験者数、合格者数のいずれも判明している募集単位について、学部単位(一般方式とセンター利用方式は分ける)で算出した実質倍率を、第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ~下位Eグループ)に分類して3か年分を示したのが左のグラフです。

文系は、全体では4.2倍から4.4倍と0.2ポイントアップし、競争はわずかに厳しくなりました。しかし、グループ別

では、最難関のAグループはダウンで競争が緩和しましたが、他の4つのグループはいずれもアップし競争が激化しました。特にD・Eグループのアップが顕著です。

前年度の文系は全グループがアップし、特にAグループは競争が最も厳しくなりました。2019年度入試では、合格者数絞り込みへの不安から受験生が慎重な出願になったことで、Aグループは志願者数が減少したことが要因です。一方で、前年度はアップ幅が最も小さかったEグループは、0.7ポイントアップと最も大きなアップ幅で、次いでDグループが0.6ポイントアップし、難易度の低い大学ほど競争が厳しくなったことがわかります。

### □理系はD・Eグループで競争激化



理系は、全体では前年度並の競争でした。

グループ別では、AグループからCグループまでがいずれもダウンしました。特に最難関のAグループでは、0.5ポイントと最も大きくダウンしたのが目立ちました。これは、文系同様に志願者数の減少が要因です。

一方で、Dグループが0.2ポイントアップ、Eグループが0.3ポイントアップと、文系ほどではありませんが、難易度の低い大学では競争が激しくなったこ

とわかります。

## ⑥志願者数が多い大学

### □志願者数5万人以上の大学は19大学、前年度より2大学増加

大学	志願者数		増減数	志願者指数
	2019年度	2018年度		
近畿大	154,672	156,225	-1,553	99
東洋大	122,010	115,441	+6,569	106
法政大	115,447	122,499	-7,052	94
明治大	111,755	120,279	-8,524	93
早稲田大	111,338	117,209	-5,871	95
日本大	100,853	115,180	-14,327	88
立命館大	94,198	98,262	-4,064	96
関西大	93,452	92,216	+1,236	101
中央大	92,686	88,182	+4,504	105
千葉工業大	90,876	78,905	+11,971	115
立教大	68,796	71,793	-2,997	96
東京理科大	60,593	56,566	+4,027	107
青山学院大	60,404	62,905	-2,501	96
東海大	60,360	52,022	+8,338	116
専修大	56,201	45,761	+10,440	123
龍谷大	55,444	51,802	+3,642	107
京都産業大	55,350	50,562	+4,788	109
同志社大	53,751	58,596	-4,845	92
福岡大	50,281	48,979	+1,302	103

左表は、一般選抜における大学全体の志願者数が5万人以上だった大学をまとめたものです。該当する大学は19大学で、前年度と比較すると2大学増加しました。

10万人以上だった大学は3年連続で6大学でしたが、増加したのは東洋大(106)のみでした。なお、近畿大(99)は7年ぶりに減少しましたが、6年連続で全国最多でした。明治大(93)は5年ぶりに減少、日本大(88)、法政大(94)、早稲田大(95)はいずれも4年ぶりに減少しました。増加が継続していた反動に加え、合格者数絞り込みで厳しい入試も継続していたことから、受験生が慎重になって敬遠されたことが減少の要因といえます。

19大学が大都市部の総合大学ばかりだった中では、理・工系学部のみ千葉工業大(115)が1万2千人近い大幅増加だったのが目立ちました。理・工系学部中心の大学は他大学も増加が目立ちまし

たが、千葉工業大は突出した増加数でした。これは情報科学、情報工をはじめとした理・工系の人気のアップに加え、国公立大理系のセンター試験の重い負担を嫌う層から出願校として狙われたことも影響しました。

## ⑦増減が目立った大学

### □合格者数絞り込みへの不安から慎重な出願が目立つ

一般選抜での志願者の増加数が5,000人以上だった大学、減少数が3,000人以上だった大学について見ていきます。

増加した大学では、大都市部の大規模総合大を中心とした合格者数絞り込みへの不安から、周辺の中堅大の増加が目立ちました。増加数が最も多かったのは武蔵野大の15,267人(160)で、入試改革や学部増設の影響で突出した増加数となりました。また、東京電機大(122)、千葉工業大(115)といった理・工系大学の増加数が多いことも特徴といえます。情報科学、情報工をはじめとした理・工系の人気アップに加え、国公立大理系のセンター試験における負担の重さなどもあり、科目負担の少ない併願校として狙われたことが影響したといえます。

減少数が多かった大学では、日本大の14,327人(88)が突出していますが、3,000人以上減少した大学が10大学も見られ、私立大全体の増加率が7%以上だった過去2年間の減少数最多大学がいずれも2,500人未満だったことと対照的な状況です。また、前年度合格者数の絞り込みが多かった大学を中心として慎重な出願による志願者数減少が見られ、早稲田大、上智大、法政大、明治大、同志社大、立命館大、関西学院大といった大都市部の難関大での減少が目立ちました。

## [5,000人以上増加した大学]

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2019年度	2018年度	
武蔵野大	+15,267	160	40,713	25,446	受験料割引を拡大したセンター利用方式(213)の大幅増加、データサイエンスの新設、経済(経営)の改組による経営の新設が影響。
千葉工業大	+11,971	115	90,876	78,905	理・工系の人気アップに加えて、国公立大理系のセンター試験の重い負担を嫌う層から出願校として狙われたことも影響。学部別では、社会システム(124)の大幅増加が目立つが、他の学部も全て10%以上のはっきりとした増加。
専修大	+10,440	123	56,201	45,761	4年連続増加。大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われたことが影響し、新設の経営(ビジネスデザイン)を除いても(118)の大幅増加。学部別では、人間科学(91)、法二(96)の2学部を除き、他の学部はいずれも増加。
東海大	+8,338	116	60,360	52,022	4年連続増加。19学部中18学部で増加し、10学部が大幅増加。〈文系・理系学部統一〉の日程増設や英語外部試験利用などの入試改革、大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われたことが影響。
桜美林大	+7,882	169	19,314	11,432	一般前期3科目センタープラスの新設、リベラルアーツ学科の一般前期理科2科目型の試験日自由選択制の選択日の増加、一般前期理系3科目型センター試験プラスの実施といった入試改革により増加。
神戸学院大	+7,319	139	26,027	18,708	2年連続大幅増加で7年連続増加。学部別では、薬(90)を除いた9学部が増加。文系学部はいずれも大幅増加で、特に〈一般前期〉および〈一般中期〉で文系学部併願制度の対象となったグローバル・コミュニケーション(232)は激増。
大阪商業大	+6,718	357	9,336	2,618	3.5倍以上の激増で4年連続増加。受験料を一般方式は32,000円→10,000円、センター利用方式は14,000円→5,000円の大幅値下げに加え、〈B日程〉の試験日自由選択制導入等の入試改革の影響。
大阪経済法科大	+6,570	164	16,874	10,304	大幅増加で7年連続増加。経済(経営)の改組による経営の新設に加えて、入試改革も影響。
東洋大	+6,569	106	122,010	115,441	5年連続増加で志願者数は12万人台となり、近畿大に次ぐ多さとなった。大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われたことが影響。学部別では、経済(83)、社会(96)の2学部を除き、他の学部はいずれも増加。
摂南大	+6,106	119	38,512	32,406	6年連続増加。大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われたことが影響。学部別では、看護(81)、薬(87)を除いた5学部がいずれも大幅増加。
桃山学院大	+5,840	161	15,415	9,575	大幅増加で8年連続増加。経営(ビジネスデザイン)の新設に加えて、大規模総合大の合格者絞り込みへの不安から併願先として狙われたことが影響。既設の学部・学科全てで大幅増加。
東京電機大	+5,065	122	28,221	23,156	理・工系の人気アップに加えて、国公立大理系のセンター試験の重い負担を嫌う層から出願校として狙われたこと、一般方式〈英語外部〉を新規実施したことが影響。

## 〔3,000人以上減少した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2019年度	2018年度	
日本大	-14,327	88	100,853	115,180	大学を取り巻く厳しい環境から4年ぶりに減少。学部別では、商(119)、歯(109)、法二(102)のみ増加。薬(72)、スポーツ科学(77)、理工(78)、経済(80)、国際関係(83)、危機管理(83)、生物資源科学(84)、芸術(85)など、大幅減少した学部が目立った。
明治大	-8,524	93	111,755	120,279	合格者数絞り込みが継続したことで受験生から敬遠され、5年ぶりに減少。学部別では、総合数理(122)、商(111)以外の学部は減少。特に政治経済(70)の大幅減少が目立った。
法政大	-7,052	94	115,447	122,499	合格者数絞り込みが継続したことで受験生から敬遠され、4年ぶりに減少。学部別には、経営(72)、社会(81)が大幅減少。
早稲田大	-5,871	95	111,338	117,209	最難関大を敬遠する傾向と合格者数絞り込みが継続したことから4年ぶりに減少。方式別では、センター利用方式(112)は2年ぶりに増加したが、一般方式(92)は4年ぶりに減少。学部別では、国際教養(109)、法(108)のみ増加。
同志社大	-4,845	92	53,751	58,596	合格者数絞り込みが継続したことで受験生から敬遠され、4年ぶりに減少。学部別では10学部で減少し、特に、政策(68)、コミュニケーション・グローバル(73)、経済(75)、文化情報(83)の大幅減少が目立った。
立命館大	-4,064	96	94,198	98,262	合格者数絞り込みが継続したことで受験生から敬遠され、6年ぶりに減少。学部別では9学部が減少し、特に、薬(78)、経済(82)、情報理工(84)は大幅減少。
関西学院大	-3,478	92	38,826	42,304	合格者数絞り込みが継続したことで受験生から敬遠され、2年連続減少。学部別では、経済(69)、人間福祉(73)、商(81)、国際(81)が大幅減少。
国士館大	-3,272	87	21,335	24,607	合格者数が過去2年間合計で2千人近く絞り込まれたことで受験生から敬遠され、4年ぶりに減少。方式別では、一般方式(101)は前年度並だったが、センター利用方式(68)は大幅減少。学部別では、経営が2,403人(55)の大幅減少。
上智大	-3,265	90	27,916	31,181	前年度の合格者数大幅絞り込みにより受験生から敬遠され、3年ぶりに減少。学部別では、神(121)、法(104)を除く、6学部で減少。方式別では、〈学科別〉(90)、〈TEAP利用型〉(86)といずれも減少し、〈学科別〉は2年連続減少。
明治学院大	-3,240	89	26,474	29,714	前年度の合格者数大幅絞り込みにより受験生から敬遠され、3年ぶりに減少。方式別では、一般方式(93)はやや減少だが、センター利用方式(83)は大幅減少。学部別では、文(65)、経済(77)の大幅減少が目立った。

## ⑧主要私立22大学 入試結果概況

### □志願者数は13大学が減少、22大学合計では5年ぶりに減少

大学	2019年度			2018年度			増減数			前年度対比指数		
	募集人員	志願者数	合格者数	募集人員	志願者数	合格者数	募集人員	志願者数	合格者数	募集人員指数	志願者指数	合格者指数
青山学院大	3,045	60,404	8,136	2,919	62,905	7,313	+126	-2,501	+823	104	96	111
学習院大	1,315	19,143	3,756	1,315	20,447	3,526	±0	-1,304	+230	100	94	107
慶應義塾大	3,758	41,875	8,797	3,758	43,301	8,817	±0	-1,426	-20	100	97	100
駒澤大	2,489	48,715	7,093	2,489	44,815	8,550	±0	+3,900	-1,457	100	109	83
上智大	1,777	27,916	4,765	1,782	31,181	5,085	-5	-3,265	-320	100	90	94
専修大	2,597	56,201	8,355	2,602	45,761	8,437	-5	+10,440	-82	100	123	99
中央大	4,397	92,686	17,059	4,255	88,182	15,198	+142	+4,504	+1,861	103	105	112
東京理科大	2,737	60,593	15,539	2,723	56,566	15,833	+14	+4,027	-294	101	107	98
東洋大	5,642	122,010	23,868	5,664	115,441	21,504	-22	+6,569	+2,364	100	106	111
日本大	7,805	100,853	28,689	7,804	115,180	29,370	+1	-14,327	-681	100	88	98
法政大	4,243	115,447	17,896	4,276	122,499	17,548	-33	-7,052	+348	99	94	102
明治大	5,387	111,755	22,040	5,413	120,279	21,216	-26	-8,524	+824	100	93	104
立教大	3,108	68,796	11,218	3,107	71,793	10,452	+1	-2,997	+766	100	96	107
早稲田大	5,415	111,338	14,566	5,555	117,209	14,532	-140	-5,871	+34	97	95	100
京都産業大	1,937	55,350	8,708	1,847	50,562	6,118	+90	+4,788	+2,590	105	109	142
同志社大	3,792	53,751	15,232	3,790	58,596	16,143	+2	-4,845	-911	100	92	94
立命館大	4,755	94,198	27,387	4,804	98,262	24,995	-49	-4,064	+2,392	99	96	110
龍谷大	2,533	55,444	10,366	2,533	51,802	9,465	±0	+3,642	+901	100	107	110
関西大	3,774	93,452	16,789	3,782	92,216	16,160	-8	+1,236	+629	100	101	104
近畿大	4,961	154,672	27,893	4,961	156,225	25,874	±0	-1,553	+2,019	100	99	108
関西学院大	3,361	38,826	9,304	3,351	42,304	9,882	+10	-3,478	-578	100	92	94
甲南大	1,347	22,891	4,329	1,342	19,786	4,470	+5	+3,105	-141	100	116	97
22大学合計	80,175	1,606,316	311,785	80,072	1,625,312	300,488	+103	-18,996	+11,297	100	99	104

主要私立22大学(上表参照)合計の一般選抜の延べ志願者数は、5年ぶりに減少しました。2018年度入試では慶應義塾大、関西学院大を除いた20大学で増加し、22大学合計では4年連続増加でしたが、2019年度(99)は微減でした。定員管理の厳格化による合格者数絞り込みで、厳しい入試が続いたことから、一般選抜での出願は慎重になったことがうかがえ、増加傾向が一段落したといえます。

増加した大学は、駒澤大(109)、専修大(123)、中央大(105)、東京理科大(107)、東洋大(106)、京都産業大(109)、龍谷大(107)、関西大(101)、甲南大(116)の9大学に留まりました。この結果から、主要私立22大学では難関大が減少したのに対し、難関大に次ぐ大学は併願先として狙われて増加したことが特徴といえます。

東洋大は5年連続増加となり、志願者数が初めて12万人を上回りました。これは、前年度同様に新規実施の募集方式や試験日を1日増やした募集単位が多かったことが要因でした。

中央大の増加は、国際経営、国際情報の2学部新設が要因でしたが、既存の6学部のみでは(91)と減少しました。

慶應義塾大(97)、関西学院大(92)は2年連続減少しました。近畿大(99)は7年ぶりに減少しましたが、志願者数は6年連続で全国最多でした。また、立命館大(96)は6年ぶりに、青山学院大(96)、明治大(93)は5年ぶりに、学習院大(94)、日本大(88)、法政大(94)、早稲田大(95)、同志社大(92)は4年ぶりに、上智大(90)、立教大(96)は3年ぶりにいずれも減少しました。

### □合格者数は13大学で増加、絞り込みは一段落し競争緩和の大学が目立つ

合格者数は半数以上の13大学で増加し、主要私立22大学合計(104)ではやや増加しました。前年度は日本大の1大学のみの増加だった結果とは対照的で、合格者数絞り込みが一段落しました。

志願者数が減少した13大学も、合格者数増加あるいは志願者数減少率より合格者数減少率が小さいため、

いずれも競争が緩和したことがわかります。また、志願者数増加の9大学の中でも、京都産業大(142)、中央大(112)、東洋大(111)、龍谷大(110)、関西大(104)の5大学はいずれも合格者数増加率の方が大きく、競争が緩和したといえます。特に京都産業大は志願者指数より33ポイントも大きかったため、競争が大幅に緩和しました。また、中央大は新設の2学部を除いた既存6学部の合格者数合計(104)ではやや増加でしたが、既存6学部の志願者数合計(91)は10%近い減少だったため、競争がはっきりと緩和したことがわかります。

一方で、駒澤大(83)、専修大(99)、東京理科大(98)、甲南大(97)は、いずれも志願者数増加にもかかわらず、合格者数を絞り込んだため競争が激化しました。中でも駒澤大、専修大、甲南大は、いずれも合格者指数が志願者指数より20ポイント前後も小さく、特に競争が厳しくなったことがわかります。

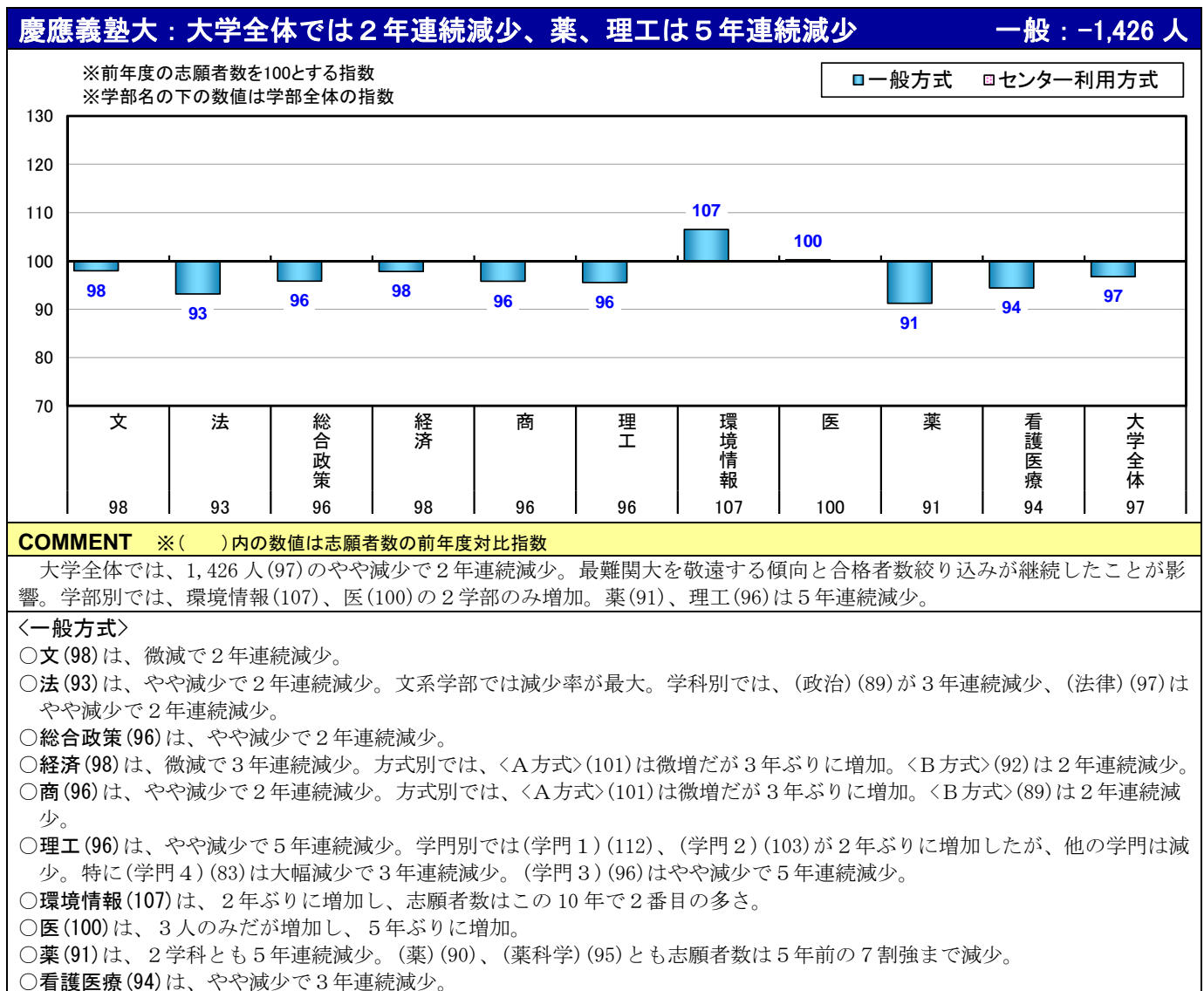
弱気になって慎重な出願が多くなった結果、思わぬ激戦に巻き込まれた受験生が多かったことを象徴しているのが、主要私立22大学の入試だったといえます。

## ⑨大学別志願状況

※入試変更点があった学部・学科、増減が目立った学部・学科を中心に分析しています。

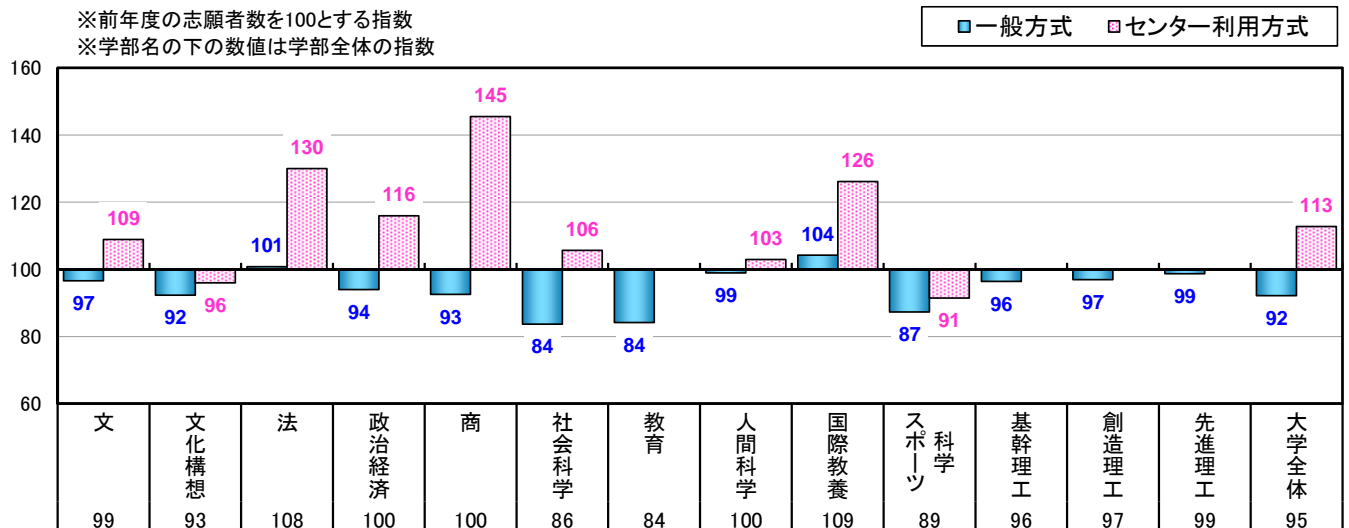
※各大学名の一番右にある人数は、一般方式、センター利用方式の各合計での志願者増減数を表しています。

※〈 〉内は入試方式を表しています。〈セ〉と表記されている方式はセンター利用方式を表しています。



**早稲田大：大学全体では4年ぶりに減少**

**一般：-7,968人 センター：+2,097人**



**入試変更点** 選抜方法：文、文化構想<英語4技能利用>…対象試験にケンブリッジ英検、GTEC CBT、英検 CBT 追加  
IELTS のスコア変更  
募集人員：教育(英語英文)…100人→80人、(国語国文)…100人→80人、(社会)…185人→145人  
(理)…60人→50人、(数学)…55人→45人、(複合文化)…50人→40人  
(教育/教育、生涯教育、教育心理)…125人→100人、(教育/初等教育)…25人→20人

**COMMENT ※ ( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、5,871人(95)のやや減少で4年ぶりに減少。最難関大を敬遠する傾向と合格者数絞り込みが継続したことが影響。方式別では、センター利用方式(113)は2年ぶりに増加したが、一般方式(92)は4年ぶりに減少。学部別では、国際教養(109)、法(108)のみ増加。

**<一般方式>**

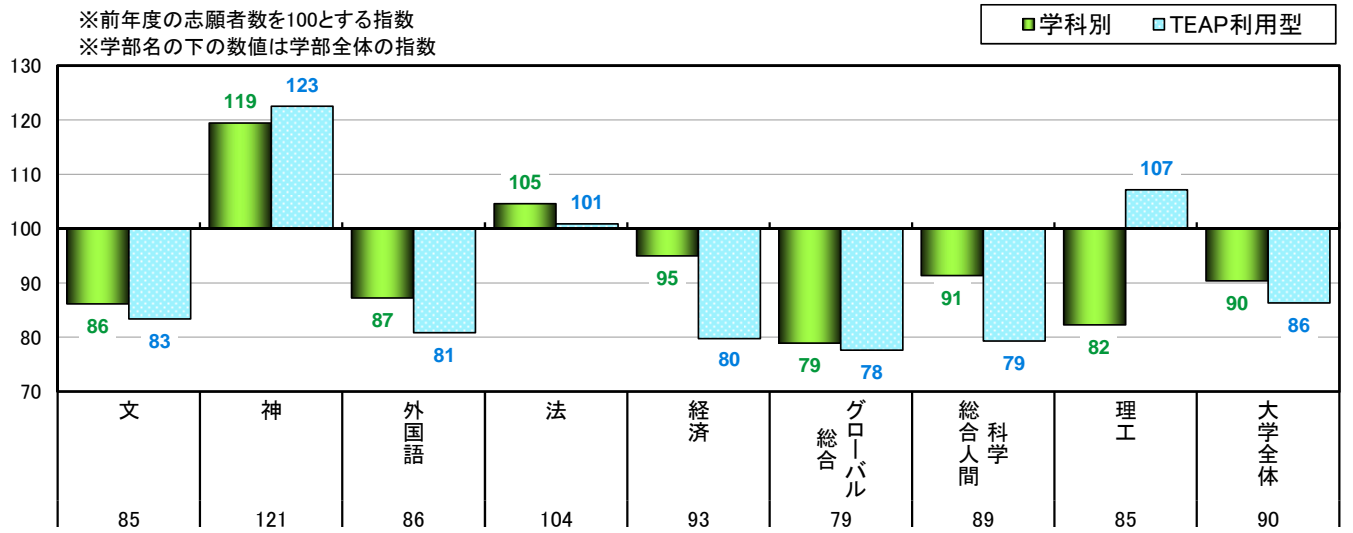
- 文(97)は、やや減少で4年ぶりに減少。方式別では、対象試験拡大の<英語4技能>(120)が大幅増加で2年連続増加。
- 文化構想(92)は、4年ぶりに減少。方式別では、対象試験拡大の<英語4技能>(112)が増加で2年連続増加、<一般>(90)は2年連続減少と対照的。
- 法(101)は、微増だが2年連続増加。
- 政治経済(94)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(経済)(103)はやや増加で3年ぶりに増加。一方、(国際政治経済)(74)は大幅減少で4年ぶりに減少し、(政治)(93)は前年度大幅減少の反動はなく2年連続減少。
- 商(93)は、2年連続減少。
- 社会科学(84)は、大幅減少で3年ぶりに減少。
- 教育(84)は、大幅減少で6年ぶりに減少したが、募集人員も指定校推薦導入により、学部合計で20%減少のため、大幅な競争緩和は見られない。学科・専攻・専修別で増加したのは、(教育/教育心理)(131)、(教育/初等教育)(123)、(複合文化)(105)のみ。(理/地球科学)(56)、(教育/教育)(68)、(国語国文)(72)、(社会/地理歴史)(75)、(社会/公共市民)(76)、(教育/生涯教育)(82)は大幅減少。
- 人間科学(99)は、微減だが4年ぶりに減少。学科別では、(人間情報科学)(110)が4年ぶりに増加し、(人間環境科学)(105)は5年連続増加。一方、(健康福祉科学)(86)は4年ぶりに減少。
- 国際教養(104)は、やや増加で6年ぶりに増加。
- スポーツ科学(87)は、4年ぶりに減少。
- 基幹理工(96)は、やや減少で2年連続減少。系別では、(学系I)(109)が3年ぶりに増加し、(学系III)(106)はやや増加で3年連続増加。一方、(学系II)(92)は2年連続減少。
- 創造理工(97)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(環境資源工)(143)の大幅増加、(経営システム工)(75)の大幅減少が目立ち、いずれも前年度の増減の反動がはっきりと表れている。
- 先進理工(99)は、微減だが4年連続減少。学科別では、(電気・情報生命工)(110)が5年連続増加し、(化学・生命化学)(105)はやや増加で2年ぶりに増加。(応用物理)(103)もやや増加で3年連続増加。他の3学科はいずれも減少が継続。

**<センター利用方式>**

- 文(109)は、2年連続増加。方式別では、<センターのみ>(135)が大幅増加、<セ・併用>(87)は減少といずれも前年度と逆の増減。
- 文化構想(96)は、やや減少で2年ぶりに減少。方式別では、<センターのみ>(113)が2年連続増加、<セ・併用>(86)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 法(130)は、大幅増加で2年連続増加。
- 政治経済(116)は、大幅増加で2年ぶりに増加。3学科とも2年ぶりに増加。特に(国際政治経済)(128)は大幅増加し、志願者数はこの5年で最多。
- 商(145)は、大幅増加で2年連続増加し、志願者数は2009年度以来10年ぶりの3,000人台。
- 社会科学(106)は、やや増加で2年ぶりに増加。
- 国際教養(126)は、前年度半減の反動で大幅増加。
- スポーツ科学(91)は、3年ぶりに減少。方式別では、<セ・併用>(84)が3年連続増加の反動で大幅減少。

**上智大：大学全体では3年ぶりに減少、増加は神、法の2学部のみ**

一般：-3,265人



入試変更点 募集人員：外国語(英語)<学科別>…88人→83人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

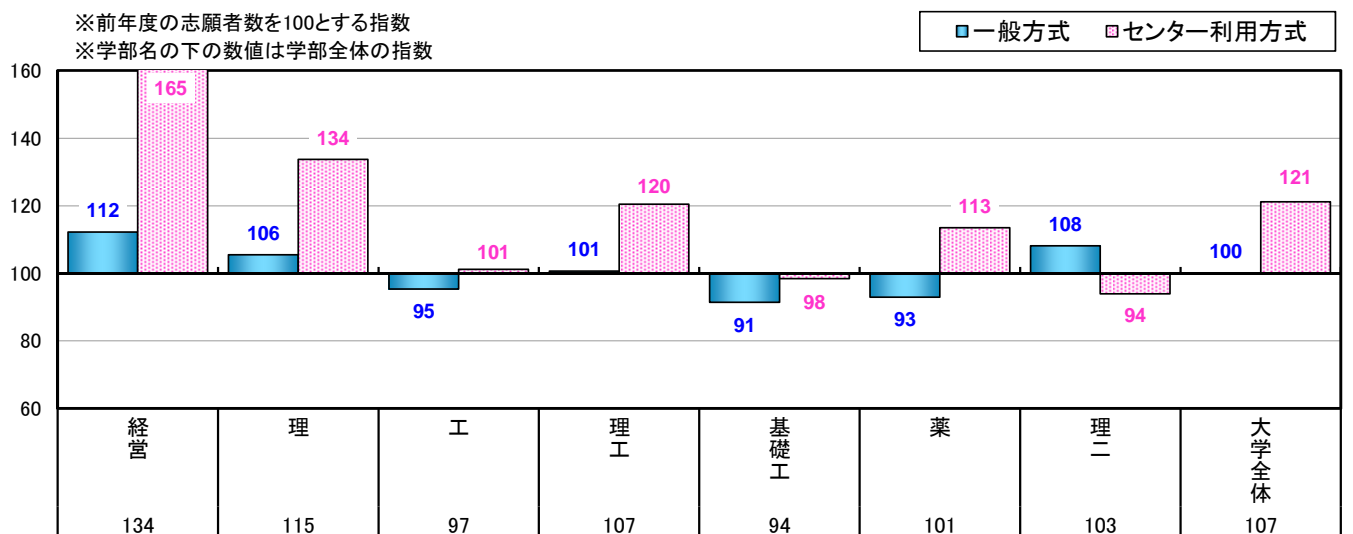
大学全体では、3,265人(90)の減少で3年ぶりに減少。学部別で増加したのは、神(121)、法(104)の2学部のみ。方式別でも<学科別>(90)、<TEAP利用型>(86)といずれも減少し、<学科別>は2年連続減少。<TEAP利用型>では、神、法、理工は増加が継続したが、他の5学部は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

**<一般方式>**

- 文(85)は、大幅減少で3年ぶりに減少。学科別では、(フランス文)(117)が<学科別><TEAP利用型>の2方式(以下「2方式」)とも増加で大幅増加だが、他の学科は(哲)(99)を除きいずれも大幅減少。
- 外国語(86)は、2年連続大幅増加の反動で減少。学科別で増加したのは、(フランス語)(128)、(スペイン語)(101)のみ。(ドイツ語)(57)、(英語)(76)は2方式とも大幅減少。
- 法(104)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(地球環境法)(138)のみ大幅増加で2年連続増加。(国際関係法)(95)はやや減少で2年連続減少。(法律)(97)もやや減少だが、前年度大幅増加の反動は小さかった。
- 経済(93)は、やや減少で3年ぶりに減少。学科別では、(経営)(91)は3年ぶりの減少で、(経済)(97)はやや減少で2年連続減少。
- 総合グローバル(79)は、2年連続増加の反動で大幅減少。方式別でも、<TEAP利用型>(78)は2年連続大幅増加の反動、<学科別>(79)は3年連続増加の反動でいずれも大幅減少。
- 総合人間科学(89)は、2年連続減少。学科別では、(社会福祉)(105)、(看護)(101)が増加し、(教育)(67)は大幅減少。
- 理工(85)は、大幅減少。前年度4年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。3学科とも減少し、(物質生命理工)(81)、(機能創造理工)(84)は大幅減少。

**東京理科大学：大学全体では3年連続増加**

一般：+35人 センター：+3,992人



**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,027人(107)のやや増加で3年連続増加。一般方式は35人(100)の微増で、<B方式>は394人(99)の微減だが、<グローバル>は実施2年目で周知され429人(130)の大幅増加。センター利用方式は3,992人(121)の大幅増加で、<A方式>が2,288人(114)、<C方式>は1,704人(157)といずれも大幅増加。学部別では、経営(134)、理(115)が大幅増加。

<一般方式>

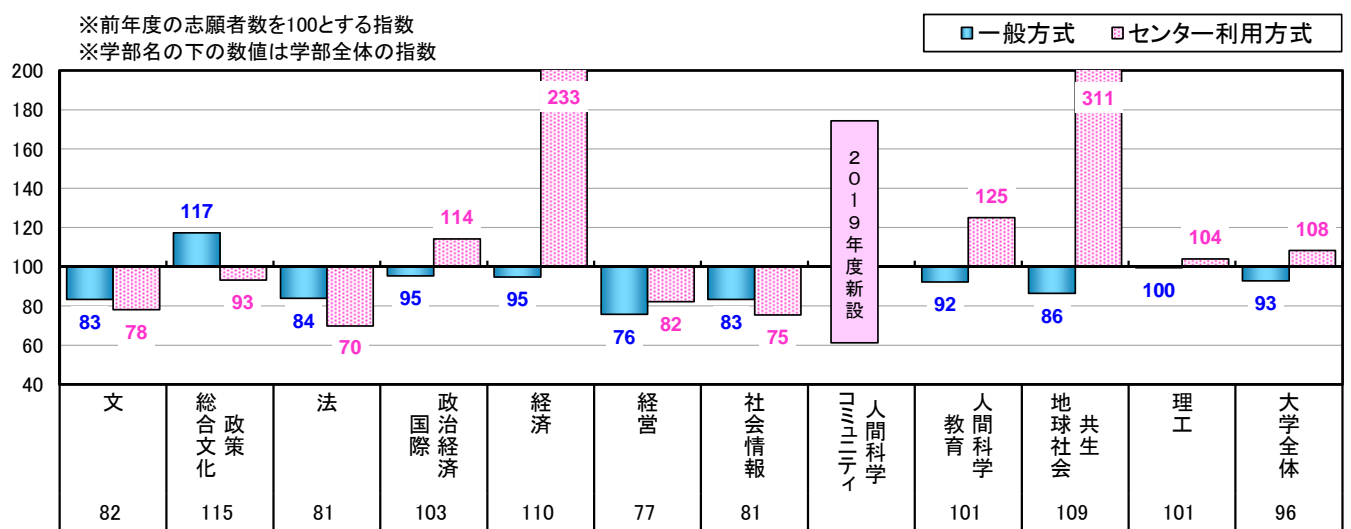
- 経営(112)は、前年度減少の反動で増加。学科別では、(経営)(122)は大幅増加の一方で、(ビジネスエコノミクス)(93)はやや減少。
- 理(106)は、やや増加で7年ぶりに増加に転じた。学科別では、(数学)(94)を除いた学科が増加したが、特に(応用数学)(119)、(応用物理)(116)の大幅増加が目立った。
- 工(95)は、やや減少。学科別では、(情報工)(111)が3年連続増加、(工業化学)(79)は大幅減少。
- 理工(101)は、前年度並。学科別では、(数学)(115)、(物理)(115)の大幅増加が目立った。
- 基礎工(91)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科別でも、3学科全てが減少。
- 薬(93)は、2年連続増加の反動でやや減少。学科別では、(薬)(90)が減少。

<センター利用方式>

- 経営(165)は、2年連続大幅増加。学科別では、(経営)(204)が2年連続減少の反動でほぼ倍増。
- 理(134)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、全ての学科が増加し、中でも(応用数学)(214)、(応用物理)(204)、(化学)(151)の大幅増加が目立った。
- 工(101)は、前年度増加の反動はなく微増。学科別では、(情報工)(127)、(電気工)(123)が大幅増加の一方、(機械工)(83)が大幅減少。
- 理工(120)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(情報科学)(97)を除いた学科が増加し、(機械工)(141)、(経営工)(136)、(数学)(134)、(建築)(131)、(先端化学)(127)、(物理)(119)と大幅増加の学科が多い。
- 薬(113)は、前年度減少の反動で増加。学科別では、(生命創薬科学)(134)が大幅増加。

青山学院大：大学全体では5年ぶりに減少

一般：-3,568人 センター：+1,067人



入試変更点

学部新設：コミュニティ人間科学  
 選抜方法：文(英米文)〈個別C〉…英語外部試験を得点換算としても利用  
 総合文化政策〈個別B〉…英語外部試験のスコア変更、対象試験にGTEC4技能追加  
 経済〈個別B〉…英語外部試験利用不可に  
 募集人員：経済〈個別B〉…(経済)10人→30人、(現代経済デザイン)5人→15人  
 地球社会共生〈個別A〉…30人→25人、〈個別B〉…30人→25人、〈全学部〉…40人→50人  
 入試科目：経済〈個別B〉…外語追加、数が選択から必須に、国、歴公除外  
 試験時間：地球社会共生〈個別B〉…論の試験時間80分→60分

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,501人(96)のやや減少で5年ぶりに減少。新設のコミュニティ人間科学を除くと、3,900人(94)のやや減少。減少の経営(77)、法(81)、社会情報(81)、文(82)は全て大幅減少。方式別では、一般方式は3,568人(93)のやや減少、センター利用方式は1,067人(108)の増加。

<一般方式>

- 文(83)は、大幅減少。英語外部試験を出願要件から得点換算としても利用する(英米文)〈個別C〉(98)は、前年度2倍以上の大幅増加の反動から微減。
- 総合文化政策(117)は、大幅増加で2年連続増加。
- 法(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。〈個別A〉(82)、〈個別B〉(83)は大幅減少、〈全学部〉(90)が減少。
- 経済(95)は、やや減少で3年ぶりに減少。方式別では、英語外部試験利用を不可にし、入試科目を外+数に変更、募集人員が増加した〈個別B〉(574)が2年連続激増。一方、〈個別A〉(81)は大幅減少。学科別では、2学科とも減少し、特に(現代経済デザイン)(84)が大幅減少。
- 経営(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(経営)(62)は4つの募集単位全てが大幅減少。一方、(マーケティング)(129)は大幅増加。2学科とも前年度の大幅な増減の反動。
- 社会情報(83)は、大幅減少で2年連続減少。方式別では、〈全学部A〉(105)がやや増加したが、他の方式は大幅減少。
- 新設のコミュニティ人間科学は、方式別の志願倍率は〈個別A〉が9.0倍、〈個別B〉が18.9倍、〈個別C〉は45.2倍、〈全学部〉は11.2倍。

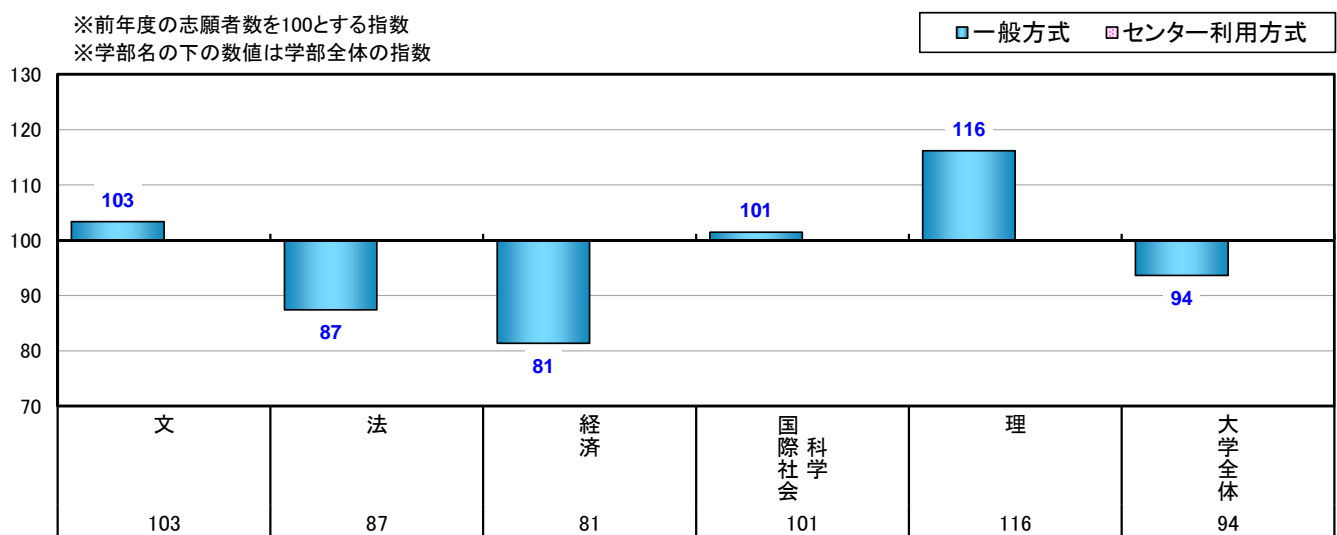
- 地球社会共生(86)は、2年連続大幅減少。募集人員減少の<個別A>(65)は大幅減少、<個別B>(86)は減少、募集人員増加の<全学部>(132)は大幅増加。
- 理工(100)は、前年度減少の反動はなく前年度並。学科別では、前年度の反動で(電気電子工)(112)が増加、(物理・数理)(93)、(情報テクノロジー)(97)はやや減少、

<センター利用方式>

- 文(78)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、比較芸術(111)を除く4学科が大幅減少。特に(フランス文)(62)は前年度激増の反動で減少率最大。
- 総合文化政策(93)は、前年度減少の反動はなく、3年連続減少。
- 法(70)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 国際政治経済(114)は、2年連続増加。学科別では、(国際経済)(131)が2年連続大幅増加。
- 経済(233)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(現代経済デザイン)(440)、(経済)(136)が大幅増加。
- 経営(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(経営)(76)が前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 社会情報(75)は、3年連続大幅減少。
- 教育人間科学(125)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(教育)(142)が大幅増加、(心理)(106)は2年連続やや増加。
- 地球社会共生(311)は、前年度大幅減少の反動で3倍以上の激増。
- 理工(104)は、前年度大幅減少の反動でやや増加。学科別では、(機械創造工)(88)、(化学・生命科学)(88)は2年連続大幅減少したが、他の4学科はいずれも増加。

学習院大：大学全体では4年ぶりに減少

一般：-1,304人



入試変更点 配点：国際社会科学<コア>…外200点→150点、<プラス>…外200点→150点  
選抜方法：国際社会科学<プラス>…英語外部試験の対象試験に TEAP CBT 追加

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

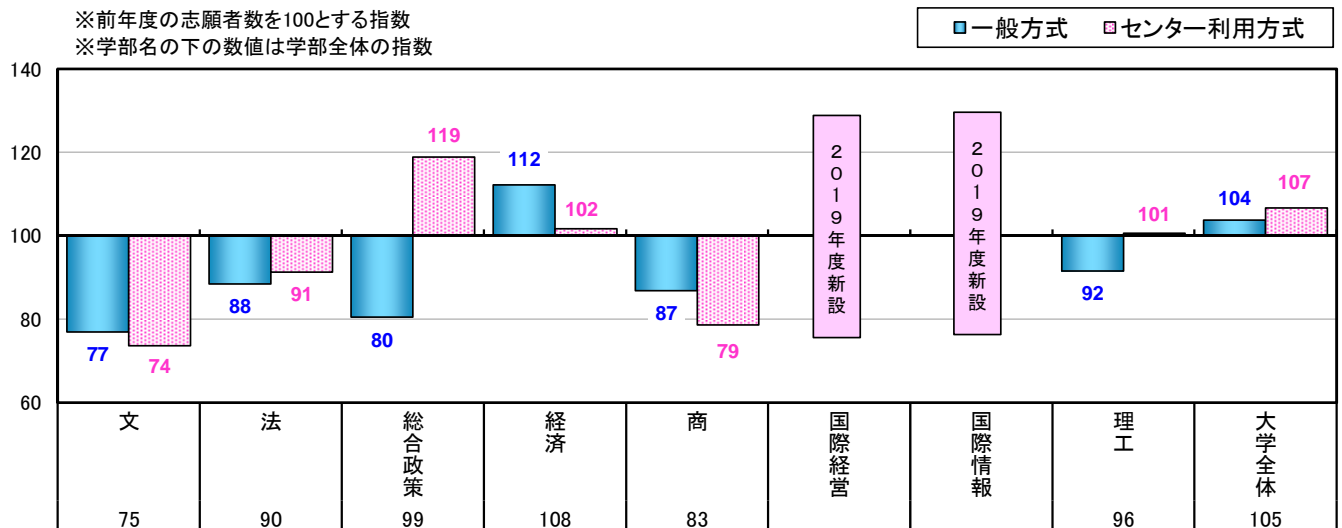
大学全体では、1,304人(94)の減少で4年ぶりに減少。文系学部はいずれも前年度と逆の増減だが、前年度大幅増加の法(87)、経済(81)の減少が大学全体の減少につながった。

<一般方式>

- 文(103)は、やや増加。学科別では、(英語英米文化)(128)が大幅増加、(心理)(113)は増加。一方で、(ドイツ語圏文化)(62)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。(フランス語圏文化)(79)は、2年連続大幅減少。
- 法(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。2学科とも減少し、(政治)(77)は大幅減少。
- 経済(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2学科ともに大幅減少。
- 国際社会科学(101)は、前年度並。英語外部試験の対象試験拡大の<プラス>(178)は激増。
- 理(116)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(物理)(141)、(化学)(132)が大幅増加。

中央大：国際経営、国際情報新設で2年連続増加

一般：+1,785人 センター：+2,719人



**入試変更点**

出願方法：インターネット出願のみに変更  
 学部新設：国際経営、国際情報  
 選抜方法：文、総合政策、経済<英語外部検定試験利用>…スコア変更  
 募集人員：商(フリーメジャー) <統一>…73人→65人、<セ・併用A><セ・併用B>…各20人→各10人  
 (会計/フレックス)<セ・前期4教科>…20人→10人、<セ・前期3教科>…30人→10人、  
 <セ・後期>…10人→5人  
 (経営/フレックス)(商業・貿易/フレックス)<セ・前期4教科>…各16人→各10人、  
 <セ・前期3教科>…各25人→各10人、  
 <セ・後期>…各8人→各5人  
 (金融/フレックス)<セ・前期4教科>…8人→6人、<セ・前期3教科>…10人→6人、  
 <セ・後期>…4人→3人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,504人(105)のやや増加で2年連続増加だが、新設の国際経営、国際情報を除いた既存6学部では、7,937人(91)の減少。学部別では、経済(108)のみ増加。

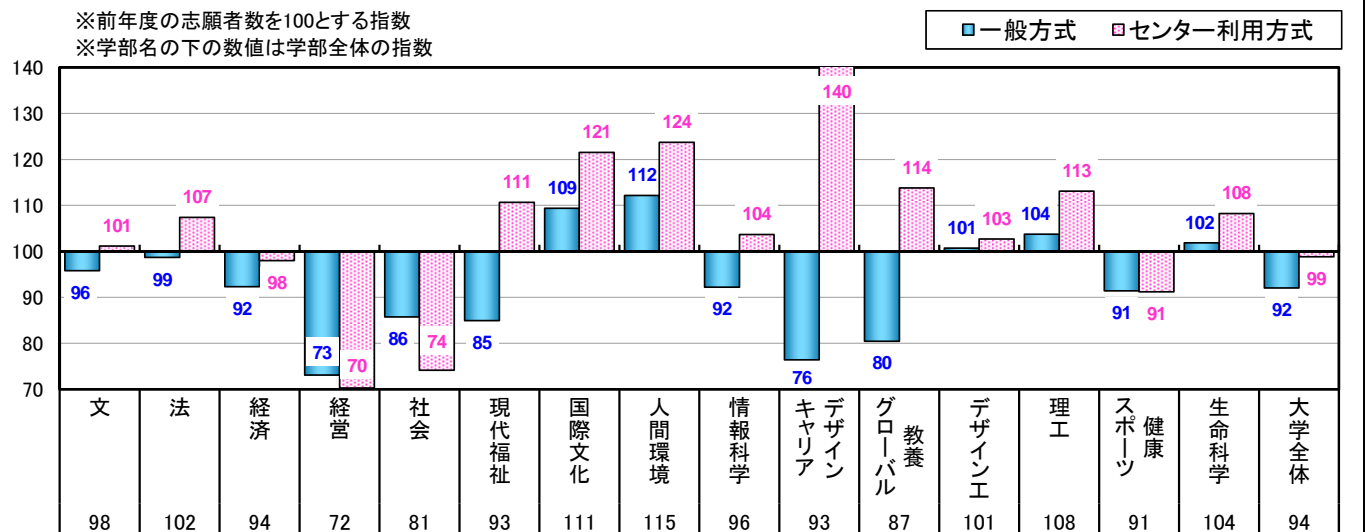
**<一般方式>**

- 文(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、13専攻中10専攻が減少し、(人文社会/ドイツ語文学文化)(30)は前年度激増の反動で激減。(人文社会/フランス語文学文化)(52)は3年連続増加の反動でほぼ半減。
- 法(88)は、3年連続増加の反動で減少。3学科全てが減少し、(政治)(83)、(国際企業関係法)(85)は大幅減少。
- 総合政策(80)は、4年連続増加の反動で大幅減少。2学科とも減少したが、特に(国際政策文化)(74)は大幅減少。
- 経済(112)は、4年連続増加。方式別では、<英語外部検定試験利用>(321)が激増。学科別では、4学科全てが増加し、(公共・環境経済)(152)、(経済)(145)、(経済情報システム)(130)は大幅増加。
- 商(87)は、3年連続増加の反動で減少。学科・コース別では、(金融)(115)が大幅増加、(会計)(114)は増加したが、他は大幅減少。
- 国際経営は、一般方式合計の募集人員120人、志願者数は3,459人。志願倍率は28.8倍で、国際情報に次ぐ高倍率だった。
- 国際情報は、一般方式合計の募集人員65人、志願者数は2,874人。志願倍率は44.2倍で、全学部中で最も高倍率だった。
- 理工(92)は、前年度5年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。学科別では、(物理)(112)のみ増加。(生命科学)(69)、(経営システム工)(75)、(電気電子情報通信工)(83)は大幅減少。

**<センター利用方式>**

- 文(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。専攻別では、13専攻中10専攻が減少し、(人文社会/哲学)(140)は2年連続大幅増加。(人文社会/ドイツ語文学文化)(31)、(人文社会/東洋史)(34)はいずれも前年度激増の反動で激減。
- 法(91)は、2年ぶりに減少。3学科全てが減少し、(国際企業関係法)(83)、(政治)(84)は大幅減少。
- 総合政策(119)は、2年連続大幅増加。学科別では、(政策科学)(141)は2年連続大幅増加だが、(国際政策文化)(99)は微減。
- 経済(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(経済情報システム)(133)、(公共・環境経済)(131)が大幅増加。(経済)(91)は減少。
- 商(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、学部合計の募集人員が220人→110人と半減以下のため、志願倍率は30.6倍→48.1倍と大幅アップ。4学科1コース全てが減少したが、いずれも志願倍率はアップで競争は激化。
- 国際経営は、センター利用方式合計の募集人員40人に対し、志願者数は2,875人。志願倍率は71.9倍で、国際情報に次ぐ高倍率。
- 国際情報は、センター利用方式合計の募集人員35人に対し、志願者数は3,233人。志願倍率は92.4倍で、全学部中で最も高倍率。
- 理工(101)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(人間総合理工)(120)、(物理)(118)が大幅増加。一方、(数学)(63)、(経営システム工)(83)は大幅減少。

**法政大：大学全体では4年ぶりに減少、経営、社会は大幅減少 一般：-6,559人 センター：-493人**



**入試変更点** 選抜方法：文(英文)、デザイン工…一般方式で〈英語外部試験利用〉新規実施  
 募集人員：文(英文)〈A方式〉…67人→65人、(史)〈T日程〉…10人→8人  
 法(政治)〈A方式〉…60人→54人、(法律)〈A方式〉…205人→198人  
 (国際政治)〈A方式〉77人→71人  
 社会(社会政策)〈A方式〉…90人→93人、(社会)〈A方式〉…155人→159人  
 (メディア社会)〈A方式〉…95人→98人  
 現代福祉(福祉コミュニティ)〈A方式〉…64人→60人、〈T日程〉…15人→14人、  
 〈セ・B方式〉…10人→7人、〈セ・C方式〉…3人→2人  
 (臨床心理)〈A方式〉…42人→40人、〈セ・B方式〉…10人→7人  
 グローバル教養〈A方式〉…23人→26人、〈T日程〉…7人→6人、〈英語外部試験利用〉…10人→6人  
 理工(応用情報工)(電気電子工)(機械工/機械工)(創生科学)〈T日程〉…各15人→各14人  
 (経営システム工)〈T日程〉…11人→10人  
 スポーツ健康〈A方式〉…80人→78人  
 生命科学〈英語外部試験利用〉…各学科3人→(環境応用化学)(生命機能)各1人、(応用植物科学)2人

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、7,052人(94)のやや減少。細かい方式別では、全学部統一日程の〈T日程〉(87)の減少率が大きく、2年連続減少。〈英語外部試験利用〉(100)は6人のみ減少で前年度並だが、新規実施分を除くと334人(86)減少で、前年度2.5倍増の反動が表れた。キャンパス別では、小金井キャンパス3学部(105)はやや増加したが、多摩キャンパス4学部(89)は減少、市ヶ谷キャンパス8学部(94)はやや減少。学部別では、人間環境(115)、国際文化(111)、理工(108)、生命科学(104)、法(102)、デザイン工(101)が増加。一方、経営(72)、社会(81)が大幅減少するなど、文系学部は減少が目立った。

**〈一般方式〉**

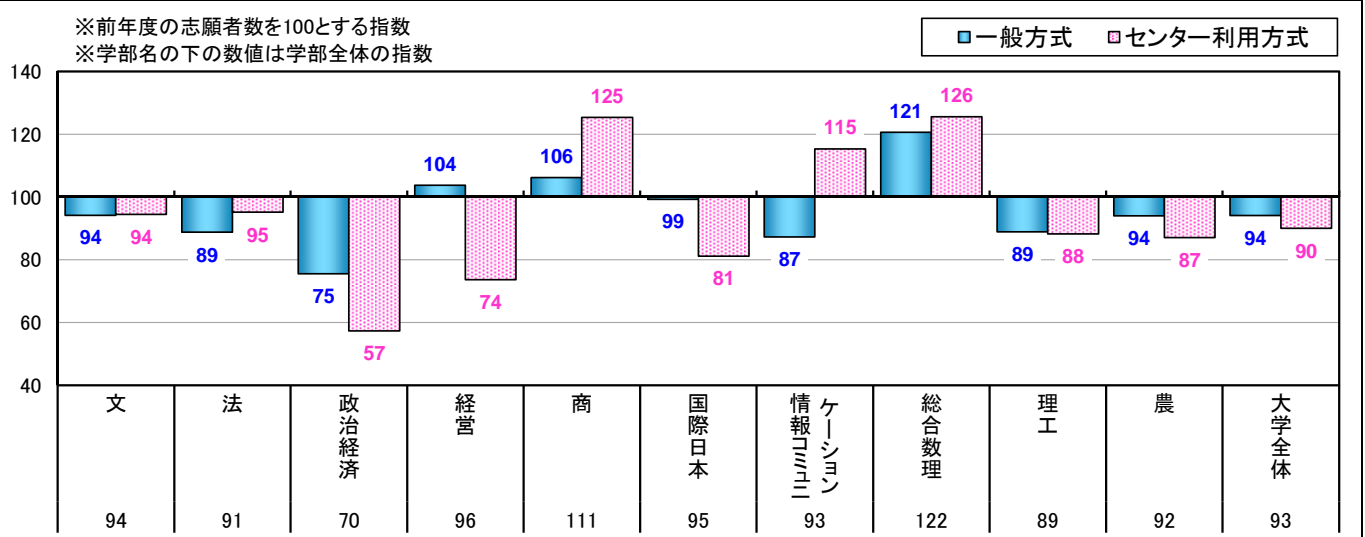
- 文(96)は、やや減少で4年ぶりに減少。学科別では、(地理)(108)が3年連続増加。一方、(哲)(73)、(英文)(83)は大幅減少。
- 法(99)は、微減で前年度大幅減少の反動はなく2年連続減少。学科別では、前年度いずれも4割以上の大幅減少の(国際政治)(120)、(政治)(104)は反動で増加。(法律)(92)は2年連続減少。
- 経済(92)は、2年連続減少。学科別では、(国際経済)(102)は微増で2年連続増加。他の2学科はいずれも1割強の減少。
- 経営(73)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(経営)(56)が3年連続増加の反動で大幅減少。
- 社会(86)は、4年連続増加の反動と系統の人気上昇が一段落したことで減少。学科別では、唯一減少の(社会政策)(41)が前年度激増の反動で大幅減少。
- 現代福祉(85)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。2学科とも15%前後の減少で(臨床心理)(83)は3年連続減少。
- 国際文化(109)は、2方式とも2年ぶりに増加。
- 人間環境(112)は、2年ぶりに増加。方式別では、唯一増加の〈A方式〉(134)は大幅増加。
- 情報科学(92)は、3年連続増加の反動で減少。2学科とも減少。
- キャリアデザイン(76)は、2年連続増加の反動で大幅減少。2方式とも大幅減少。
- グローバル教養(80)は、3年連続増加の反動で大幅減少。方式別では、〈英語外部試験利用〉(16)が前年度2.5倍増の反動で激減。
- デザイン工(101)は、微増だが8年連続増加。新規実施の〈英語外部試験利用〉を除くと、(96)のやや減少。
- 理工(104)は、やや増加で8年連続増加。学科・専攻別では、(電気電子工)(87)のみ減少。
- スポーツ健康(91)は、4年ぶりに減少。
- 生命科学(102)は、微増だが2年ぶりに増加。学科別では、(環境応用科学)(136)が大幅増加、他の2学科は2年連続減少。

**〈センター利用方式〉**

- 法(107)は、やや増加で5年連続増加。学科別では、(法律)(119)が大幅増加し、(政治)(85)は大幅減少。
- 経営(70)は、4年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(市場経営)(110)のみ増加。(経営戦略)(33)は激減し、(経営)(81)は4年連続増加の反動で大幅減少。

- 社会(74)は、前年度激増の反動で大幅減少。学科別では、(メディア社会)(154)、(社会)(147)が大幅増加。一方、(社会政策)(17)は前年度4.8倍増の反動で激減。
- 現代福祉(111)は、4年連続増加。学科別では、(福祉コミュニティ)(143)が2年連続大幅増加、(臨床心理)(74)は2年連続大幅減少と対照的。
- 国際文化(121)は、前年度6割近い減少だった反動で大幅増加。
- 人間環境(124)は、大幅増加で2年ぶりに増加。
- 情報科学(104)は、やや増加で4年連続増加。学科別では、(コンピュータ科学)(126)が大幅増加、(デジタルメディア)(84)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- キャリアデザイン(140)は、前年度減少の反動で大幅増加。方式別では、〈セ・B方式〉(165)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、〈セ・C方式〉(50)は前年度倍増の反動で半減。
- グローバル教養(114)は、2年連続大幅減少の反動で増加。
- 理工(113)は、2年ぶりに増加。学科・専修別では、(創生科学)(74)、(電気電子工)(76)が大幅減少したが、他の学科はいずれも大幅増加。特に(経営システム工)(160)、(機械工/機械工)(157)が目立った。(応用情報工)(116)は系統への高い人気で大幅増加し、4年連続増加。
- スポーツ健康(91)は、2年連続減少。
- 生命科学(108)は、2年ぶりに増加。学科別では、唯一増加の(環境応用化学)(152)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

**明治大：大学全体では5年ぶりに減少、総合数理、商のみ増加 一般：-5,005人 センター：-3,519人**



**入試変更点**

選抜方法：経営<全学部>、国際日本<全学部>、農<全学部>、総合数理<全学部4科目>…英語外部試験利用可に  
 経営<一般3科目><英語4技能試験活用>、商<一般><英語4技能試験活用>…学部内での方式間併願可に  
 経営<英語4技能試験活用>…スコア変更

配点：商<英語4技能試験活用>…国配点100点→150点、外配点150点→300点

募集人員：文(史学地理/地理)<一般>…25人→26人、<全学部>…10人→11人  
 (心理社会/哲学)<一般>…22人→20人、<全学部>…9人→8人  
 法<一般>…385人→375人、<セ・前期4科目>…45人→40人、<セ・前期5科目>…35人→40人  
 総合数理(現象数理)<全学部4科目>…13人→12人  
 (ネットワークデザイン)<一般>…34人→30人、<全学部3科目>…3人→1人  
 <全学部4科目>…19人→23人  
 理工(建築)<一般>…96人→88人、<全学部>…21人→19人、<セ・前期4教科>…14人→13人  
 (情報科学)<セ・後期>…3人→2人  
 (機械情報工)<セ・前期3教科>…9人→7人  
 (物理)<一般>…36人→35人、<セ・前期4教科>…7人→6人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、8,524人(93)のやや減少で、5年ぶりに減少。10学部中増加しているのは、総合数理(122)、商(111)の2学部のみで、増加が継続していた文系学部が減少。

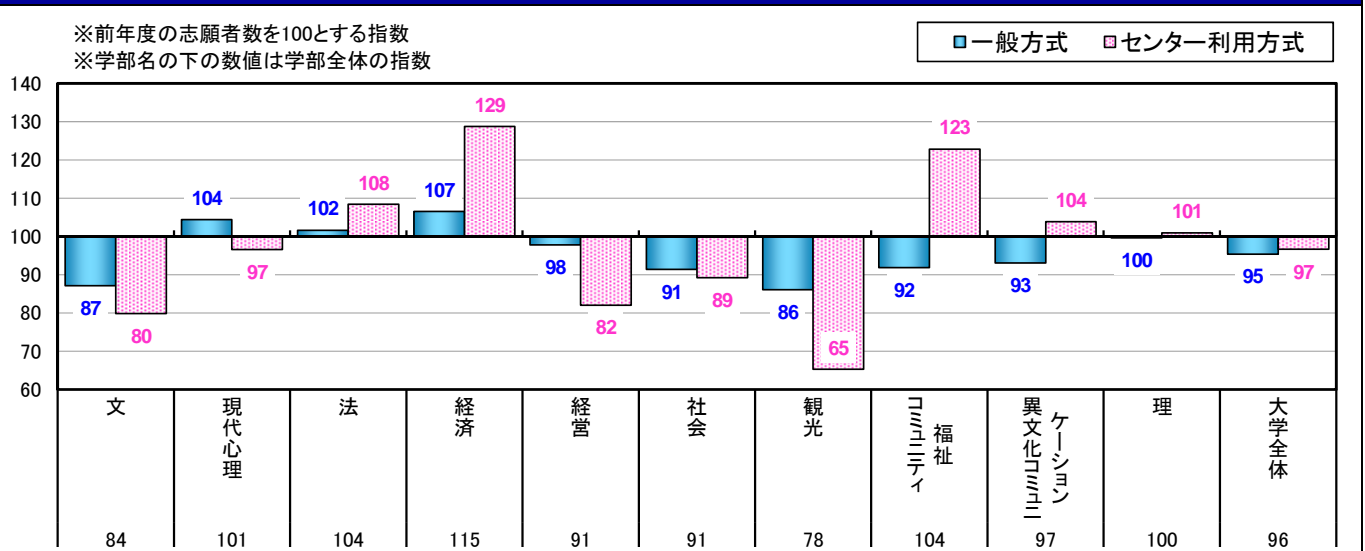
- <一般方式>**
- 文(94)は、やや減少で2年ぶりに減少し、前年度に反動による増減が継続。学科・専攻別では、(心理社会/哲学)(144)、(史学地理/アジア史)(117)、(史学地理/考古学)(106)のみ増加。
  - 法(89)は、2年ぶりに減少。2方式とも減少し、<全学部>(90)は5年ぶりに減少。
  - 政治経済(75)は、大幅減少で2年連続減少。3学科とも減少し、特に(地域行政)(68)、(経済)(71)は大幅減少。(経済)は3年連続増加の反動が表れたが、経営、商の2学部は増加が継続しており、対照的な志願状況となった。
  - 経営(104)は、やや増加で4年連続増加したが、方式別では、<全学部>(132)のみ増加。
  - 商(106)は、やや増加で5年連続増加。方式別では、<英語4技能試験利用>(180)が激増。
  - 国際日本(99)は、微減だが3年ぶりに減少。方式別では、<全学部>(163)が大幅増加、<一般>(80)は大幅減少と対照的。
  - 情報コミュニケーション(87)は、3年連続増加の反動で減少。方式別では、<一般>(83)が大幅減少。

- 総合数理(121)は、大幅増加で2年ぶりに増加。3学科とも増加し、特に(ネットワークデザイン)(140)、(先端メディアサイエンス)(116)は大幅増加。(先端メディアサイエンス)は3年連続増加。
- 理工(89)は、2年ぶりに減少。学科・専攻別では、(機械情報工)(112)、(物理)(104)のみ増加。(物理)は6年ぶりに増加。一方、(電気電子生命/電気電子)(70)、(機械工)(81)は大幅減少。(建築)(88)は9年ぶりに、応用化(94)は6年連続でいずれも減少。
- 農(94)は、やや減少で5年連続減少。学科別では、(生命科学)(107)はやや増加したが、他の3学科は減少。特に(農芸化学)(82)は大幅減少で2年連続減少。

＜センター利用方式＞

- 文(94)は、やや減少で2年ぶりに減少。前年度の反動による増減が継続。学科・専攻別では、開設2年目の(心理社会/哲学)(121)が大幅増加。(文/フランス文)(49)は前年度激増の反動で半減。
- 法(95)は、やや減少で3年ぶりに減少。
- 政治経済(57)は、大幅減少で2年ぶりに減少。(地域行政)(53)、(経済)(54)、(政治)(69)の3学科とも大幅減少。
- 経営(74)は、2年連続増加の反動で大幅減少。2方式とも大幅減少。
- 商(125)は、大幅増加で3年連続増加。方式別では、〈セ・後期〉(85)は大幅減少だが、他の方式は増加し、特に〈セ・前期6科目〉(192)はほぼ倍増。
- 国際日本(81)は、大幅減少。前年度4年ぶりに増加したが再度減少に転じた。
- 情報コミュニケーション(115)は、前年度減少の反動で大幅増加。
- 総合数理(126)は、大幅増加で2年ぶりに増加。3学科とも増加し、(ネットワークデザイン)(149)、(先端メディアサイエンス)(126)は大幅増加。
- 理工(88)は、3年ぶりに減少。学科・専攻別では、(機械情報工)(105)のみ増加。(機械工)(78)、(電気電子生命/電気電子)(79)はいずれも大幅減少。
- 農(87)は、3年ぶりに減少。4学科全てが減少し、特に(農芸化学)(72)、(農)(85)は大幅減少。

立教大：大学全体では3年ぶりに減少、文、観光は大幅減少 一般：-2,054人 センター：-943人



入試変更点

選抜方法：〈センター利用方式〉〈全学部グローバル〉…英語外部試験の対象試験変更  
文、法、経済、社会、観光、コミュニティ福祉、理〈全学部グローバル〉  
…英語外部試験の出願要件に技能別基準点追加  
経営(国際経営)〈全学部グローバル〉…英語外部試験のスコア変更  
新規実施…文(文/ドイツ文学除く)、現代心理、法、経済、経営、社会、観光、コミュニティ福祉、異文化コミュニケーション〈セ・6科目〉  
廃止…文(文/ドイツ文学除く)、現代心理、法、経済、経営、社会、観光、コミュニティ福祉、異文化コミュニケーション〈セ・4教科〉  
方式名称変更…文、現代心理、法、経済、経営、社会、観光、コミュニティ福祉、異文化コミュニケーション〈セ・3科目〉、文(ドイツ文学)、理〈セ・4科目〉、理〈セ・6科目〉  
募集人員：文(教育)〈個別〉…52人→50人、(キリスト教)〈個別〉…23人→22人、(史)〈個別〉…73人→71人  
(文/英米文学)〈個別〉…64人→62人、(文/フランス文学)〈全学部〉…8人→6人  
(文/日本文学)〈個別〉…53人→52人、(文/文芸・思想)〈個別〉…43人→42人  
経済(経済)〈個別〉…144人→134人、〈セ・3科目〉…20人→15人  
(会計ファイナンス)〈個別〉…74人→69人、〈セ・3科目〉…12人→10人  
(経済政策)〈個別〉…74人→69人、〈セ・3科目〉…12人→10人  
異文化コミュニケーション〈セ・3科目〉…5人→4人  
理(物理)〈個別〉…40人→38人、〈セ・6科目〉…5人→8人  
配点：経営〈セ・3科目〉…外150点→200点

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、2,997人(96)のやや減少で3年ぶりに減少。方式別では、一般方式(95)はやや減少だが、〈全学部グローバル〉は2年連続激増の反動と出願要件に英語外部試験の技能別基準点を追加した影響で614人(77)の大幅減少。センター利用方式(97)はやや減少。

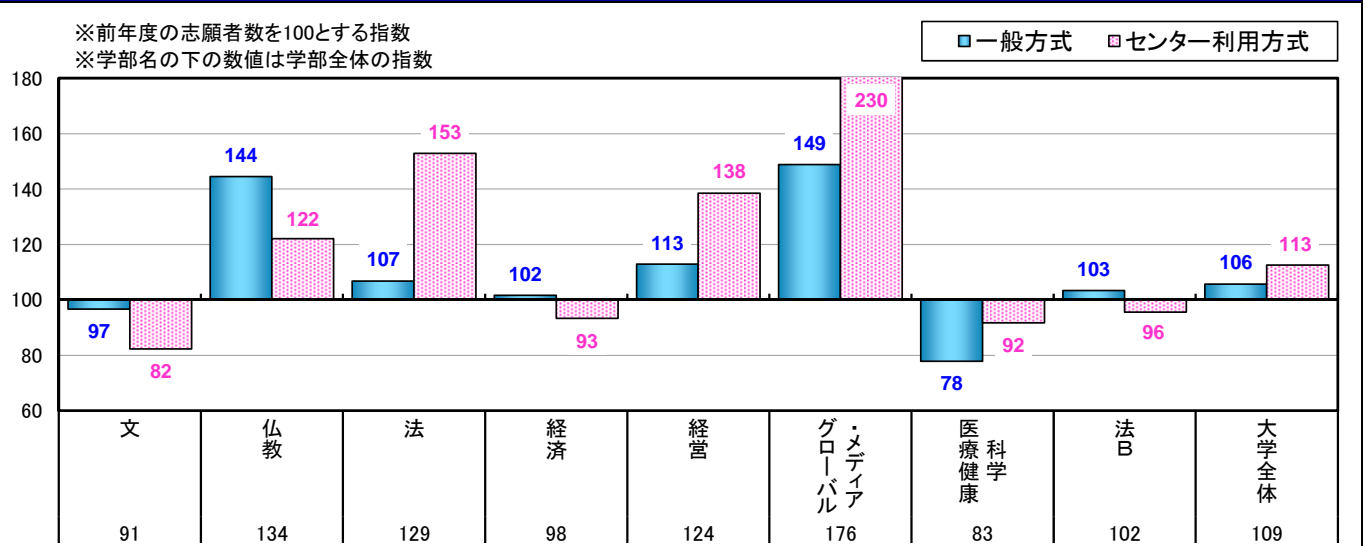
〈一般方式〉

- 文(87)は、2年連続増加の反動で減少。学科・専修別では、(文/文芸・思想)(115)のみ大幅増加し、他はいずれも減少。
- 現代心理(104)は、やや増加で5年連続増加。2学科とも増加し、(映像身体)(108)は5年連続増加。
- 法(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(国際ビジネス法)(142)、(政治)(119)は大幅増加。一方、(法)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 経済(107)は、前年度大幅減少の反動でやや増加。学科別では、(会計ファイナンス)(139)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 社会(91)は、5年ぶりに減少。学科別では、(現代文化)(81)は4年連続増加の反動で大幅減少。(メディア社会)(87)は減少し、前年度の反動による増減が継続。
- 観光(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。全ての募集単位が減少し、特に(観光)〈全学部グローバル〉(59)、(交流文化)〈全学部グローバル〉(63)の大幅減少が目立った。
- コミュニティ福祉(92)は、2年連続増加の反動で減少。3学科とも減少し、(福祉)(88)は2年連続大幅増加の反動で減少。(コミュニティ政策)(98)は微増だが、3年連続減少。
- 異文化コミュニケーション(93)は、やや減少し6年連続減少。方式別では、〈全学部3科目〉(78)の大幅減少が目立った。
- 理(100)は、前年度並。学科別では、(生命理)(118)の大幅増加が目立った。

〈センター利用方式〉

- 文(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・専修別では、(文/フランス文学)(24)が前年度4倍増の反動で激減。
- 現代心理(97)は、やや減少で3年ぶりに減少。学科別では、(心理)(120)が大幅増加、(映像身体)(74)は大幅減少と対照的。
- 法(108)は、前年度大幅増加の反動はなく増加。学科別では、(政治)(169)は2年連続大幅増加。
- 経済(129)は、大幅増加で3年連続増加。学科別では、(会計ファイナンス)(587)は前年度激減の反動で約6倍増。(経済政策)(178)は前年度大幅減少の反動で激増。一方で、(経済)(56)は大幅減少。
- 経営(82)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、特に経営(76)が大幅減少。
- 社会(89)は、前年度大幅増加の反動で減少。全ての学科が前年度と逆の増減。
- 観光(65)は、前年度倍増の反動で大幅減少。学科別では、(交流文化)(35)は前年度3倍増以上の反動で激減。
- コミュニティ福祉(123)は、大幅増加で4年連続増加。学科別では、(コミュニティ政策)(73)は前年度倍増の反動で大幅減少だが、他の2学科は大幅増加。(福祉)(202)は倍増し、3年連続大幅増加。
- 異文化コミュニケーション(104)は、前年度大幅増加の反動はなくやや増加。
- 理(101)は、前年度大幅増加の反動はなく微増。学科別では、(生命理)(130)が2年連続大幅増加したが、他はいずれも減少。

**駒澤大：4年連続増加だが、医療健康科学は3年連続減少 一般：+1,422人 センター：+2,478人**



**入試変更点** 選抜方法：文、仏教、法、経済、経営、グローバル・メディア・スタディーズ〈全学部〉  
…英語外部試験の対象試験追加  
文(英米文)〈一般・S方式〉…新規実施

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、3,900人(109)の増加で4年連続増加。学部別では、8学部中4学部の大幅増加が大学全体の増加につながった。方式別では、一般方式(106)、センター利用方式(113)のいずれも増加。

〈一般方式〉

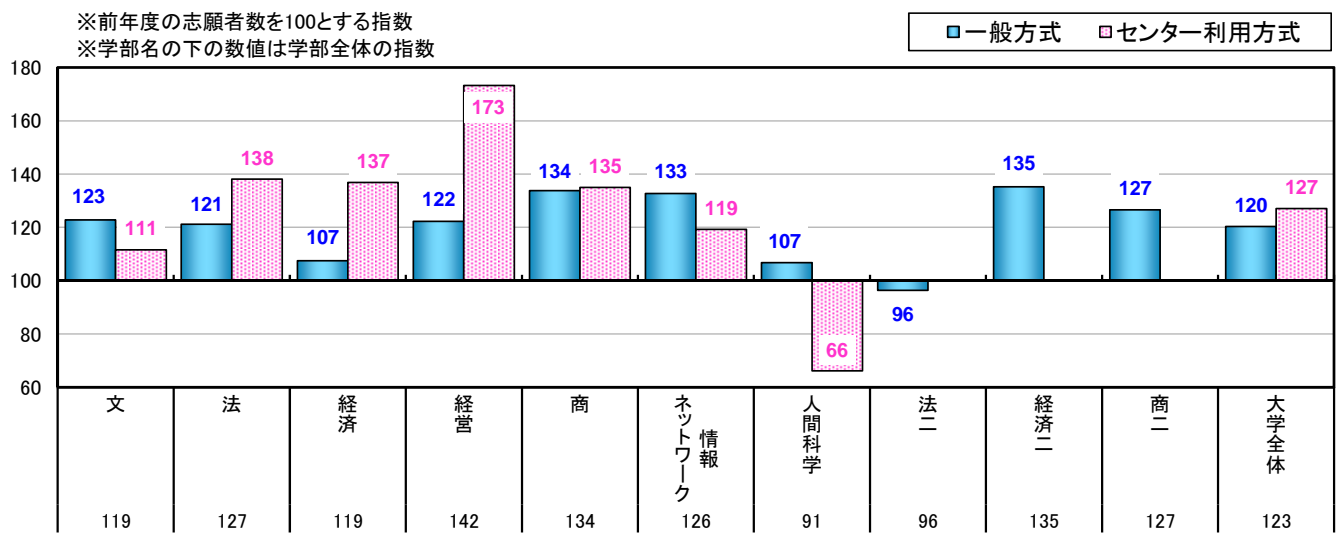
- 文(97)は、4年ぶりに減少。新規実施の(英米文)〈S方式〉を除くと(95)のやや減少。
- 法(107)は、前年度4年ぶりに減少したが再度増加へ転じた。学科別では、(政治)(148)が大幅増加、(法律/フレックスA)(93)はやや減少で、いずれも前年度と逆の増減。

- 経営(113)は、3年連続増加。学科別では、(市場戦略)(154)が大幅増加だが、(経営)(98)は微減。
- グローバル・メディア・スタディーズ(149)は、系統への人気上昇により大幅増加で3年ぶりに増加。全ての募集単位が大幅増加。
- 医療健康科学(78)は、大幅減少で3年連続減少。

<センター利用方式>

- 文(82)は、大幅減少。学科・専攻別では、(社会/社会福祉学)(26)の激減が目立った。
- 法(153)は、大幅増加で2年連続増加。募集単位別では、<前期>(158)は大幅増加だが、<中期>(88)は減少と対照的。
- 経済(93)は、4年ぶりに減少。学科別では、唯一増加の(現代応用経済)(343)は3.4倍増だが、他の2学科は大幅減少し、いずれも前年度と逆の増減。
- 経営(138)は、大幅増加で志願者数は4,000人を上回った。学科別では、(市場戦略)(231)は前年度ほぼ半減の反動で倍以上の激増。
- グローバル・メディア・スタディーズ(230)は、前年度大幅減少の反動で2.3倍増。
- 医療健康科学(92)は、3年連続減少。

**専修大：1万人以上の大幅増加で4年連続増加 一般：+5,823人 センター：+4,617人**



**入試変更点** 試験会場：文(英語英米文)<E方式>…水戸会場、大宮会場、津田沼会場、横浜会場、静岡会場廃止  
 学科新設：経営(ビジネスデザイン)  
 学科改組：文(人文・ジャーナリズム)→(ジャーナリズム)  
 選抜方法：<一般前期>(スカラシップ、一部方式除く)…英語外部試験の対象試験、スコア変更  
 <スカラシップ全学部統一>、経営(経営)<C方式>…新設、<B方式>…廃止  
 入試科目：文(日本語、環境地理)<A方式>、(日本文学文化)<D方式>…歴公の選択から倫除外

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、10,440人(123)の大幅増加で4年連続増加。新設の経営(ビジネスデザイン)を除いても、8,129人(118)の大幅増加。方式別では、一般方式(120)、センター利用方式(127)といずれも大幅増加。学部別では、人間科学(91)、法二(96)は減少したが、他の学部はいずれも大幅増加。

<一般方式>

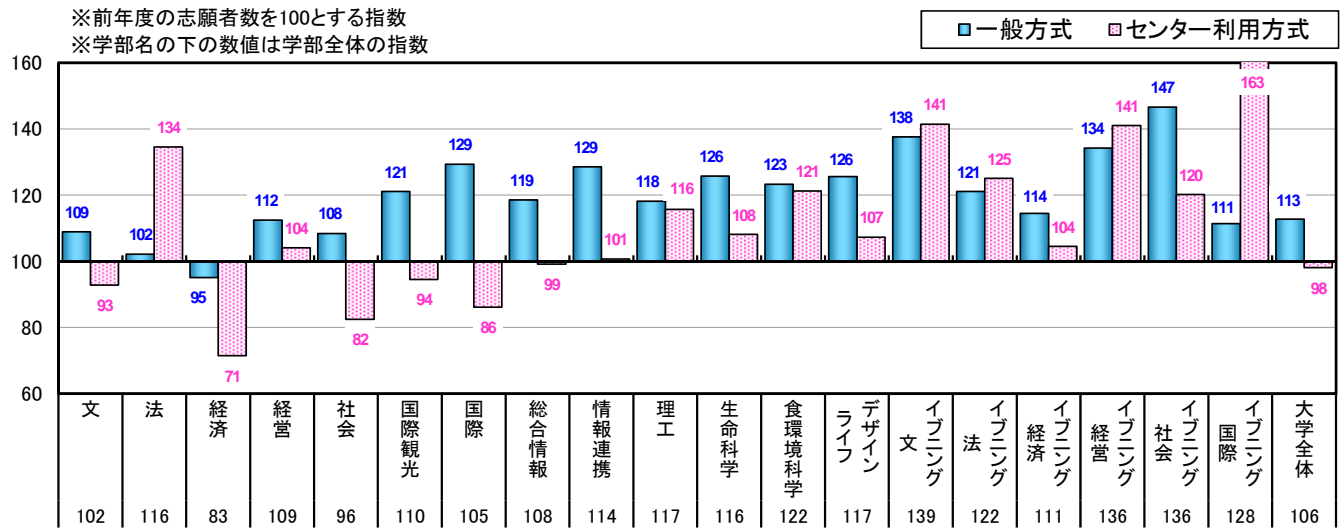
- 文(123)は、大幅増加で5年連続増加。7学科全てが2年連続増加。
- 法(121)は、前年度減少の反動で大幅増加。2学科とも増加し、特に(法律)(123)は大幅増加。
- 経営(122)は、大幅増加。(ビジネスデザイン)新設が影響。既存の(経営)(81)は大幅減少。
- 商(134)は、大幅増加で3年連続増加。2学科とも大幅増加し、(会計)(151)は5年連続増加。(マーケティング)(125)は3年連続増加。
- ネットワーク情報(133)は、4年連続大幅増加。全ての方式で増加。
- 人間科学(107)は、前年度大幅増加の反動はなくやや増加。

<センター利用方式>

- 文(111)は、3年連続増加。学科別では、(環境地理)(165)、学科改組の(ジャーナリズム)(148)、(英語英米文)(143)は大幅増加だが、(哲)(66)は大幅減少。
- 法(138)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2学科とも増加し、特に(政治)(161)は大幅増加。
- 経済(137)は、大幅増加。学科別では、(国際経済)(152)、(経済)(131)ともに大幅増加。
- 経営(173)は、前年度大幅減少の反動と、(ビジネスデザイン)新設の影響で激増。
- 商(135)は、大幅増加で5年連続増加。学科別では、(会計)(135)、(マーケティング)(135)ともに大幅増加。
- ネットワーク情報(119)は、大幅増加。方式別では、<セ・前期総合型>(140)、<セ・前期AS>(136)がいずれも大幅増加。
- 人間科学(66)は、3年連続大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、特に(社会)(50)は前年度2.3倍増の反動で半減。

東洋大：5年連続増加で志願者数は12万人を突破

一般：+7,696人 センター：-1,127人



**入試変更点** 選抜方法：新規実施…文(日本文学文化)〈セ・中期2教科国語重視〉、(教育/人間発達)〈中期3教科国語重視〉(国際文化)〈セ・前期4教科外国語重視〉  
法(企業法)(法律)〈セ・前期4教科国語重視〉  
経済(国際経済)〈中期3教科均等〉〈セ・前期5教科均等〉〈セ・前期2教科外部試験利用〉(総合政策)〈前期3教科英語重視〉〈前期3教科数学重視〉  
経営(経営)〈セ・前期5教科均等〉(会計ファイナンス)〈中期3教科ベスト2〉〈セ・前期3教科均等〉  
社会(社会)〈前期4教科均等〉、(社会福祉)〈セ・前期5教科均等〉〈セ・前期3教科国語重視〉、(社会文化システム)〈セ・前期5教科均等〉〈セ・前期3教科英語重視〉  
国際観光〈前期3教科英語重視〉  
国際(グローバル・イノベーション)〈セ・前期4教科外部試験利用〉  
総合情報〈セ・前期5教科均等〉〈セ・中期3教科均等〉  
情報連携〈セ・前期4科目数学重視〉〈セ・前期3教科数学重視〉  
理工(機械工)(建築)(生体医工)〈セ・中期3教科均等〉(電気電子情報工)〈前期3教科数学重視〉  
生命科学(応用生物学)〈セ・前期3教科理科重視〉  
食環境科学(食環境科学/フードサイエンス)〈中期3教科均等〉  
廃止…文(日本文学文化)〈中期3教科国語重視〉、経済(経済)〈セ・前期3科目外部試験利用〉  
経営(経営)〈セ・後期3教科ベスト2均等〉、(マーケティング)〈前期3教科国語重視〉〈セ・中期2教科均等〉(会計ファイナンス)〈前期3教科均等(英国数)〉〈中期3教科均等〉〈セ・前期3教科地公重視〉  
国際観光〈前期4教科最高得点重視〉  
国際(グローバル・イノベーション)〈前期3教科英語重視〉〈前期2教科外部試験利用〉〈セ・前期4教科英語重視〉〈セ・前期2教科外部試験利用〉〈セ・後期3教科英語重視〉(国際地域)〈前期4教科均等〉〈セ・前期3教科最高得点重視〉  
総合情報〈セ・中期2教科均等〉、情報連携〈総合問題後期〉  
理工(機械工)(建築)(生体医工)〈セ・中期2教科均等〉  
生命科学(応用生物学)〈セ・前期3教科ベスト2均等〉  
食環境科学(食環境科学/フードサイエンス)〈セ・中期2教科均等〉  
試験日増設…文(史)〈前期3教科均等〉、経済(国際経済)〈前期3教科均等〉  
経営(マーケティング)〈前期3教科ベスト2〉〈前期3教科最高得点重視〉(会計ファイナンス)〈前期3教科均等〉〈前期3教科数学重視〉  
国際観光〈前期3教科均等〉、国際〈前期3教科均等〉  
生命科学(生命科学)〈前期3教科均等〉

**COMMENT** ※ ( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、6,569人(106)のやや増加で5年連続増加。志願者数は12万人台となり、近畿大に次ぐ多さ。前年度同様に新規実施の募集方式や試験日を1日増やした募集単位が多かったことなどが増加の要因。学部別では、経済(83)、社会(96)の2学部のみ減少。

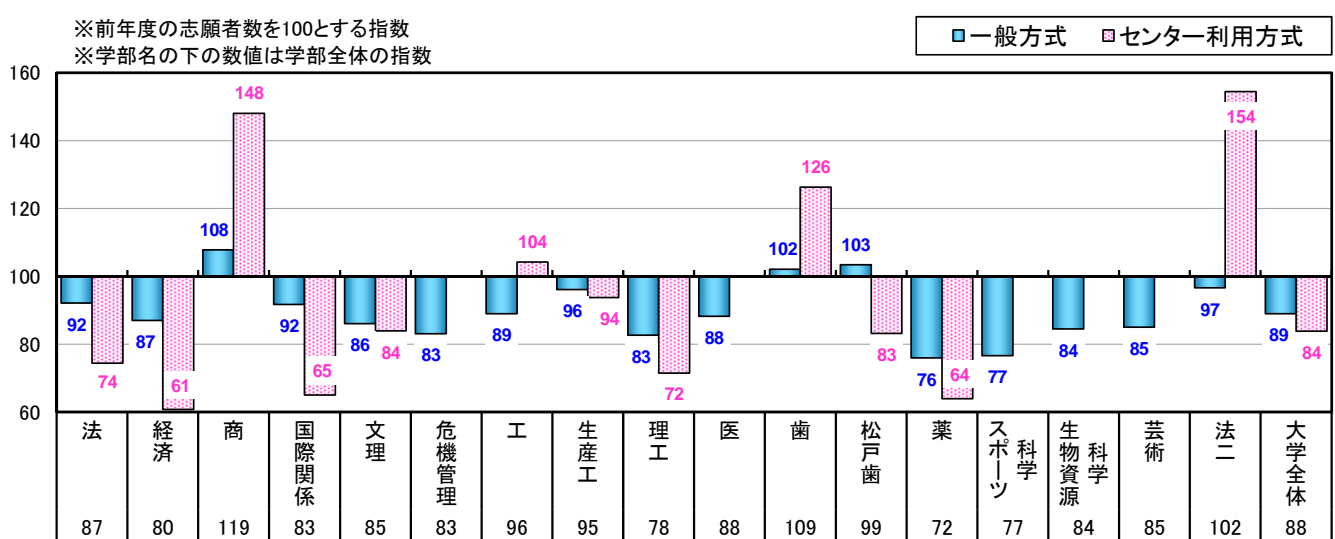
- 〈一般方式〉  
○文(109)は、5年連続増加。学科・専攻別では、(英米文)(97)はやや減少だが、他の学科・専攻は増加し、特に(教育/人間発達)(137)、(哲)(120)は大幅増加。  
○経済(95)は、やや減少で4年連続大幅増加の反動は小さかった。学科別では、(経済)(87)は減少だが、他の2学科は増加。  
○経営(112)は、5年連続増加。3学科とも増加し、特に(マーケティング)(128)は大幅増加。  
○社会(108)は、4年連続増加。学科別では、(社会文化システム)(78)は大幅減少だが、他の学科は増加。特に(社会)(132)は

- 大幅増加。  
 ○国際観光(121)は、大幅増加で3年連続増加。  
 ○国際(129)は、大幅増加で2年ぶりに増加。学科別では、(国際地域)(154)が大幅増加、(グローバル・イノベーション)(95)はやや減少で2年連続減少。  
 ○総合情報(119)は、2年連続大幅増加。  
 ○情報連携(129)は、2年連続大幅増加。  
 ○理工(118)は、大幅増加で5年連続増加。学科別では、(機械工)(98)は微減だが、他の学科は増加。特に(生体医工)(138)、(電気電子情報工)(137)、(応用化学)(125)、(建築)(115)は大幅増加。  
 ○生命科学(126)は、大幅増加で2年連続増加。2学科とも増加し、特に(生命科学)(143)は大幅増加。  
 ○食環境科学(123)は、大幅増加で2年連続増加。学科・専攻別では、(食環境科学/スポーツ・食品機能)(98)は微減だが、他の学科・専攻は増加。  
 ○ライフデザイン(126)は、大幅増加で3年連続増加。全学科・専攻が増加し、(健康スポーツ)(110)以外は大幅増加。

<センター利用方式>

- 文(93)は、やや減少で3年ぶりに減少。学科・専攻別では、(英米文)(60)の大幅減少が目立った。  
 ○法(134)は、大幅増加で前年度の反動による大幅な増減が継続。2学科とも増加し、特に(企業法)(176)は激増。  
 ○経済(71)は、3学科とも2年連続大幅増加の反動で大幅減少。  
 ○経営(104)は、やや増加で6年連続増加。学科別では、(経営)(95)はやや減少だが、他の2学科は大幅増加。  
 ○社会(82)は、大幅減少で5年ぶりに減少。学科別では、(社会)(123)は大幅増加だが、他の4学科は減少。  
 ○国際観光(94)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少。  
 ○国際(86)は、2016年度の学部設置後、初めて減少。  
 ○理工(116)は、大幅増加で5年連続増加。学科別では、(建築)(95)のみやや減少で、他の5学科は大幅増加。  
 ○生命科学(108)は、2年連続増加。学科別では、(生命科学)(122)が2年連続大幅増加、(応用生物科学)(91)は減少。  
 ○食環境科学(121)は、大幅増加で2年連続増加。  
 ○ライフデザイン(107)は、やや増加で7年連続増加。学科・専攻別では、(人間環境デザイン)(125)が大幅増加。

日本大：3学部のみ増加で、1万4千人以上の減少 一般：-9,133人 センター：-5,194人



入試変更点

試験会場：<N1期>…高崎会場、湘南会場追加  
 生物資源科学<A1期>…札幌会場、盛岡会場、郡山会場、水戸会場、宇都宮会場、高崎会場、千葉会場、八王子会場、長野会場、静岡会場を追加  
 生物資源科学<A2期>…札幌会場、盛岡会場、仙台会場、郡山会場、水戸会場、宇都宮会場、高崎会場、千葉会場、八王子会場、新潟会場、長野会場、静岡会場、名古屋会場、大阪会場、福岡会場を追加  
 選抜方法：経済<A>…外の代わりに英語外部試験利用可  
 文理(英文)<セ・C2期>、(ドイツ文)<A2期>…新規実施  
 (社会福祉)<セ・C2期>…廃止  
 生物資源科学(森林資源科学、生物環境工、国際地域開発)<N2期>…新規実施  
 芸術(演劇/劇作)<N1期>…新規実施  
 入試科目：生産工(応用分子化学)<A><N1期>…数①(数I・数II・数A・数B)  
 →数①、数②(数I・数II・数III・数A・数B)との選択  
 配点：文理(史)<A1期>…国100点→150点  
 芸術(美術)<A2期>…面+実技400点→300点

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、14,327人(88)の減少で4年ぶりに減少。大学を取り巻く厳しい環境が影響。志願者減少数は全国最多だった。学部別では、商(119)、歯(109)、法二(102)のみ増加。薬(72)、スポーツ科学(77)、理工(78)、経済(80)など大幅減少の学部が目立った。

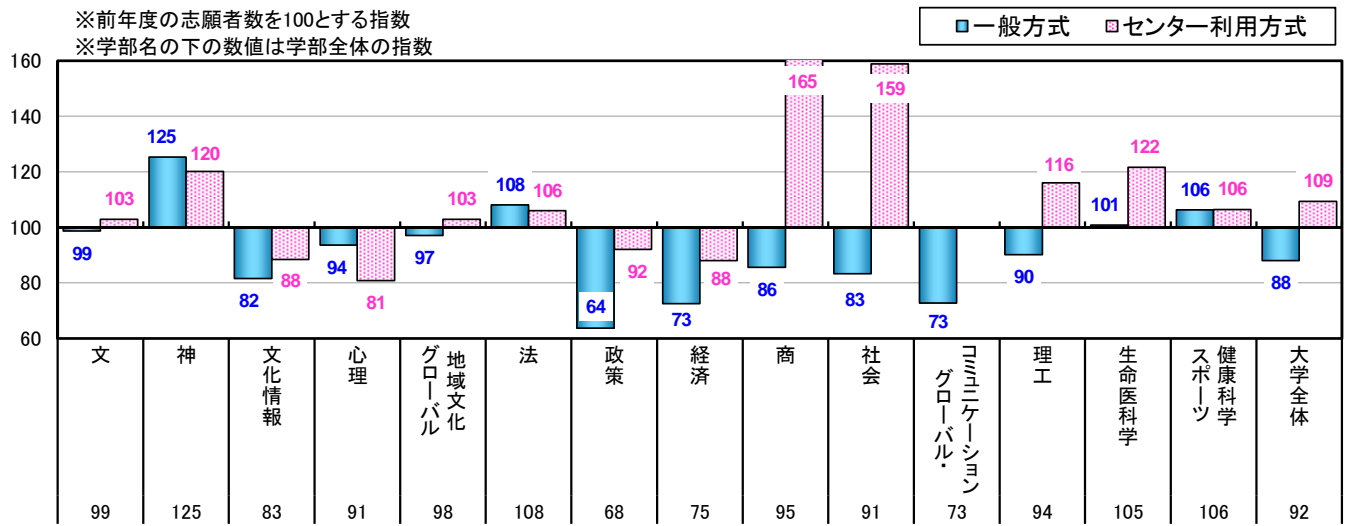
#### ＜一般方式＞

- 経済(87)は、4年ぶりの減少で3学科全てが減少。
- 商(108)は、2年ぶりに増加。学科別では、(商業)(124)が大幅増加、(会計)(102)は微増だが、(経営)(90)は減少。
- 文理(86)は、2年連続減少。学科別では、(中国語中国文化)(129)が大幅増加、(ドイツ文)(101)は微増だが、その他はいずれも減少。
- 危機管理(83)は、大幅減少。2016年度入試で新設以来、前年度の反動による増減が継続。
- 工(89)は、2年ぶりに減少。学科別では、(電気電子工)(108)のみ増加。(建築)(69)は大幅減少。
- 理工(83)は、大幅減少で4年ぶりに減少。学科別では、14学科中12学科が減少。特に(建築)(69)が前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 医(88)は、2年ぶりに減少。方式別では、〈N1期〉(72)は1次試験バッティングの他大学が2大学から3大学になったことに加え、前年度激増の反動で大幅減少。志願倍率も52.2倍→37.7倍へ大幅ダウン。〈A〉(90)は3年連続減少で志願倍率は43.3倍→39.2倍にダウンし、5年ぶりに40倍を下回った。
- 薬(76)は、大幅減少で2年ぶりに減少。〈N1期〉(75)、〈A〉(76)の2方式とも大幅減少。
- スポーツ科学(77)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、〈A〉(70)、〈N1期〉(78)が大幅減少、〈N2期〉(90)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 生物資源科学(84)は、大幅減少。前年度3年ぶりに増加したが再度減少に転じた。〈N2期〉の新規実施や、〈A〉で試験会場を追加したが、系統の人気低下で増加には結びつかなかった。

#### ＜センター利用方式＞

- 法(74)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。
- 経済(61)は、4年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(金融公共経済)(166)は激増だが、(産業経営)(26)は激減、経済(61)は大幅減少。
- 商(148)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。特に(商業)(212)は倍増以上で、志願倍率は24.8倍→52.5倍へ大幅アップ。
- 国際関係(65)は、大幅減少で2年ぶりに減少。
- 理工(72)は、2年連続減少。学科別では、前年度45%もの大幅減少だった(電子工)(109)は増加したが、その他の13学科は減少。
- 歯(126)は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、〈C1期〉(140)が大幅増加で3年ぶりに志願者数が200人を上回った。〈C2期〉(88)は2年連続減少。
- 薬(64)は、大幅減少で2年連続減少。志願倍率は68.9倍→44.1倍に大幅ダウン。

同志社大：14学部中10学部が減少し、4年ぶりに減少 一般：-5,796人 センター：+951人



**入試変更点** 募集人員：グローバル・コミュニケーション(グローバル・コミュニケーション/中国語)  
 <学部個別><全学部>…計24人→計26人  
 理工(電気工)<学部個別>…26人→27人、<全学部>…26人→27人、<セ>…7人→5人  
 (電子工)<学部個別>…28人→29人、<全学部>…28人→29人、<セ>…7人→5人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,845人(92)の減少で4年ぶりに減少。方式別では、センター利用方式(109)は増加だが、一般方式(88)は減少し、3年連続増加の反動が表れた。学部別では、14学部中10学部が減少で、文系学部では大幅減少が目立った。

<一般方式>

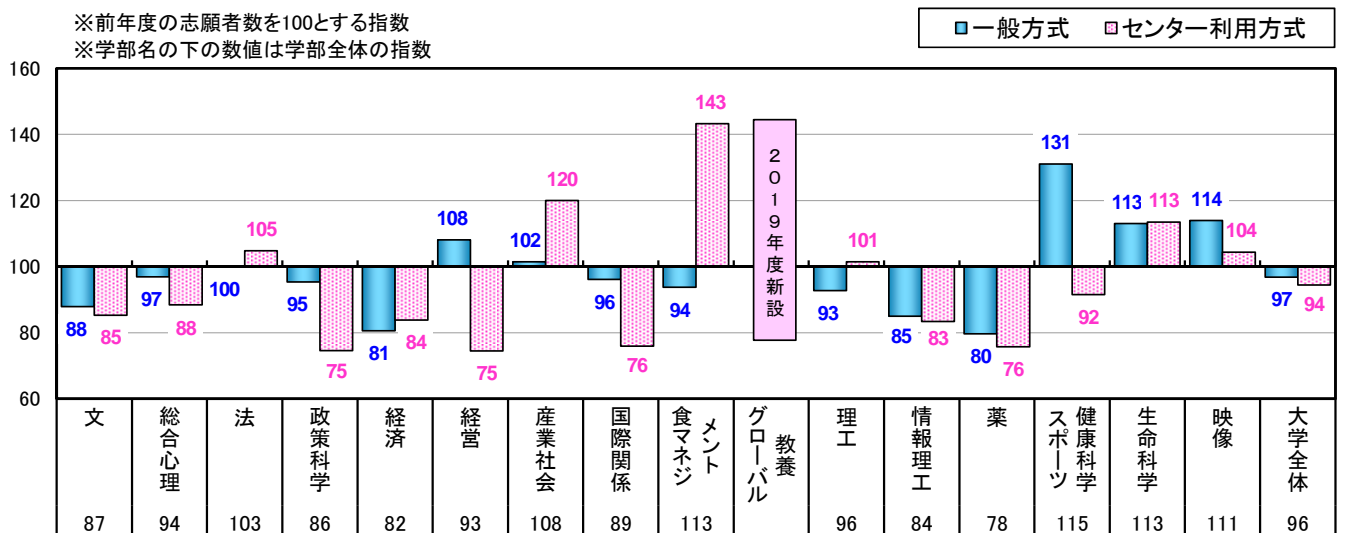
- 文(99)は、微減だが4年ぶりに減少。学科別では、唯一減少の(文化史)(83)は大幅減少。
- 文化情報(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。方式別では、<全学文系>(105)はやや増加したが、他の3方式は減少。特に<学部理系>(51)はほぼ半減。
- 心理(94)は、やや減少で2年ぶりに減少。方式別では、<全学文系>(103)はやや増加で2年連続増加だが、他の2方式は減少。特に<全学理系>(76)は大幅減少。
- グローバル地域文化(97)は、やや減少。前年度4年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。コース別では、唯一減少の(グローバル地域文化/アメリカ)(69)が大幅減少。
- 法(108)は、2年ぶりに増加。学科別では、(政治)(145)は前年度大幅減少の反動で大幅増加したが、(法律)(100)は1人のみだが4年ぶりに減少。
- 政策(64)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。2方式とも大幅減少。
- 経済(73)は、6年連続増加の反動と系統への高い人気の沈静化で大幅減少。2方式とも大幅減少。
- 商(86)は、2年連続増加の反動と系統への高い人気の沈静化で減少。コース別では、(商/商学総合)(85)が大幅減少で3年ぶりに減少し、(商/フレックス総合)(87)は2年連続減少。
- 社会(83)は、3年連続増加の反動と系統への高い人気の沈静化で大幅減少。5学科全てが減少し、特に(社会福祉)(58)、(メディア)(73)は大幅減少。
- グローバル・コミュニケーション(73)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。2コースとも大幅減少。
- 理工(90)は、2年連続減少。学科別では、(エネルギー機械工)(128)が3年連続減少の反動で大幅増加。(インテリジェント情報工)(103)はやや増加で、系統への高い人気から4年連続増加。一方、(電気工)(72)、(機械システム工)(80)、(数理システム)(81)、(電子工)(82)、(化学システム創成工)(85)は大幅減少。(化学システム創成工)は系統への不人気もあって4年連続減少。
- 生命医科学(101)は、前年度大幅増加の反動はなく、微増で2年連続増加。学科別では、(医情報)(123)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(医工)(89)は減少で、前年度の反動による増減が継続。
- スポーツ健康科学(106)は、前年度減少の反動でやや増加。

<センター利用方式>

- 文(103)は、前年度減少の反動は小さく、やや増加に留まった。5学科全てが前年度と逆の増減で、中では(英文)(115)の大幅増加、(哲)(66)の大幅減少が目立った。
- 文化情報(88)は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、<A方式>(119)が2年連続大幅増加、<B方式>(81)は大幅減少と対照的。
- 心理(81)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(106)は、やや増加で2年ぶりに増加。2学科とも増加。
- 政策(92)は、2年連続増加の反動で減少。
- 経済(88)は、2年連続大幅増加の反動と系統への高い人気の沈静化で減少。
- 商(165)は、前年度以上の大幅増加で3年連続増加。
- 社会(159)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(メディア)(280)、(産業関係)(234)、(教育文化)(217)がいずれも前年度大幅減少の反動で倍以上の激増。他の2学科はいずれも2年連続減少。
- 理工(116)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(電気工)(78)が大幅減少で4年連続減少。(電子工)(92)、(化

学システム創成工(95)も減少が継続したが、他の7学科は大幅増加。特に(エネルギー機械工)(187)は激増。  
 ○生命医科学(122)は、大幅増加で3年連続増加。学科別では、(医工)(97)はやや減少だが、他の2学科は大幅増加。

**立命館大：大学全体では6年ぶりに減少 一般：-1,902人 センター：-2,162人**



**入試変更点**

学部新設：グローバル教養  
 試験会場：〈全学統一〉〈薬学〉…八王子会場、横浜会場追加、高知会場廃止  
 〈学部個別〉〈IR〉〈セ・併用〉…横浜会場、大分会場追加  
 〈後期分割〉〈セ・感性+〉…大宮会場、八王子会場、横浜会場、大分会場追加  
 選抜方法：法〈セ〉…英語外部試験利用可に  
 経営〈全学統一〉、生命科学〈学部個別〉…学科間の併願可に  
 スポーツ健康科学…〈学部個別文系〉新規実施  
 募集人員：総合心理〈全学統一〉…93人→90人、〈学部個別文系〉…12人→15人  
 法〈学部個別〉…50人→60人、〈セ・併用〉…80人→70人、〈セ・後期〉15人→10人  
 〈セ・3教科、5教科、7科目〉…計118人→計113人  
 経済(経済/経済)〈セ・後期〉…20人→15人、(経済/国際)〈全学統一〉…50人→45人  
 経営(経営)〈全学統一〉…189人→185人、〈学部個別〉…40人→43人、〈後期〉…5人→4人  
 〈セ・併用〉…15人→12人、〈セ・3教科、5教科、7科目〉…計80人→計65人  
 〈セ・後期〉…5人→3人、〈セ・感性+〉…25人→23人  
 (国際経営)〈全学統一〉…50人→45人、〈学部個別〉…12人→13人、〈セ・併用〉…5人→3人  
 〈セ・5教科、7科目〉…計20人→計17人  
 国際関係(国際関係/国際関係)〈IR〉…15人→10人、〈学部個別〉…5人→10人  
 食マネジメント〈全学統一〉…115人→110人  
 理工(数理科学)〈全学統一〉…35人→30人  
 (環境都市工)〈全学統一〉…65人→70人、〈学部個別〉…18人→20人  
 スポーツ健康科学〈学部個別〉…10人→8人、〈セ・後期〉…5人→4人

**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、4,064人(96)のやや減少で6年ぶりに減少。細かい方式別では、一般方式〈後期分割〉(76)、センター利用方式の〈セ・併用〉(79)の大幅減少が目立った。学部別では、1割以上のはっきりとした増減の学部が多く、新設のグローバル教養を除いた既存の15学部中9学部が減少。薬(78)、経済(82)、情報理工(84)は大幅減少。

**〈一般方式〉**

- 文(88)は、3年ぶりに減少。学域別では、(人文/地域研究)(105)はやや増加したが、他は減少。
- 法(100)は、5人のみの減少だが、5年ぶりに減少。
- 政策科学(95)は、やや減少で前年度大幅増加の反動は小さかった。3方式とも前年度と逆の増減で、〈後期分割〉(118)のみ大幅増加。
- 経済(81)は、5年連続増加の反動で大幅減少。専攻別では、いずれも前年度の大幅な増減の反動で、(経済/国際)(168)が大幅増加、(経済/経済)(70)は大幅減少。
- 経営(108)は、2年ぶりに増加。方式別では、学科間の併願が可能になった〈全学統一〉(121)が大幅増加。一方で、〈学部個別〉(61)は大幅減少。学科別では、(国際経営)(186)が前年度大幅減少の反動で激増だが、(経営)(93)はやや減少で2年連続減少。
- 産業社会(102)は、微増で前年度3年ぶりに減少した反動は小さかった。専攻別では、(現代社会/現代社会)(157)のみ大幅増加で、他の4専攻はいずれも大幅減少。
- 国際関係(96)は、やや減少で前年度の反動による増減が継続。2専攻ともやや減少。
- 開設2年目の食マネジメント(94)は、やや減少。方式別では、〈学部個別〉(123)が大幅増加、〈後期分割〉(70)は大幅減少。
- 理工(93)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(物理科学)(104)のみやや増加。(建築都市デザイン)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

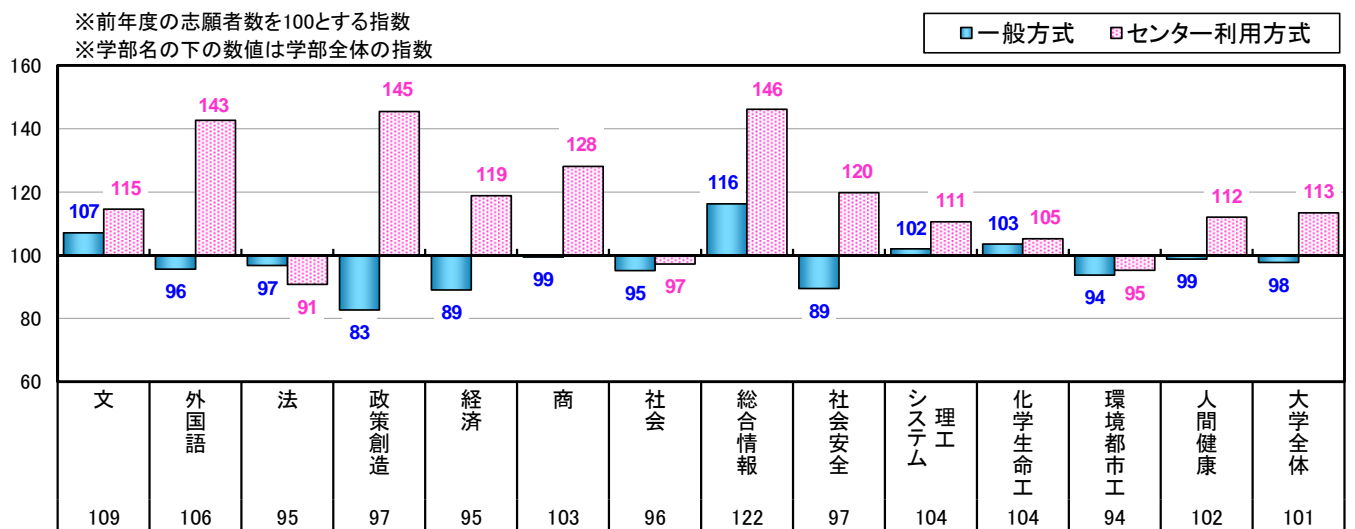
- 情報理工(85)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 薬(80)は、系統の人気低下で大幅減少。2学科とも大幅減少。
- スポーツ健康科学(131)は、大幅増加で3年ぶりに増加。新規実施の<学部個別文系>を除いても(115)の大幅増加。
- 生命科学(113)は、2年連続増加。方式別では、他方式同様に2学科併願が可能になった<学部個別>(137)が大幅増加。<後期分割>(133)も大幅増加。学科別では、4学科全てが増加。特に(生命情報)(126)、(生物工)(120)は大幅増加。
- 映像(114)は、前年度大幅増加の反動はなく2年連続増加。

<センター利用方式>

- 文(85)は、3年連続大幅減少。学域別では、(人文/東アジア)(118)、(人文/地域研究)(110)のみ増加。
- 総合心理(88)は、3年連続減少。方式別では、<セ・5教科>(104)のみやや増加。
- 法(105)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、<セ・5教科>(161)が大幅増加。<セ・後期分割>(58)は大幅減少。
- 政策科学(75)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、<セ・後期>(118)、<セ・7科目>(114)は増加したが、他の3方式は減少。<セ・併用3教科>(55)、<セ・3教科>(70)は大幅減少。
- 経済(84)は、大幅減少で2年連続減少。専攻別では、(経済/国際)(195)が3年連続大幅減少の反動でほぼ倍増。(経済/経済)(82)は大幅減少で2年連続減少。
- 経営(75)は、2年連続大幅減少。2学科とも大幅減少したが、募集人員減少のため、特に(経営)(77)の志願倍率は、29.0倍→27.2倍と大きなダウンはなかった。
- 産業社会(120)は、大幅増加で3年ぶりに増加。専攻別では、(現代社会/現代社会)(172)、(現代社会/スポーツ社会)(119)が大幅増加。一方で、(現代社会/人間福祉)(73)は大幅減少。
- 国際関係(76)は、大幅減少で2年連続減少。
- 食マネジメント(143)は、大幅増加。方式別では、<セ・後期>(84)を除いた4方式が増加し、特に<セ・3教科>(168)、<セ・7科目>(168)は激増。
- 新設のグローバル教養は、一般選抜では募集人員2人のセンター利用方式の<センター+面接>のみで募集だが、志願者はいなかった。
- 情報理工(83)は、大幅減少で3年ぶりに減少。
- 薬(76)は、大幅減少で2年連続減少。2学科とも大幅減少。
- スポーツ健康科学(90)は、3年ぶりに減少。
- 生命科学(113)は、2年ぶりに増加。4学科全てが増加し、(生命情報)(126)、(生命医科学)(123)は大幅増加。(応用化学)(104)はやや増加で3年連続増加。
- 映像(104)は、前年度大幅増加の反動はなくやや増加。

関西大：大学全体では3年連続増加

一般：-1,654人 センター：+2,890人



**入試変更点** 選抜方法：<学部個別><全学部>…生物の解答方法が記述式のみに変更  
文、政策創造、経済<学部個別・英語外部試験利用>…英語外部試験の対象試験変更  
外国語<全学部・2教科英国>…英語外部試験の対象試験変更  
文<セ・併用小論文>、システム理工<セ・前期5科目><セ・中期4科目>…新規実施  
文<学部個別・漢英>、システム理工<セ・前期6科目><セ・中期5科目>…廃止  
募集人員：法<後期>…18人→15人、<セ・後期>…12人→10人  
化学生命工<学部個別・理科1科目><学部個別・理科設問2科目>…計64人→計63人  
<学部個別・理科設問>…53人→52人、<全学部2月7日>…41人→40人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,236人(101)の微増だが3年連続増加。方式別では、一般方式は1,654人(98)の微減だが、センター利用方式は2,890人(113)の3年連続増加。学部別では、13学部のうち7学部が増加。前年度1割以上増加した文系4学部、法(95)、経済(95)、社会(96)、政策創造(97)はいずれもやや減少。

<一般方式>

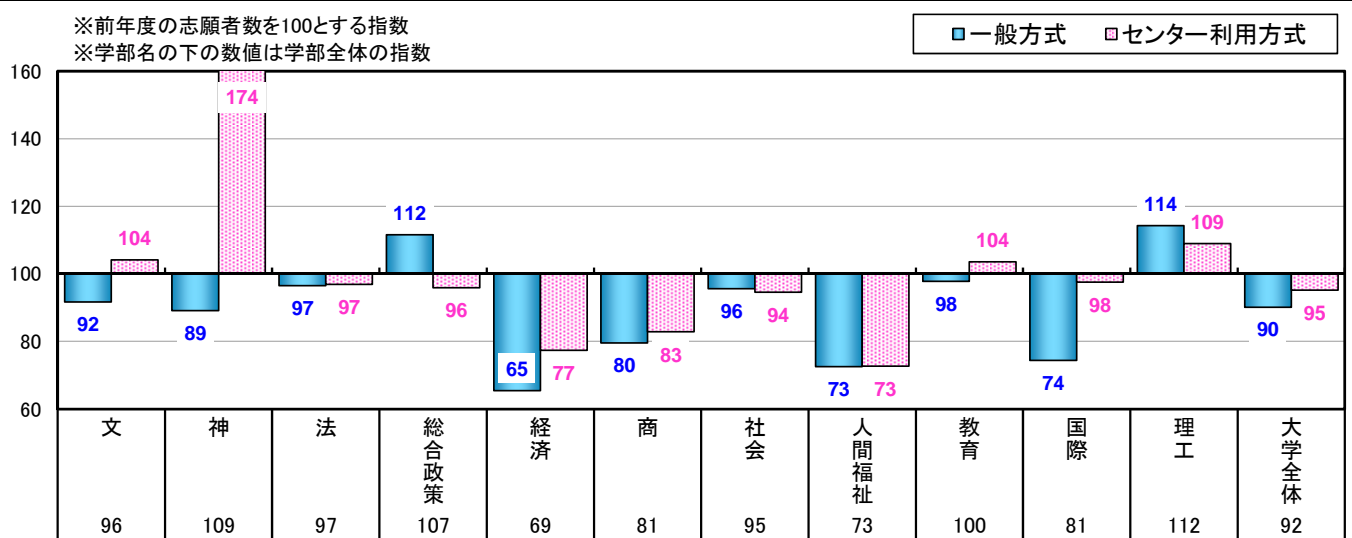
- 文(107)は、やや増加で3年連続増加。

- 外国語(96)は、やや減少し、方式別でも全て減少。
- 政策創造(83)は、2年連続増加の反動で大幅減少。
- 経済(89)は、7年ぶりに減少。
- 社会(95)は、やや減少で5年ぶりに減少。
- 総合情報(116)は、大幅増加で2年連続増加。
- 社会安全(89)は、2年連続減少。
- システム理工(102)は、微増で3年連続増加。
- 化学生命工(103)は、やや増加で2年連続増加。
- 環境都市工(94)は、前年度増加の反動でやや減少。

＜センター利用方式＞

- 文(115)は、3年連続増加。新規実施の<セ・併用小論文>を除く既存の方式のみでも(108)の増加。
- 外国語(143)は、大幅増加で5年ぶりに増加。方式別でも全て増加。
- 法(91)は、5年ぶりに減少。
- 政策創造(145)は、大幅増加で3年連続増加。＜前期＞(168)は3年連続大幅増加。
- 経済(119)は、大幅増加で4年連続増加。
- 商(128)は、大幅増加。＜中期＞(140)は前年度減少の反動で大幅増加。
- 総合情報(146)は、大幅増加で5年ぶりの増加。
- 社会安全(120)は、大幅増加。＜中期＞(142)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- システム理工(111)は、3年連続増加。＜前期＞(119)は大幅増加だが、他の2方式はいずれも減少。
- 化学生命工(105)は、やや増加で2年連続増加。
- 人間健康(112)は、2年連続増加。

関西学院大：大学全体では2年連続減少、増加は3学部のみ 一般：-2,787人 センター：-691人



**入試変更点** 選抜方法：＜セ・1月英語検定試験活用型＞…英語外部試験のスコア変更、対象試験追加・除外  
 教育(教育/初等教育)＜学部個別・主体性文系＞＜学部個別・主体性理系＞  
 …書類審査に JAPAN e-Portfolio「学びのデータ」追加  
**募集人員**： 経済…＜学部文系＞115人、＜学部理系＞20人→＜学部文系＞＜学部理系＞計130人  
 ＜全学文系＞115人、＜全学理系＞15人→＜全学文系＞＜全学理系＞計130人  
 ＜英数型＞＜英語併用＞＜数学併用＞計60人→＜英数型＞＜英語併用＞＜数学併用＞計65人  
 人間福祉(人間科学)＜学部個別＞…13人→18人、＜全学＞…13人→18人

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,478人(92)の減少で2年連続減少。方式別では、一般方式は2,787人(90)の減少、センター利用方式は691人(95)のやや減少でいずれも2年連続減少。学部別で増加したのは、理工(112)、神(109)、総合政策(107)の3学部のみ。経済(69)、人間福祉(73)、商(81)、国際(81)は大幅減少。

＜一般方式＞

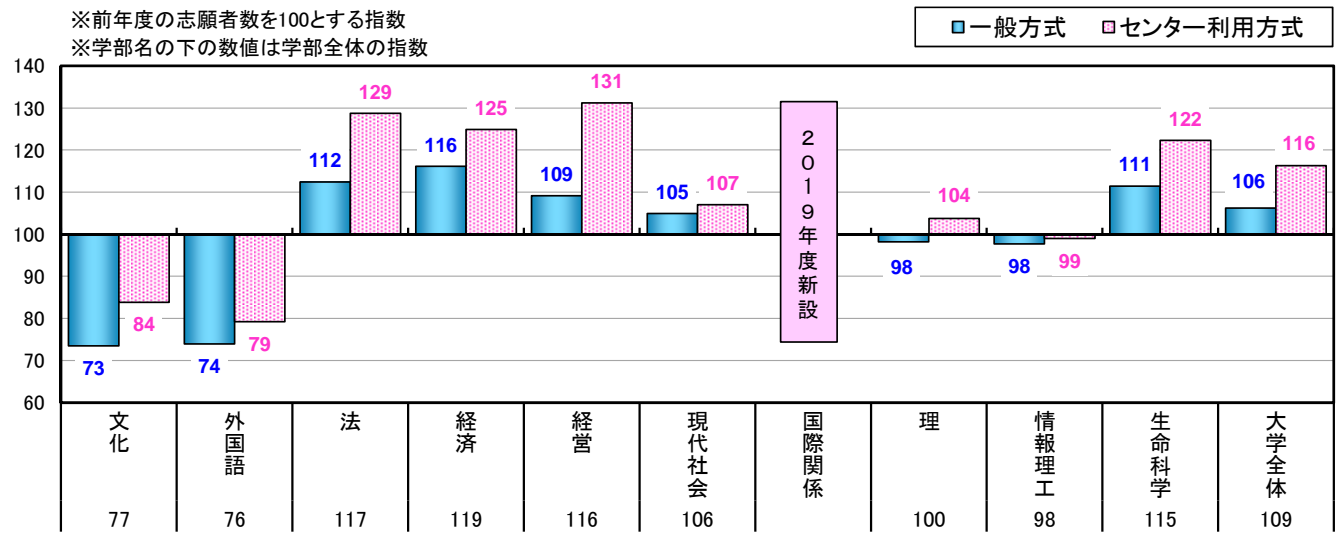
- 文(92)は、2年連続減少。学科別では、(総合心理科学)(73)の大幅減少が目立った。
- 法(97)は、やや減少で2年ぶりに減少。学科別では、(法律)(106)は2年連続増加だが、(政治)(76)は大幅減少。
- 総合政策(112)は、3年連続増加。全ての方式が増加し、特に＜英数型＞(162)の激増が目立った。
- 経済(65)は、大幅減少で3年ぶりに減少。全ての方式で大幅減少。
- 商(80)は、大幅減少で3年ぶりに減少。全ての方式で大幅減少し、特に＜英数型＞(63)の大幅減少が目立った。
- 人間福祉(73)は、大幅減少で4年ぶりに減少。3学科全てが大幅減少。
- 国際(74)は、大幅減少で2年連続減少。方式別では、＜英数型＞(60)、＜学部個別＞(68)の大幅減少が目立った。
- 理工(114)は、前年度の反動による増減が継続し増加。学科別では、全学科が増加し、特に(人間システム工)(127)、(情報科学)(126)、(数理科学)(120)の大幅増加が目立った。

<センター利用方式>

- 文(104)は、前年度の反動による増減が継続しやや増加。学科別では、(総合心理科学)(94)のみやや減少。
- 法(97)は、やや減少で3年ぶりに減少。学科別では、(政治)(78)の大幅減少が目立った。
- 総合政策(96)は、やや減少で4年ぶりに減少。
- 経済(77)は、大幅減少し2年連続減少。
- 商(83)は、大幅減少で3年ぶりに減少。全ての方式が減少し、特に<セ・英語併用>(54)の大幅減少が目立った。
- 社会(94)は、2年連続減少。<セ・数学併用>(107)を除いた方式が減少。
- 人間福祉(73)は、前年度の反動による増減が継続し大幅減少。3学科全てが大幅減少。
- 教育(104)は、やや増加で6年ぶりに増加。学科・コース別では、(教育/幼児教育)(92)を除く2コースで増加。
- 理工(109)は、前年度の反動による増減が継続し増加。学科別では、(生命科学)(158)、(生命医化学)(132)、(数理科学)(130)、(人間システム工)(120)が大幅増加。一方で、(物理)(79)は大幅減少。

京都産業大：大学全体では4年連続増加

一般：+2,118人 センター：+2,670人



入試変更点

試験会場：<一般・前期>…松本会場での試験実施日削減、<一般・後期>…大津会場廃止  
 募集停止：外国語(国際関係)  
 学科改組：経営(経営、ソーシャル・マネジメント、会計ファイナンス)→経営(マネジメント)  
 学部新設：国際関係  
 学部改組：総合生命科学→生命科学  
 選抜方法：<センター>…英語外部試験の対象試験にGTEC 4技能追加、TOEFL Junior Comprehensive 除外  
 文化<英語1科目型>…廃止

COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,788人(109)の増加で4年連続増加。方式別では一般方式(106)がやや増加、センター方式(116)は大幅増加。学部別では、外国語(76)が(国際関係)から国際関係へ改組した影響で大幅減少。新設の国際関係は、前年度の外国語(国際関係)と比較すると(250)の激増。

<一般方式>

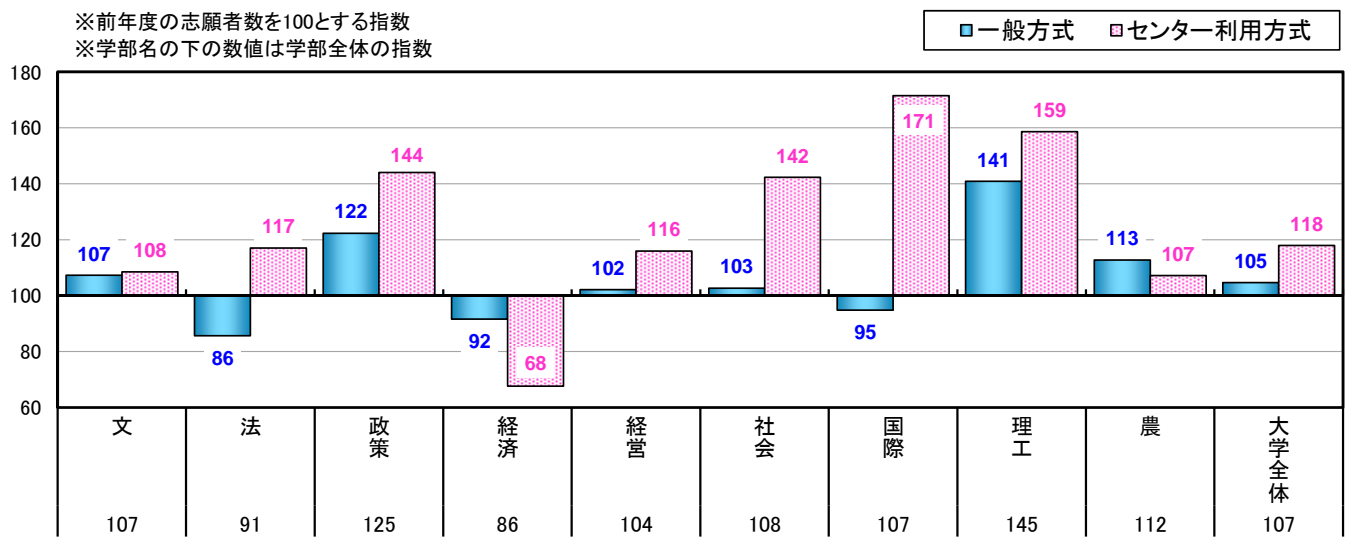
- 文化(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際文化)(66)が大幅減少、(京都文化)(87)は減少。
- 外国語(74)は、大幅減少で、学部へ改組した(国際関係)を除いても(88)の減少。学科別では、(アジア言語)(73)の大幅減少が目立った。
- 法(112)は、2年ぶりに増加。学科別では、(法律)(126)が大幅増加、(法政策)(87)は減少と対照的。
- 経済(116)は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、<中期>(135)、<前期>(118)がいずれも大幅増加。一方で<後期>(85)は大幅減少。
- 学科改組の経営(109)は、4年連続増加。方式別では、全方式が増加。
- 新設の国際関係は、志願者数は1,535人、志願倍率は22.7倍。前年度の外国語(国際関係)と比較すると(258)の激増。
- 情報理工(98)は、系統への人気から、前年度倍増の反動は少なく微減に留まった。
- 総合生命科学から改組した生命科学(111)は、募集人員が増加した影響もあり、前年度激増の反動はなく増加。

<センター利用方式>

- 文化(84)は、大幅減少。学科別では、(国際文化)(71)は前年度激増の反動で大幅減少。(京都文化)(107)は2年連続増加。
- 外国語(79)は大幅減少だが、学部へ改組した(国際関係)を除くと(98)の前年度並。学科別では、(アジア言語)(78)が大幅減少。(ヨーロッパ言語)(108)、(英語)(105)は増加。
- 7法(129)は、大幅増加で4年連続増加。学科別では、(法律)(149)は2年連続大幅増加だが、(法政策)(95)はやや減少。
- 経済(125)は、2年連続大幅増加。方式別では、<セ・後期>(94)を除いていずれの方式も大幅増加。
- 経営(131)は、4年連続増加。方式別では、全方式が大幅増加。
- 現代社会(107)は、2年連続増加。学科別では、(健康スポーツ社会)(121)が前年度減少の反動で大幅増加。(現代社会)(100)は3人のみ減少で前年度並。
- 国際関係は、志願者数は847人で、前年度の外国語(国際関係)と比較すると(238)の激増。

- 情報理工(99)は、前年度倍以上の激増だった反動はなく前年度並。
- 生命科学(122)は、前年度激増の反動はなく大幅増加。

**龍谷大：大学全体では8年連続増加、政策、理工は大幅増加 一般：+1,980人 センター：+1,662人**



**入試変更点**

試験会場：〈A日程〉〈B日程〉…伊丹会場を追加  
 試験会場：〈A日程〉…札幌会場、仙台会場、東京会場、浜松会場、津会場、姫路会場、福岡会場の試験日追加  
 選抜方法：新規実施…法〈セ・前期3科目型〉〈セ・中期3教科型〉〈セ・中期4科目型〉  
 国際〈セ・前期3科目型〉  
 国際(国際文化)〈A文系型国際学部独自方式〉〈B文系型国際学部独自方式〉  
 〈セ・前期併用リスニング型〉〈セ・後期英語1教科型〉  
 選抜方法：廃止…法〈セ・前期3教科型〉〈セ・前期4教科型〉  
 国際〈セ・前期3教科型〉  
 国際(国際文化)〈セ・後期3教科型〉  
 募集人員：法〈B日程〉…63人→50人  
 政策〈A日程〉…94人→92人、〈B日程〉…36人→30人、  
 〈セ・前期3教科型〉…5人→9人、〈セ・前期4科目型〉…5人→9人  
 国際(国際文化)〈B日程〉…50人→45人、〈C日程〉…11人→8人、〈セ・中期4教科型〉…10人→8人

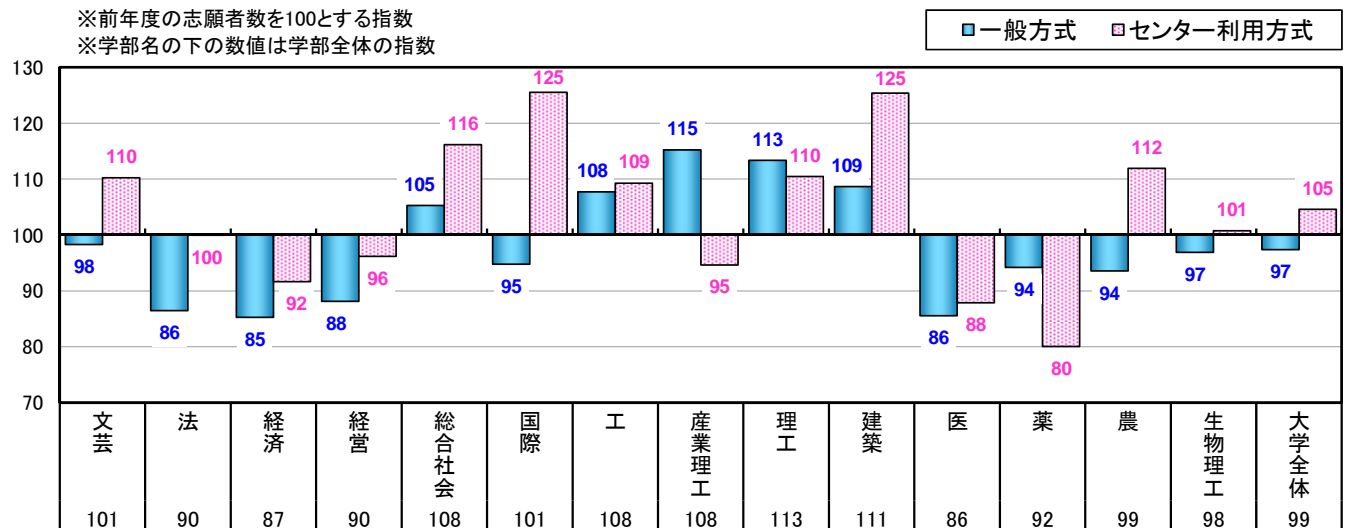
**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数  
 大学全体では、3,642人(107)のやや増加で8年連続増加。学部別では、経済(86)、法(91)を除く7学部が増加。方式別では、一般方式は1,980人(105)のやや増加、センター利用方式は1,662人(118)の大幅増加となった。

**<一般方式>**  
 ○文(107)は、やや増加で2年連続増加。方式別では、〈A日程〉の2方式を除く4方式が減少。  
 ○法(86)は、減少。方式別では、6方式全てが減少し、特に募集人員が減少した〈B日程〉の2方式が大幅減少。  
 ○政策(122)は、大幅増加。募集人員減少の影響もあり、志願倍率は24.9倍→32.4倍にアップ。  
 ○経済(92)は、3年ぶりに減少。方式別では、〈B文系型高得点科目重視方式〉(104)を除く5方式はいずれも減少。  
 ○国際(95)は、全ての方式で減少し、3年ぶりに減少。新規実施の2方式を除くと(83)の大幅減少。  
 ○理工(141)は、3年連続減少の反動で大幅増加。6学科全てが大幅増加。  
 ○農(113)は、増加。学科別では、(食品栄養)(88)を除く3学科が増加し、特に(植物生命科学)(140)、(食料農業システム)(128)の大幅増加が目立った。

**<センター利用方式>**  
 ○文(108)は、2年連続増加。  
 ○法(117)は、大幅増加し、2年連続増加。既存の2方式はいずれも増加。新規実施の〈セ・中期3教科型〉の志願倍率は10.9倍、〈セ・中期4科目型〉の志願倍率は6.2倍だった。  
 ○政策(144)は、募集人員が増加した2方式の激増が影響し、大幅増加。  
 ○経済(68)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。4方式全てが減少し、志願倍率は28.2倍→19.1倍へダウン。  
 ○経営(116)は、大幅増加で4年連続増加。  
 ○社会(142)は、2年連続大幅増加。(社会)〈併用・中期3教科型〉(87)を除きその他の方式はいずれも大幅増加。  
 ○国際(171)は、激増し、志願者数は1,000人を上回った。方式別では、新規実施の〈セ・前期併用リスニング型〉が、志願倍率27.3倍の激戦。  
 ○理工(159)は、大幅増加で2年連続増加。全ての方式で増加。  
 ○農(107)は、やや増加。(植物生命科学)(127)、(食料農業システム)(117)の大幅増加が影響。

近畿大：7年ぶりに減少、文系学部の減少目立つ

一般：-3,171人 センター：+1,618人



**入試変更点** 試験会場：〈前期B〉…紀伊田辺会場を廃止、沖縄会場を追加  
 名称変更：農(バイオサイエンス)→(生物機能科学)  
 入試科目：工〈セ・C方式中期〉…選択から公除外  
 選抜方法：理工、建築、薬(創薬科学)、農、生物理工〈前期A〉…理系学部他学部併願方式導入  
 理工〈前期A〉…学部内併願方式導入  
 工、農…〈セ・C方式前期4教科4科目型〉を新規実施  
 農、生物理工…〈セ・C方式前期5教科5科目型〉を新規実施

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

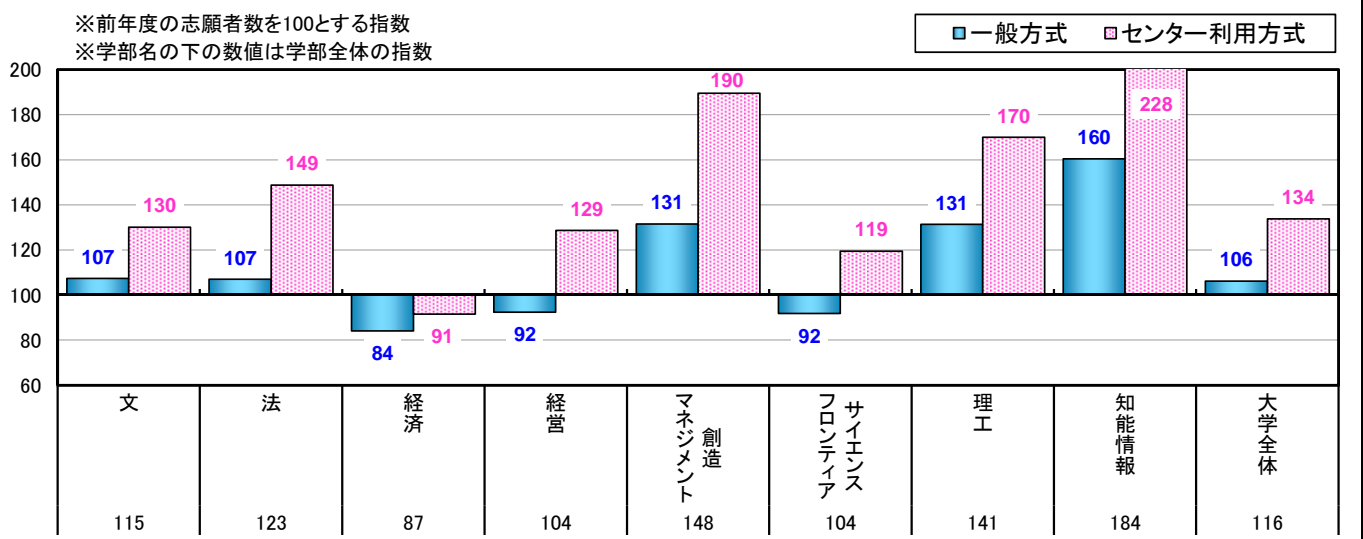
大学全体では、1,553人(99)の微減で7年ぶりに減少したが、志願者数全国最多は継続。方式別では、センター利用方式(105)はやや増加だが、新規実施方式を除くと(99)の微減。学部別では、文系の減少、理・工系の増加が特徴的。理・工系学部は生物理工(98)を除き増加。〈前期A〉での理系学部他学部併願方式、理工〈前期A〉での学部内併願方式導入、センター利用方式で新方式実施が増加の要因。

**〈一般方式〉**  
 ○文芸(98)は、微減だが7年ぶりに減少。学科・専攻別では、(文/英語英米文)(115)が大幅増加、(芸術/造形芸術)(104)はやや増加だが、他の学科・専攻は減少。  
 ○法(86)は、2年連続減少。  
 ○経済(85)は、大幅減少で3年ぶりに減少。3学科全てが減少したが、特に(総合経済政策)(78)、(国際経済)(84)は大幅減少。  
 ○経営(88)は、3年連続大幅増加の反動で減少。学科別では、(キャリア・マネジメント)(102)は微増だが5年連続増加。他の3学科は大幅減少でいずれも4年ぶりの減少。  
 ○総合社会(105)は、やや増加で5年連続増加。3専攻全てが増加。  
 ○国際(95)は、やや減少で2年連続減少。専攻別では、(国際/東アジア)(87)は2年連続増加の反動で減少。(国際/グローバル)(97)は前年度大幅減少の反動はなくやや減少。  
 ○工(108)は、3年連続増加。学科別では、(ロボティクス)(128)、(情報)(121)、(建築)(116)が大幅増加。  
 ○産業理工(115)は、大幅増加で10年連続増加。  
 ○理工(113)は、3年連続増加。学科・コース別では、(情報)(134)、(社会環境工)(131)、(理/物理)(125)などが大幅増加。  
 ○建築(109)は、2年ぶりに増加。  
 ○医(86)は、3年連続減少。2方式とも減少したが、特に〈前期A〉(81)は大幅減少。1次試験のバッティング他大学が前年度の2大学から3大学になったことが影響。  
 ○薬(94)は、系統の人気低下でやや減少し、2年連続減少。学科別では、(創薬科学)(119)は大幅増加だが、(医療薬)(90)は2年連続減少。  
 ○農(94)は、やや減少で2年連続減少。前年度大幅減少の反動、〈前期A〉での理系学部他学部併願方式導入の影響はなかった。学科別では、(環境管理)(114)のみ増加。名称変更の(生物機能科学)(76)は2年連続大幅減少。  
 ○生物理工(97)は、2年連続やや減少。学科別では、唯一増加の(人間環境デザイン工)(119)が大幅増加。

**〈センター利用方式〉**  
 ○文芸(110)は、5年連続増加。学科・コース別では、(芸術/舞台芸術)(98)、(文/日本文)(99)は微減だが、他の学科・専攻は増加。  
 ○経済(92)は、3年ぶりに減少。3学科全てが減少。  
 ○経営(96)は、やや減少で7年ぶりに減少。学科別では、(キャリア・マネジメント)(121)は大幅増加だが、他の3学科は減少。  
 ○総合社会(116)は、大幅増加で5年連続増加。  
 ○国際(125)は、3年連続大幅増加。  
 ○工(109)は、2年連続増加。学科別では、(ロボティクス)(99)は微減だが、他の学科は増加。特に(情報)(125)は大幅増加。  
 ○理工(110)は、3年連続増加。学科・コース別では、(理/化学)(74)、(理/数学)(80)は大幅減少したが、他の学科・コースは増加。特に(情報)(136)、(生命科学)(131)、(電気電子工)(115)は大幅増加。

- 建築(125)は、大幅増加で2年ぶりに増加。
- 医(88)は、大幅減少で2年ぶりに減少。3方式とも前年度と逆の増減で、増加したのは<セ・C後期>(129)のみ。<セ・C前期>(83)は大幅減少。
- 薬(80)は、2学科とも大幅減少で3年ぶりに減少。
- 農(112)は、2年ぶりに増加。名称変更の(生物機能科学)(81)は大幅減少したが、他の5学科は増加。

**甲南大：大学全体では3年連続増加、減少は経済のみ 一般：+787人 センター：+2,318人**



**入試変更点** 選抜方法：<セ・前期外部英語試験活用>…英語外部試験の対象試験に GTEC 4 技能追加  
入試科目：文(英語英米文)<セ・前期併用>…センターの国、歴公が必須から選択に、選択に数、理、外追加

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,105人(116)の大幅増加で3年連続増加。方式別では、センター利用方式(134)が2年連続大幅増加。学部別では、経済(87)は減少したが、他の学部は増加。大幅増加の学部が目立った。

**<一般方式>**

- 文(107)は、やや増加で2年ぶりに増加。学科別では、(社会)(79)が大幅減少、(日本語日本文化)(98)は微減だが、他の3学科は大幅増加。
- 法(107)は、2年連続やや増加。
- 経済(84)は、大幅減少。
- 経営(92)は、3年ぶりに減少。
- マネジメント創造(131)は、3年連続大幅増加。(マネジメント創造/マネジメント)(134)は志願者数が1,000人を突破。
- フロントサイエンス(92)は、3年ぶりに減少。
- 理工(131)は、大幅増加で2年ぶりに増加。3学科全てが大幅増加。
- 知能情報(160)は、系統の高い人気で激増し、志願倍率は7.6倍→12.2倍にアップ。

**<センター利用方式>**

- 文(130)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、(社会)(79)は減少したが、他の4学科は大幅増加。特に(英語英米文)(199)は倍増。
- 法(149)は、大幅増加で2年連続増加。
- 経済(91)は、減少。方式別では、<セ・併用前期A>(113)を除いた4方式が減少。
- 経営(129)は、2年連続大幅増加。
- マネジメント創造(190)は、激増で3年連続増加。志願倍率は16.8倍→31.9倍に大幅アップ。
- フロントサイエンス(119)は、大幅増加で3年連続増加。英語外部試験の対象試験を拡大した<セ・前期外部英語試験活用>(229)は、約2.3倍増の激増。
- 理工(170)は、大幅増加で5年ぶりに増加。全ての学科が大幅増加し、特に機能分子化(176)の激増が目立った。
- 知能情報(228)は、激増で5年ぶりに増加。<セ・後期>(92)を除いた方式がいずれも倍増以上。

## 2019年度入試状況分析【私立大】

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント(医学部医学科はP. 41~44に掲載)
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
北星学園大	一般	+20	101	409	2,009	409	1,989	大学全体では、350人(112)の増加で3年連続増加。3学部全てが増加したが、特に社会福祉(116)、文(115)は大幅増加。学科別では、経済(経営情報)(87)、社会福祉(福祉臨床)(89)がいずれも一般方式の大幅減少のため学科合計では減少したが、他の学科は増加。特に社会福祉(福祉心理)(158)、経済(経済法)(132)、文(心理・応用コミュニケーション)(120)は大幅増加。
	センター	+330	138	89	1,192	89	862	
北海学園大	一般	+147	104	853	4,333	851	4,186	大学全体では、765人(112)の増加で2年連続増加。2部を除いても762人(113)の増加で2年連続増加。2部を除いた5学部はいずれも増加。特に工(128)は系統の人気アップで大幅増加し、4年ぶりに増加。全学科・コースが大幅増加。経営(113)、人文(109)はいずれも2学科ともに増加。
	センター	+618	129	283	2,776	270	2,158	
北海道科学大	一般	+679	120	309	4,043	319	3,364	大学全体では、1,394人(124)の大幅増加で2年連続増加。学部別では、薬(99)は微減だが、他の3学部はいずれも3割近い大幅増加。増加した3学部の学科別では、保健医療(義肢装具)(73)は一般方式、センター利用方式とも大幅減少だが、他の11学科は大幅増加で、ほとんどの学科が前年度の反動となった。
	センター	+715	129	131	3,211	131	2,496	
酪農学園大	一般	-515	75	309	1,541	305	2,056	大学全体では、552人(81)の大幅減少で、2学群ともに大幅減少。獣医(80)は(獣医)(79)が大幅減少、(獣医保健看護)(96)はやや減少で3年連続減少。農食環境(83)は(環境共生)(101)は微増だが、他の3学類はいずれも大幅減少。
	センター	-37	96	63	839	44	876	
東北学院大	一般	+48	101	1,147	6,609	1,147	6,561	大学全体では、547人(105)のやや増加で2年ぶりに増加。学部別では、経営(81)、教養(99)は減少したが、他の4学部は増加。特に工(116)は大幅増加で、(電気電子工)(95)を除いた3学科が大幅増加。経営は2年連続減少で、一般方式(83)、センター利用方式(79)のいずれも大幅減少。教養は微減だが、4年ぶりに減少。
	センター	+499	114	295	4,119	295	3,620	
駿河台大	一般	+1,236	235	420	2,153	420	917	大学全体では、1,874人(213)の激増で4年連続増加。法(226)、メディア情報(225)、経済経営(223)、現代文化(200)、心理(191)の5学部全てが激増。
	センター	+638	187	140	1,374	140	736	
獨協大	一般	-591	95	845	11,872	865	12,463	大学全体では、1,479人(106)のやや増加で4年連続増加。4学部全てが増加したが、特に法(123)は大幅増加。学部別・方式別では、法は一般方式、センター利用方式とも増加したが、他の3学部はいずれも一般方式が減少、センター利用方式は増加。学科別では、法(国際関係法)(200)、外国語(フランス語)(175)の大幅増加、経済(経済)(77)の大幅減少が目立った。
	センター	+2,070	119	385	13,092	377	11,022	
文教大	一般	+1,702	116	927	12,521	925	10,819	大学全体では、3,154人(118)の大幅増加で2年ぶりに増加。大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われた。全学部が2年ぶりに増加し、文(142)、情報(137)、国際(131)、経営(123)、人間科学(122)はいずれも大幅増加。学科・専修・コース別で減少したのは、教育(103)の4専修1コースのみ。
	センター	+1,452	123	292	7,812	291	6,360	
千葉工業大	一般	+5,229	111	791	53,298	783	48,069	大学全体では、11,971人(115)の大幅増加で2年連続増加。全ての募集区分が増加し、センター利用方式(122)は2年連続大幅増加。学部別では、5学部全てが増加。社会システム(124)は、大幅増加で9年連続増加。工(115)は、大幅増加で2年連続増加。情報科学(114)は11年連続増加。
	センター	+6,742	122	588	37,578	588	30,836	
青山学院大	一般	-3,568	93	2,797	46,287	2,671	49,855	大学全体では、2,501人(96)のやや減少で5年ぶりに減少。新設のコミュニティ人間科学を除くと、3,900人(94)のやや減少。既存の10学部中6学部が増加したが、減少した経営(77)、法(81)、社会情報(81)、文(82)はいずれも大幅減少。社会情報は2年連続大幅減少。一方、総合文化政策(115)、国際政治経済(103)は2年連続増加。
	センター	+1,067	108	248	14,117	248	13,050	
大妻女子大	一般	+385	109	433	4,468	406	4,083	大学全体では、1,854人(130)の大幅増加。学部別では、前年度減少の文(177)、社会情報(172)はいずれも激増。比較文化(128)は、2年連続大幅増加。一方、人間関係(99)は、微減だが唯一減少。学科・専攻別では、文(日本文)(299)で約3倍増の激増、社会情報の全専攻で指数170以上の激増。
	センター	+1,469	167	243	3,664	249	2,195	
学習院大	一般	-1,304	94	1,315	19,143	1,315	20,447	大学全体では、1,304人(94)のやや減少で4年ぶりに減少。学部別では、理(116)は大幅増加で増加が継続したが、文系の4学部はいずれも前年度と逆の増減。文(103)は(英語英米文化)(128)が大幅増加、(ドイツ語圏文化)(62)、(フランス語圏文化)(79)は大幅減少。経済(81)は2学科とも大幅減少。法(87)は2学科とも減少し、特に(政治)(77)は大幅減少。
	センター							

## 2019年度入試状況分析【私立大】

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント(医学部医学科はP. 41~44に掲載)
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
北里大	一般	-1,411	88	1,044	10,703	1,059	12,114	大学全体では、1,683人(90)の減少で3年連続減少。学部別では、看護(105)、海洋生命科学(100)の2学部のみ増加。一方、薬(86)は系統の人気ダウンと募集人員減少の影響で減少。(生命創薬科学)(101)は微増だが、(薬)(84)は大幅減少。獣医(90)は4年連続減少で3学科とも減少。理(96)はやや減少で3年連続減少。学科別では、(生物科学)(106)のみ増加。
	センター	-271	94	197	4,313	220	4,584	
慶應義塾大	一般	-1,426	97	3,758	41,875	3,758	43,301	大学全体では、1,426人(97)のやや減少で2年連続減少。最難関大を敬遠する傾向と合格者数絞り込みの継続が影響。学部別では、環境情報(107)、医(100)の2学部のみ増加。医は5年ぶりに増加。薬(91)、理工(96)はいずれも5年連続減少。薬は2学科ともに志願者数は5年前の7割強まで減少。法(93)は文系学部では減少率が最大。
	センター							
工学院大	一般	+2,079	117	796	14,410	829	12,331	大学全体では、3,430人(118)の大幅増加で、新規導入の<英語外部試験利用>を除いても(115)の大幅増加。総合大の合格者数絞り込みへの警戒感、AIやIoTへの高い関心が影響。全学部が増加したが、特に工(128)、先進工(126)、情報(120)は大幅増加。
	センター	+1,351	120	301	8,064	282	6,713	
國學院大	一般	+251	101	980	17,017	962	16,766	大学全体では、4,714人(119)の大幅増加。全学部が増加したが、特に法(122)、経済(122)、文(119)、神道文化(118)が大幅増加。学科・専攻別では、経済(経済)(92)、人間開発(健康体育)(93)を除いた学科・専攻は増加。特に文(外国語文化)(160)、経済(経済ネットワーク)(152)、経済(経営)(150)の大幅増加が目立った。
	センター	+4,463	156	319	12,454	330	7,991	
国際基督教大	一般	-193	87	300	1,255	300	1,448	大学全体では、193人(87)の減少で4年連続減少。方式別では、<A>(86)は2年連続減少し、志願倍率は4.7倍→4.1倍にダウン。<B>(90)も減少で、前年度の反動による増減が継続。
	センター							
駒澤大	一般	+1,422	106	2,105	26,517	2,105	25,095	大学全体では、3,900人(109)の増加で4年連続増加。大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われた。学部別では、グローバル・メディア・スタディーズ(176)、仏教(134)、法(129)、経営(124)が大幅増加。一方、医療健康科学(83)は大幅減少で3年連続減少。
	センター	+2,478	113	384	22,198	384	19,720	
実践女子大	一般	+481	113	351	4,274	351	3,793	大学全体では、9人(100)のみ増加の前年度並。学部別では、文(113)が増加、人間社会(90)、生活科学(96)は減少。減少の2学部はいずれもセンター利用方式の大幅減少が影響。学科・専攻別では、文(美学美術史)(126)、文(国文)(122)がいずれも3年連続大幅増加。生活科学(生活環境)(114)は3年連続増加。一方、生活科学(食生活/管理栄養士)(95)は2年連続減少。
	センター	-472	87	198	3,042	200	3,514	
芝浦工業大	一般	+217	101	1,165	25,410	1,166	25,193	大学全体では、4,771人(111)の増加で3年連続増加。4学部全てが増加。特にシステム理工(132)は全学科・コースが大幅増加。他の学部では、工(機械工)(118)、工(情報工)(118)が大幅増加。工(土木工)(89)はコース別募集から学科一括募集になって1割以上の減少。他に減少したのは、工(材料工)(91)、デザイン工(生産・プロダクトデザイン)(98)、建築(空間・建築デザイン)(98)のみ。
	センター	+4,554	128	400	21,095	392	16,541	
上智大	一般	-3,265	90	1,777	27,916	1,782	31,181	大学全体では、3,265人(90)の減少で3年ぶりに減少。学部別では、神(121)、法(104)の2学部のみ増加。総合グローバル(79)、文(85)、理工(85)はいずれも大幅減少。学科別では、法(地球環境法)(138)、外国語(フランス語)(128)、文(フランス文)(117)が大幅増加。一方、外国語(ドイツ語)(57)、総合人間科学(教育)(67)、外国語(英語)(76)などは大幅減少。
	センター							
昭和大	一般	-618	92	342	7,497	347	8,115	大学全体では、720人(93)のやや減少で4年連続減少。学部別では、歯(105)はやや増加だが、他の学部は減少。特に保健医療(77)は大幅減少で、学科別では、(理学療法)(115)は大幅増加だが、(作業療法)(50)は半減。看護(72)も大幅減少。薬(86)は減少。
	センター	-102	93	86	1,389	89	1,491	
昭和女子大	一般	-291	97	852	8,239	827	8,530	大学全体では、885人(107)のやや増加で4年連続増加。学部別では、国際(126)は大幅増加だが、(英語コミュニケーション)(159)、(国際)(91)と増減が分かれた。人間社会(110)、人間文化(109)は増加、生活科学(103)はやや増加。一方、グローバルビジネス(82)は大幅減少で、新設2年目の(会計ファイナンス)(63)の大幅減少が目立った。
	センター	+1,176	133	231	4,754	207	3,578	
昭和薬科大	一般	-14	99	100	1,067	100	1,081	大学全体では、89人(104)のやや増加で5年ぶりに増加。方式別では、センター利用方式は2方式とも増加。一方、一般方式<B>(99)は微減だが5年連続減少。
	センター	+103	110	40	1,130	40	1,027	

## 2019年度入試状況分析【私立大】

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント(医学部医学科はP. 41~44に掲載)
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
成蹊大	一般	+1,355	110	816	14,430	818	13,075	大学全体では、3,872人(118)の大幅増加。学部別では、4学部全てが増加。経済(142)は大幅増加で、方式別では、センター利用方式(193)が激増、一般方式(122)は大幅増加。理工(113)は2年連続増加で、(システムデザイン)(123)、(情報科学)(115)がいずれも大幅増加。法(110)は2学科とも増加。文(105)はやや増加で、(英語英米文)(129)の大幅増加が目立った。
	センター	+2,517	131	356	10,604	355	8,087	
成城大	一般	-312	97	946	11,257	946	11,569	大学全体では、1,818人(91)の減少。学部別では、社会イノベーション(137)が大幅増加で2年連続増加。一方、他の3学部はいずれも減少し、経済(71)、法(83)は大幅減少。学科別では11学科のうち8学科で減少。社会イノベーションの2学科はいずれも大幅増加だが、文芸(マスコミュニケーション)(67)、経済(経営)(68)、経済(経済)(74)などは大幅減少。
	センター	-1,506	84	229	8,059	229	9,565	
専修大	一般	+5,823	120	2,200	34,472	2,196	28,649	大学全体では、10,440人(123)の大幅増加で4年連続増加。新設の経営(ビジネスデザイン)を除いても、8,129人(118)の大幅増加。増加数は武蔵野大、千葉工業大に次いで全国で3番目の多さ。大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われた。学部別では、人間科学(91)、法二(96)のみ減少。増加した8学部はいずれも大幅増加。
	センター	+4,617	127	397	21,729	406	17,112	
玉川大	一般	+96	101	833	7,045	752	6,949	大学全体では、前年度と同数の志願者数だった。学部別では、リベラルアーツ(137)、経営(118)が大幅増加。観光(113)、文(111)、工(111)はいずれも1割以上の増加。工は学科・プログラム別では、(数学教員養成プログラム)(89)のみ減少。増加の4学科はいずれも大幅増加。他の3学部は減少し、特に教育(79)は大幅減少。
	センター	-96	97	270	3,069	199	3,165	
中央大	一般	+1,785	104	3,336	49,378	3,159	47,593	大学全体では、4,504人(105)のやや増加で2年連続増加だが、新設の国際経営、国際情報を除いた既存の6学部では、7,937人(91)の減少。増加したのは経済(108)のみで、文(75)、商(83)は大幅減少。文は前年度大幅増加の反動がはっきりと表れた。学科・専攻別では、経済(公共・環境経済)(144)の大幅増加、文(人文社会/ドイツ語ドイツ文学文化)(30)の激減が目立った。
	センター	+2,719	107	1,061	43,308	1,096	40,589	
津田塾大	一般	+146	107	345	2,258	330	2,112	大学全体では、440人(108)の増加。学部別では、学芸(113)は2年連続増加だが、新設の(多文化・国際協力)を除くと(98)の微減。一方、総合政策(89)は2年連続減少。学科別では、学芸(国際関係)(133)が大幅増加、(英語英文)(70)は大幅減少といずれも前年度と逆の増減。新設の(多文化・国際協力)は、志願者数668人、志願倍率は10.3倍だった。
	センター	+294	108	185	3,965	210	3,671	
東海大	一般	+5,042	117	3,463	35,576	3,458	30,534	大学全体では、8,338人(116)の大幅増加で4年連続増加。学部別では、医(看護)(77)、体育(84)は大幅減少だが、他の学部は増加。情報通信(143)、観光(136)、経営(135)などが大幅増加。〈文系・理系学部統一〉(142)の試験日増加などの入試改革に加え、大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われたことが影響。
	センター	+3,296	115	513	24,784	501	21,488	
東京経済大	一般	+307	104	733	8,530	729	8,223	大学全体では、323人(98)の微減で5年ぶりに減少。学部・プログラム別では、2年次から学部所属のキャリアデザインプログラム(230)は激増で2年連続増加。コミュニケーション(114)は増加したが、前年度はほぼ4割もの大幅減少の反動は大きくはなかった。現代法(103)は3年ぶりに増加。経済(87)は2年連続減少で、3年ぶりに経営(90)より少ない志願者数となった。
	センター	-630	88	166	4,736	170	5,366	
東京工科大	一般	+655	108	566	9,300	566	8,645	大学全体では、616人(96)のやや減少で4年ぶりに減少。一般方式では、メディア(130)、デザイン(119)、工(118)、コンピュータサイエンス(117)はいずれも大幅増加。センター利用方式で増加したのは、メディア(102)のみ。医療保健(70)、コンピュータサイエンス(72)、応用生物(81)は大幅減少。
	センター	-1,271	82	462	5,831	462	7,102	
東京女子大	一般	-381	93	513	5,282	497	5,663	大学全体では、371人(97)のやや減少で3年ぶりに減少。学科別では、(心理・コミュニケーション)(124)は大幅増加だが、専攻別では、(コミュニケーション)(173)が激増、(心理)(81)は大幅減少と対照的。(国際社会)(106)はやや増加。専攻別では、(国際関係)(121)が大幅増加。一方、(人文)(64)は全ての専攻が大幅減少。
	センター	+10	100	160	5,142	176	5,132	
東京電機大	一般	+3,822	126	1,185	18,425	1,094	14,603	大学全体では、5,065人(122)の大幅増加。新規実施の〈英語外部試験利用〉を除いても(115)の大幅増加。全学部が増加したが、未来科学(131)、システムデザイン工(122)は大幅増加で、いずれも全学科が大幅増加。工(121)も大幅増加。学科別では、(電気電子工)(97)はやや減少だが、他の5学科は大幅増加。理工(112)は2年連続増加。
	センター	+1,243	115	479	9,796	470	8,553	
東京農業大	一般	-1,792	92	1,908	20,843	1,726	22,635	大学全体では、1,941人(94)のやや減少で2年連続減少。学部別では、地域環境科学(105)はやや増加だが、他の5学部は減少。学科別では、地域環境科学(生産環境工)(155)、国際食料情報(国際バイオビジネス)(119)が大幅増加。一方、国際食料情報(国際農業開発)(66)、生命科学(分子微生物)(74)、農(農)(83)などは大幅減少。
	センター	-149	98	491	8,947	505	9,096	

## 2019年度入試状況分析【私立大】

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント(医学部医学科はP. 41~44に掲載)
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
東京薬科大	一般	+66	103	197	1,996	216	1,930	大学全体では、29人(99)の微減だが2年連続減少。学部別では、生命科学(104)はやや増加で2年連続増加。<BⅡ期>の新規実施が学部合計での増加につながり、学部合計募集人員は減少のため、志願倍率は8.8倍→10.5倍とアップ。一方、薬(97)はやや減少で5年連続減少。系統の人気ダウンが影響。
	センター	-95	94	118	1,441	116	1,536	
東京理科大	一般	+35	100	1,801	37,713	1,794	37,678	大学全体では、4,027人(107)のやや増加で3年連続増加。学部別では、基礎工(94)、工(97)の2学部のみ減少。経営(134)、理(115)は大幅増加。理は(数学)(97)以外の学科は増加。理2以外の学部の学科別では、経営(経営)(156)、理(応用数学)(149)、理(応用物理)(139)などが大幅増加。一方、基礎工(生物工)(84)は大幅減少。
	センター	+3,992	121	936	22,880	929	18,888	
東洋大	一般	+7,696	113	3,947	68,618	4,005	60,922	大学全体では、6,569人(106)のやや増加で5年連続増加。志願者数は12万人を突破し、近畿大に次ぐ多さ。前年度同様に新規実施の募集方式や試験日を1日増やした募集単位が多かったことに加え、大規模総合大の合格者数絞り込みへの不安から併願先として狙われたことも影響。学部別では、経済(83)、社会(96)の2学部のみ減少。
	センター	-1,127	98	1,695	53,392	1,659	54,519	
日本大	一般	-9,133	89	6,296	73,880	6,318	83,013	大学全体では、14,327人(88)の減少で4年ぶりに減少。減少数は全国最多で、大学を取り巻く厳しい環境が影響。学部別で増加したのは、商(119)、歯(109)、法二(102)の3学部のみ。薬(72)、スポーツ科学(77)、理工(78)、経済(80)、国際関係(83)、危機管理(83)、生物資源科学(84)、芸術(85)など、大幅減少した学部が目立った。
	センター	-5,194	84	1,509	26,973	1,486	32,167	
日本女子大	一般	+1,021	117	1,003	7,068	992	6,047	大学全体では、2,661人(124)の大幅増加で3年ぶりに増加。学部別では、人間社会(165)、文(120)が大幅増加。人間社会は新規実施の<英語外部試験利用>を除いても(146)の大幅増加。一方、理(90)は2年ぶりに減少。家政(98)は微減で3年連続減少。学科別では人間社会(文化)(273)、文(英文)(188)などが大幅増加、文(史)(68)、理(物質生物科学)(76)などは大幅減少。
	センター	+1,640	133	236	6,544	249	4,904	
日本獣医生命科学大	一般	+818	167	179	2,040	187	1,222	大学全体では、903人(127)の大幅増加で5年ぶりに増加。2学部とも大幅増加。獣医(獣医)(132)はセンター利用方式(82)は大幅減少だが、一般方式(388)が2回実施になったことで激増し、学部合計では大幅増加。獣医(獣医保健看護)(128)も大幅増加。<セ・第1回併用>の新規実施が大きく影響。応用生命科学(115)は2学部とも一般方式が減少、センター利用方式は大幅増加。
	センター	+85	104	86	2,253	78	2,168	
法政大	一般	-6,559	92	3,561	75,199	3,587	81,758	大学全体では、7,052人(94)のやや減少で4年ぶりに減少。細かい方式別では、全学部方式の<T日程>(87)の減少が目立った。学部別では、人間環境(115)、国際文化(111)、理工(108)、生命科学(104)、法(102)、デザイン工(101)が増加。一方、経営(72)、社会(81)は大幅減少し、全体的には「文高」が一段落した。
	センター	-493	99	682	40,248	689	40,741	
星薬科大	一般	-161	91	128	1,591	128	1,752	大学全体では、341人(90)の減少で5年連続減少。系統の人気ダウンが影響。学科別では、(薬)(90)が減少、(創薬科学)(94)はやや減少。(薬)は3方式全てが減少。
	センター	-180	90	48	1,535	48	1,715	
武蔵大	一般	+948	108	508	13,195	553	12,247	大学全体では、788人(104)のやや増加で3年連続増加。学部別では、経済(112)が増加。全学科とも増加で、(経営)(115)の大幅増加が目立った。人文(106)はやや増加。学科別では、(英語英米文化)(122)は大幅増加だが、他の2学科は微減。社会(94)はやや減少。学科別では、(社会)(104)はやや増加だが、(メディア社会)(84)は大幅減少。
	センター	-160	97	200	5,675	200	5,835	
東京都市大	一般	+2,027	118	925	13,547	954	11,520	大学全体では、4,453人(117)の大幅増加で2年連続増加。一般方式<全学統一>は廃止だが、<中期>新規実施に加え、理・工系の人気アップが影響。学部別では、知識工(98)は微減だが、他の5学部は増加。特にメディア情報(132)、工(124)、環境(123)は大幅増加。なお、知識工は募集人員減少で、学部合計の志願倍率は26.1倍→31.7倍とアップ。
	センター	+2,426	117	256	16,690	243	14,264	
明治大	一般	-5,005	94	4,591	80,033	4,612	85,038	大学全体では、8,524人(93)のやや減少で5年ぶりに減少。学部別では、総合数理(122)、商(111)の2学部のみ増加し、増加が継続していた文系学部が減少。政治経済(70)は大幅減少で、3学科全てが大幅減少。理工(89)は(機械情報工)(109)、(物理)(101)の2学科のみ増加。農(92)は(生命科学)(105)のみ増加。
	センター	-3,519	90	796	31,722	801	35,241	
明治学院大	一般	-1,229	93	1,568	16,804	1,593	18,033	大学全体では、3,240人(89)の減少で3年ぶりに減少。学部別では、社会(128)は大幅増加で3年連続増加。学科別では、(社会福祉)(218)は倍以上の激増だが、(社会)(93)はやや減少と対照的。文(65)は3学科全てが減少し、大幅減少。経済(77)も大幅減少で、廃止の(経営)<セ・後期>を除いても(78)の大幅減少。法(87)は4年ぶりに減少。
	センター	-2,011	83	351	9,670	361	11,681	

2019年度入試状況分析【私立大】

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント(医学部医学科はP. 41~44に掲載)
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
明治薬科大	一般	-214	91	180	2,057	180	2,271	大学全体では、295人(92)の減少で3年連続減少。系統の人気ダウンが影響。学科別では、(生命創薬科学)(90)は2年ぶりに減少し、(薬)(92)は3年連続減少。
	センター	-81	94	60	1,220	60	1,301	
立教大	一般	-2,054	95	2,553	42,077	2,586	44,131	大学全体では、2,997人(96)のやや減少で3年ぶりに減少。学部別では、経済(115)が大幅増加。学科別では、(会計ファイナンス)(276)が激増、(経済政策)(121)は大幅増加だが、(経済)(80)は大幅減少と対照的。一方、観光(78)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、特に(交流文化)(61)は大幅減少。文(84)も大幅減少。
	センター	-943	97	555	26,719	521	27,662	
早稲田大	一般	-7,968	92	4,730	92,787	4,870	100,755	大学全体では、5,871人(95)のやや減少で4年ぶりに減少。最難関大を敬遠する傾向と合格者数絞り込みの継続が影響。学部別では、国際教養(109)、法(108)の2学部のみ増加。教育(84)は大幅減少で6年ぶりの減少だが、募集人員も指定校推薦導入に伴い、学部合計で2割減少のため、大幅な競争緩和は見られなかった。
	センター	+2,097	113	685	18,551	685	16,454	
麻布大	一般	-202	94	300	2,985	300	3,187	大学全体では、324人(94)のやや減少。獣医(92)は系統の人気ダウンで3年ぶりに減少。学科別では、(動物応用科学)(88)が減少、(獣医)(93)はやや減少。全ての募集区分が減少。生命・環境科学(99)は微減。学科別では、(環境科学)(124)は2年連続大幅増加だが、(食品生命科学)(88)は減少、(臨床検査技術)(94)はやや減少。
	センター	-122	94	52	2,025	52	2,147	
神奈川大	一般	+1,380	106	1,864	22,686	1,864	21,306	大学全体では、1,259人(104)のやや増加で4年連続増加。学部別では、理(100)は微減だが、他の6学部は増加。工(109)は増加で2年連続増加し、特に(総合工学プログラム)(166)が激増。経済(105)はやや増加で4年連続増加。新規の<前期B>を除いても(103)のやや増加。経営(102)は微増だが、5年連続増加。
	センター	-121	99	718	10,009	718	10,130	
愛知大	一般	-692	96	938	14,901	940	15,593	大学全体では、1,084人(105)のやや増加で4年連続増加。学部別では、経営(95)のみ減少。方式別では、センター利用方式(127)は全ての学部が増加。特に国際コミュニケーション(147)、経済(137)、経営(132)の大幅増加が目立った。一方、一般方式(96)はやや減少で、特に経営(83)が大幅減少。
	センター	+1,776	127	442	8,337	435	6,561	
中京大	一般	-1,727	93	1,052	21,788	1,065	23,515	大学全体では、975人(97)のやや減少で3年ぶりに減少したが、センター利用方式(105)は全学部で新方式実施のためやや増加。学部別では、工(112)、心理(106)、文(103)が3年連続増加。一方、経済(82)は大幅減少。国際英語(98)は前年度大幅減少の反動はなく微減し、2年連続減少。国際教養(88)、スポーツ科学(92)も2年連続減少。
	センター	+752	105	680	14,702	680	13,950	
南山大	一般	+161	101	1,211	16,964	1,209	16,803	大学全体では、536人(98)の微減で2年連続減少。学部別で増加したのは、理工(111)、国際教養(107)、総合政策(105)のみ。理工は3学科とも一般方式が増加、センター利用方式は減少と対照的。経済(91)、法(92)、人文(93)は、一般方式、センター利用方式のいずれも減少。学科・専攻別では、外国語(アジア/東アジア)(136)、理工(機械制御電子工)(122)の大幅増加が目立った。
	センター	-697	92	340	7,816	342	8,513	
名城大	一般	+3	100	1,464	21,476	1,494	21,473	大学全体では539人(101)の微増で前年度並。学部別では、経営(135)は大幅増加で2年ぶりに増加。経済(121)は2年連続大幅増加。都市情報(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方、外国語(74)は大幅減少で、設置4年目で初の減少。人間(80)も大幅減少で4年ぶりに減少。薬(89)は2年連続減少で、全ての方式が減少。
	センター	+536	103	641	17,369	626	16,833	
京都産業大	一般	+2,118	106	1,715	36,324	1,637	34,206	大学全体では、4,788人(109)の増加で4年連続増加。学部別では、経済(119)、経営(116)、生命科学(115)が大幅増加。法、経営は4年連続増加。一方、外国語(76)、文化(77)は大幅減少。外国語は(国際関係)を国際関係へ学部改組したことが影響。国際関係は、前年度の外国語(国際関係)と比較すると(250)の激増。
	センター	+2,670	116	222	19,026	210	16,356	
京都女子大	一般	-235	95	509	4,187	510	4,422	大学全体では、300人(104)のやや増加で3年ぶりに増加。学部別では、法(147)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。発達教育(125)、文(117)はいずれも大幅増加。発達教育は、改組による(教育/養護・福祉教育)の新設が影響。一方、家政(73)は2年連続大幅減少。
	センター	+535	120	220	3,156	223	2,621	
京都薬科大	一般	-59	95	180	1,162	180	1,221	大学全体では16人(101)の微増。方式別では、一般方式(95)はやや減少で、2年連続減少だが、センター利用方式(108)は2年ぶりに増加と対照的。細かい方式別では、<セ・A前期>(110)が5年ぶりに増加し、志願倍率は19.6倍→21.6倍にアップ。
	センター	+75	108	50	986	50	911	

## 2019年度入試状況分析【私立大】

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント(医学部医学科はP. 41~44に掲載)
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
同志社大	一般	-5,796	88	3,475	42,571	6,799	48,367	大学全体では、4,845人(92)の減少で4年ぶりに減少。一般方式(88)の4年ぶりの減少が大学全体の減少につながった。学部別では、14学部中10学部が減少。政策(68)、グローバル・コミュニケーション(73)、経済(75)、文化情報(83)といった文系学部での大幅減少が目立った。一方、生命医科学(105)はやや増加で4年連続増加。
	センター	+951	109	317	11,180	321	10,229	
同志社女子大	一般	-209	97	694	7,231	697	7,440	大学全体では、231人(103)のやや増加で5年ぶりに増加。表象文化(132)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学芸(121)は、大幅増加で4年ぶりに増加。一方、看護(76)は大幅減少。薬(86)は5年連続減少。
	センター	+440	132	110	1,836	110	1,396	
立命館大	一般	-1,902	97	3,430	57,209	3,428	59,111	大学全体では、4,064人(96)のやや減少で6年ぶりに減少。細かい方式別では、一般方式<後期分割>(76)、センター利用方式の<セ・併用>(79)の大幅減少が目立った。学部別では、1割以上のはっきりとした増減の学部が多く、新設のグローバル教養を除いた既存の15学部中9学部が減少。薬(78)、経済(82)、情報理工(84)は大幅減少。
	センター	-2,162	94	1,325	36,989	1,376	39,151	
龍谷大	一般	+1,980	105	2,008	44,479	2,037	42,499	大学全体では、3,642人(107)のやや増加で8年連続増加。学部別では、経済(86)、法(91)を除く7学部が増加。特に理工(145)、政策(125)は大幅増加。理工は4年ぶりに増加。6学科全てが大幅増加し、特に(環境ソリューション工)(170)、(情報メディア)(165)は激増。農(112)は3年ぶり、国際(107)は3年連続でいずれも増加。
	センター	+1,662	118	525	10,965	496	9,303	
大阪工業大	一般	+944	110	728	10,782	728	9,838	大学全体では、3,320人(120)の大幅増加で4年連続増加。4学部全てで増加が継続。特に理・工系の人気アップの影響で、情報科学(141)、工(117)は大幅増加し、2学部合計の増加数が大学全体の増加数の9割弱を占めた。学科別では、工(電気電子システム)(96)が唯一減少。
	センター	+2,376	134	223	9,319	223	6,943	
大阪薬科大	一般	-161	89	150	1,352	160	1,513	大学全体では、248人(87)の減少で5年連続減少。系統の人気ダウンが影響。方式別では、センター利用方式(81)が大幅減少。一般方式(89)は2方式とも減少で、特に<B方式>(85)は大幅減少。
	センター	-87	81	14	360	14	447	
関西大	一般	-1,654	98	3,181	68,985	3,197	70,639	大学全体では、1,236人(101)の微増だが3年連続増加。センター利用方式(113)の3年連続増加が大学全体の増加につながった。学部別では、13学部中7学部が増加。総合情報(122)は、大幅増加で2年連続増加。文(109)は3年連続増加。一方、前年度1割以上増加した法(95)、経済(95)、社会(96)、政策創造(97)はいずれもやや減少。
	センター	+2,890	113	593	24,467	585	21,577	
近畿大	一般	-3,171	97	3,676	117,604	3,676	120,775	大学全体では、1,553人(99)の微減で7年ぶりに減少したが、志願者数全国最多は継続。学部別では、文系の減少、理・工系の増加が特徴的。理・工系学部は生物理工(98)を除き増加。<前期A>での理系学部他学部併願方式、理工<前期A>での学部内併願方式導入、センター利用方式での新方式実施が増加の要因。
	センター	+1,618	105	1,285	37,068	1,285	35,450	
摂南大	一般	+2,193	110	892	24,890	893	22,697	大学全体では、6,106人(119)の大幅増加で6年連続増加。学部別では、看護(81)が大幅減少で4年ぶりに減少。センター利用方式(68)の大幅減少が影響。薬(87)は2年連続減少。他の5学部はいずれも大幅増加。理工(137)は6年連続、外国語(132)は3年連続、経済(123)は7年連続、法(120)は2年連続、経営(115)は6年連続でいずれも増加。
	センター	+3,913	140	121	13,622	125	9,709	
関西学院大	一般	-2,787	90	2,577	25,491	2,567	28,278	大学全体では、3,478人(92)の減少で2年連続減少。学部別では、理工(112)、神(109)、総合政策(107)の3学部のみ増加。理工は、一般方式では9学科全てが増加。総合政策は3年連続増加。一方、経済(69)、人間福祉(73)、商(81)、国際(81)は大幅減少。人間福祉は4年ぶりの減少で、3学科全てが大幅減少。経済、商、国際はいずれも3年ぶりに減少。
	センター	-691	95	784	13,335	784	14,026	
甲南大	一般	+787	106	1,040	13,696	1,035	12,909	大学全体では、3,105人(116)の大幅増加で3年連続増加。方式別では、センター利用方式(134)が2年連続大幅増加。学部別では、経済(87)は減少したが、他の7学部は増加。特に知能情報(184)、マネジメント創造(148)、理工(141)、法(123)、文(115)は大幅増加。マネジメント創造は3年連続大幅増加。一方、経済は3年ぶりに減少。
	センター	+2,318	134	307	9,195	307	6,877	
甲南女子大	一般	+557	114	360	4,464	296	3,907	大学全体では、928人(111)の増加で2年連続増加。学部別では、人間科学(124)は2年連続大幅増加。文(119)も大幅増加で3年連続増加。増加の2学部はいずれも4学科全てが増加。一方、医療栄養(62)、看護リハビリテーション(72)は大幅減少。看護リハビリテーションは3年連続減少で、2学科とも大幅減少。
	センター	+371	108	146	4,993	208	4,622	

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント(医学部医学科はP. 41~44に掲載)
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
神戸薬科大	一般	-242	87	140	1,604	140	1,846	大学全体では、237人(90)の減少で2年連続減少。系統の人気ダウンが影響。方式別では、一般方式の<中期>(83)、<前期>(85)が大幅減少。
	センター	+5	101	10	457	10	452	
武庫川女子大	一般	-50	100	883	10,821	764	10,871	大学全体では、36人(100)増加の前年度並。学部別では、音楽(131)、薬(114)、看護(111)、健康・スポーツ科学(105)が増加。看護は2年連続増加。新設の教育(96)は、前年度の文(教育)と比べるとやや減少。文(96)も前年度の(教育)を除くとやや減少。生活環境(100)は、18人のみだが減少して3年連続減少。(生活環境)(136)は大幅増加だが、(食物栄養)(81)は2年連続大幅減少。
	センター	+86	110	95	951	97	865	
広島修道大	一般	+693	112	756	6,530	749	5,837	大学全体では、1,021人(111)の増加で2年ぶりに増加。学部別では、7学部中6学部が増加。商(153)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2学科ともに大幅増加し、特に(商)(195)はほぼ倍増。法(144)は、全ての方式で増加し大幅増加。一方、経済科学(75)は、3年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は16.7倍→12.6倍にダウン。
	センター	+328	109	150	4,150	150	3,822	
松山大	一般	-29	99	673	5,749	678	5,778	大学全体では、164人(98)の微減だが3年連続減少。薬(118)は大幅増加で5年ぶりの増加。人文(111)は増加で、(英語英米文)(120)の大幅増加が目立った。経済(89)は減少。経営(96)はやや減少だが2年連続減少。法(97)もやや減少。
	センター	-135	93	170	1,815	175	1,950	
西南学院大	一般	-379	97	1,024	12,826	1,048	13,205	大学全体では、816人(104)のやや増加で、3年ぶりに増加。学部別では、経済(116)が大幅増加で3年ぶりに増加。法(114)は増加。一方、商(94)は前年度の反動による増減が継続し、やや減少。学科別では、法(国際関係法)(130)、経済(経済)(125)の大幅増加、商(商)(81)の大幅減少が目立った。
	センター	+1,195	114	278	9,463	284	8,268	
福岡大	一般	-655	98	2,529	32,931	2,533	33,586	大学全体では、1,302人(103)のやや増加で2年ぶりに増加。学部別では、商(89)、スポーツ科学(89)、法(98)の3学部が減少。増加学部では、理(116)の大幅増加、経済(109)の増加が目立った。学科別では、理(化学)(142)、人文(フランス語)(132)、経済(産業経済)(129)などが大幅増加。一方、法(経営法)(79)、スポーツ科学(スポーツ科学)(82)、商(貿易)(82)などは大幅減少。
	センター	+1,957	113	573	17,350	564	15,393	

## ⑩医学部医学科志願状況

### □29 大学集計ではやや減少

5月25日現在で入試結果未発表の順天堂大、東京女子医科大を除いた29大学合計の志願者数は、97,144人(94)でやや減少しています。医学部医学科(以下「医学部」)新設などで入学定員が増加したことに加え、既卒受験生が減少していることもあって、医学部志望者自体が減少していることに加え、1次試験が他大学と日程重複した大学が前年度より多くなり出願が分散したことも影響しています。すなわち、国公立大も含めて医学部志望者にとっては年々チャンスが拡大していることは確かです。

大学別に見ると、国際医療福祉大(122)、愛知医科大(120)、久留米大(128)の大幅増加が目立ちました。増加要因は、国際医療福祉大は特待奨学生の対象者数を増やしたこと、愛知医科大は1次試験が全私立大医学部の中で最も早い日程になった影響、久留米大は後期入試の新規実施です。

一方で、東京医科大(34)は激減し、減少数、減少率ともに私立大医学部の中で最大となりました。不適切入試に伴う大学を取り巻く厳しい環境に加え、過去2年間の合否再判定による追加合格者を受け入れたことによる募集人員の大幅減少が影響しました。また、先に述べたように、1次試験が他大学と日程重複した大学が多くなったことが2019年度の私立大医学部入試の特徴です。これはセンター試験が前年度より6日遅い日程になり、その分1次試験開始も遅くなったことが要因です。この要因で減少が目立った大学は、北里大(72)、帝京大(87)、聖マリアンナ医科大(55)、金沢医科大(88)、近畿大(86)などでした。兵庫医科大(69)は、前年度の大学合計の志願者数の25%以上を占めていたセンター利用方式入試の廃止で大幅減少しました。

## 〔大学別志願状況〕

※セ…センター利用方式、□…方式合計での数値

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
岩手医科大		-399	88	90	2,951	90	3,350	<変更点>2次試験会場に大阪会場追加 理2配点 150点⇒200点 399人(88)の減少で2年連続減少。	
東北医科薬科大	一般枠	-133	93	45	1,740	45	1,873	<変更点>1次試験会場に大阪会場追加 やや減少で3年連続減少。1次試験での日程重複の他 大学が2大学から3大学になったことで減少が継続。	
	修学A			35		35			
	修学B			20		20			
国際医療福祉大	大学合計	+739	122	120	4,030	120	3,291	大学合計では、739人(122)の大幅増加。1次試験が前年度 の単独実施から愛知医科大との日程重複になった が、特待奨学生の対象者数を増やしたことが影響。	
		+419	117	105	2,948	105	2,529		
	セ	+320	142	15	1,082	15	762		
自治医科大		+348	116	123	2,534	123	2,186	大幅増加で2年連続増加。	
獨協医科大	大学合計	+386	112	80	3,669	83	3,283	<変更点>インターネット出願に変更 大学合計では、386人(112)の増加で2年連続増加。一般 方式は390人(120)の大幅増加で、1次試験が前年度の 関西医科大との日程重複から単独実施になったことも影 響か。<栃木県枠>は、一般方式とセンター利用方式の 合計で、75人(131)の大幅増加となり4年ぶりに増加。志 願倍率は24.4倍⇒45.6倍と大幅アップ。	
		+337	118	58	2,165	58	1,828		
	栃木県枠	+53	135	□ 7	206	□ 10	153		
	セ	-26	98	15	1,185	15	1,211		
	栃木県枠	セ	+22	124	□ 7	113	□ 10		91
埼玉医科大	大学合計	-615	89	80	4,917	83	5,532	<変更点><推薦・埼玉県枠>(18人)新規実施 募集人員:<前>62人、<後>43人 ⇒<前>52人、<後>35人 大学合計では、615人(89)の減少で2年ぶりに減少。<前期> (76)は大幅減少で3年連続減少。	
	前期	-500	76	52	1,580	62	2,080		
	後期	-92	96	36	2,461	43	2,553		
	前期	セ	-29	97	10	841	10		870
	後期	セ	+6	121	2	35	2		29
北里大		-742	72	78	1,902	78	2,644	742人(72)の大幅減少で2年連続減少。1次試験での日 程重複が前年度の大阪医科大のみから、埼玉医科大、 近畿大、川崎医科大の3大学になったことで大幅減少。	
	茨城県枠			2		2			
	山梨県枠			2		2			
	相模原枠			2		2			
杏林大	大学合計	+536	113	111	4,794	116	4,258	<変更点><後期>(10人)、<AO>(5人)新規実施 <セ>:センター試験成績で1次選考実施 募集人員:<セ>25人⇒10人 大学合計では、536人(113)の増加だが、新規実施の<後 期>を除くと(79)の大幅減少。既存の一般方式(75)は、1 次試験が前年度の単独実施から、3大学との日程重複 になったことが大きく影響。センター利用方式は3年ぶり に減少したが、募集人員減少で志願倍率は55.6倍⇒ 119.5倍と大幅アップして競争激化。	
	前期	-707	75	79	2,160	79	2,617		
	東京都枠			10		10	244		
	茨城県枠			2		2	6		
	後期	+1,439	新規	10	1,439				
	セ	-196	86	10	1,195	25	1,391		
慶應義塾大		+3	100	68	1,528	68	1,525	3人のみだが増加し、5年ぶりに増加。	
昭和大	大学合計	-292	95	110	5,640	110	5,932	大学合計では、292人(95)のやや減少で3年連続減少。 <I期>(102)は微増で3年ぶりに増加したが、他の2方式 は大幅減少。	
	I期	+66	102	78	3,556	78	3,490		
	II期	-294	85	20	1,722	20	2,016		
	B地域別	セ	-64	85	12	362	12		426
帝京大	大学合計	-1,208	87	110	8,396	110	9,604	大学合計では、1,208人(87)の減少で3年ぶりに減少。一 般方式(86)は、1次試験での日程重複の他大学が試験 日自由選択の3日間とも前年度より多くなったことが大き く影響。	
		-1,156	86	100	7,343	100	8,499		
	前期	セ	-52	95	10	1,053	10		1,105

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
東海大	大学合計	+410	107	78	6,417	78	6,007	<p>&lt;変更点&gt;&lt;AO&gt;(5人)新規実施、&lt;セ・後期&gt;廃止          &lt;神奈川県枠&gt;:入学後募集          ⇒センター利用方式での募集          募集人員:&lt;一般&gt;65人⇒60人</p> <p>大学合計では、410人(107)のやや増加で2年ぶりに増加。&lt;A&gt;(104)は1次試験日自由選択の1日目の日程重複が、前年度の福岡大のみから東京医科大も加わった2大学になった影響はなく、2年ぶりに増加。</p>	
	A方式	+213	104	60	4,961	65	4,748		
	セ	+40	104	10	1,164	10	1,124		
	後期	セ	-23	廃止			若干名		23
	神奈川県枠	セ	+120	新規	5	120			
静岡県枠	セ	+60	154	3	172	3	112		
東京医科大	大学合計	-2,549	34	50	1,313	93	3,862	<p>大学合計では、2,549人(34)の激減。不適切入試に伴う大学を取り巻く厳しい環境に加え、過去2年間の合否再判定で追加合格者を受け入れたことによる募集人員の大幅減少で敬遠された。志願倍率は一般方式が37.7倍→25.4倍、センター利用方式は61.5倍→28.9倍といずれも大幅ダウン。</p>	
		-1,974	33	38	966	75	2,935		
	茨城県枠						3		5
	セ	-575	38	12	347	15	922		
東京慈恵会医科大	大学合計	-6	100	110	2,011	110	2,017	<p>6人(100)のみだが減少し、6年連続減少。方式別では、&lt;一般&gt;(101)は11人のみだが増加。&lt;東京都枠&gt;(83)は減少し、方式の志願者数が公表された過去5年間で最少。</p>	
		+11	101	105	1,925	105	1,914		
	東京都枠	-17	83	5	86	5	103		
東邦大		-520	84	115	2,673	115	3,193	<p>大幅減少で2年ぶりに減少。1次試験が前年度の単独実施から、帝京大の1次試験日自由選択の3日目および兵庫医科大との日程重複となり、前後の日程も前年度より1次試験実施大が多くなったことが影響。</p>	
日本大	大学合計	-530	88	102	3,979	102	4,509	<p>大学合計では、530人(88)の減少で2年ぶりに減少。方式別では、&lt;A&gt;(90)は3年連続減少。&lt;N1期&gt;(72)は1次試験で日程重複する他大学が2大学から3大学になったことに加え、前年度激増の反動で大幅減少。</p>	
	A方式	-385	90	92	3,602	92	3,987		
	N1期	-145	72	10	377	10	522		
日本医科大	大学合計	+264	107	121	4,196	121	3,932	<p>&lt;変更点&gt;&lt;後期&gt;(10人)新規実施          募集人員:&lt;前期&gt;100人⇒90人</p> <p>大学合計では、264人(107)のやや増加だが、新規実施の&lt;セ・後期併用&gt;を除いた一般方式のみでは、270人(93)のやや減少。&lt;前期&gt;(86)は、前年度6年間の学費大幅減額の影響で大幅増加した反動に加え、1次試験での日程重複が前年度の自治医科大のみから、帝京大の1次試験日自由選択の1日目、金沢医科大&lt;前期&gt;も加わったことで減少。ただし、募集人員減少で志願倍率は26.7倍→25.4倍とダウン幅は小さかった。</p>	
	前期	-380	86	90	2,287	100	2,667		
	後期	+110	109	21	1,375	21	1,265		
	後期併用	セ	+534	新規	10	534			
聖マリアンナ医科大		-1,525	55	85	1,899	85	3,424	<p>&lt;変更点&gt;インターネット出願に変更          大幅減少で3年連続減少。1次試験が前年度の単独実施から、3大学との日程重複になったことなどが大きく影響。</p>	
金沢医科大	大学合計	-791	83	75	3,983	75	4,774	<p>&lt;変更点&gt;インターネット出願に変更          &lt;後期&gt;:1次試験会場に大阪会場追加</p> <p>大学合計では、791人(83)の大幅減少。&lt;前期&gt;(74)は大幅減少で、1次試験での日程重複が前年度の順天堂大の3方式から自治医科大、帝京大の1次試験日自由選択の1日目、日本医科大&lt;前期&gt;になり、前後の日程も前年度より1次試験実施大が多くなったことが影響。実施2年目の&lt;後期&gt;(104)はやや増加。</p>	
	前期	-846	74	65	2,440	65	3,286		
	後期	+55	104	10	1,543	10	1,488		
愛知医科大	大学合計	+566	120	90	3,453	85	2,887	<p>&lt;変更点&gt;&lt;セ・後期&gt;(5人)新規実施</p> <p>大学合計では、566人(120)の大幅増加で2年ぶりに増加。新規実施の&lt;セ・後期&gt;を除いても(117)の大幅増加。一般方式(121)は、1次試験での日程重複大学が前年度の自治医科大から国際医療福祉大になったが、影響はなく大幅増加で4年ぶりに増加。1次試験実施日が最も早い日程になったことが影響。</p>	
		+406	121	65	2,382	65	1,976		
	前期	セ	+89	110	15	966	15		877
	後期	セ	+69	新規	5	69			
	特別枠B	セ	+2	106	5	36	5		34

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント	
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数		
藤田医科大	大学合計	-384	89	105	3,138	110	3,522	<p>&lt;変更点&gt;&lt;一般・愛知県枠&gt;出願要件: 1浪以下の愛知県出身者 ⇒2浪以下の愛知県出身者 募集人員:&lt;一般・前期愛知県枠&gt;10人 ⇒&lt;一般・前期愛知県枠&gt;5人 &lt;一般・後期愛知県枠&gt;5人 &lt;一般前期&gt;80人⇒75人 &lt;一般後期&gt;&lt;セ・後期&gt;各5人 ⇒計10人</p> <p>大学合計では、384人(89)の減少で2年ぶりに減少。&lt;前期&gt;(81)は大幅減少で3年連続減少。1次試験が前年度の単独実施から3大学との日程重複になったためだが、募集人員減少で志願倍率は22.4倍→20.4倍とダウン幅は小さかった。</p>	
	前期	-387	81	75	1,632	80	2,019		
	前期愛知県枠			5		10			
	後期	-79	90	□ 10	716	5	795		
	後期愛知県枠			5					
	前期	セ	+62	110	10	709	10		647
後期	セ	+20	133	□ 10	81	5	61		
大阪医科大	大学合計	+297	110	109	3,223	109	2,926	<p>&lt;変更点&gt;インターネット出願に変更 大学合計では、297人(110)の増加で3年ぶりに増加。方式別では、&lt;前期&gt;&lt;地域枠&gt;&lt;研究医枠&gt;合計(118)は大幅増加で2年ぶりに増加。1次試験日を2週間繰り下げたことで2017年度と同じタイミングの実施になり、出願しやすい日程になったことが影響。</p>	
	前期	+294	118	85	1,886	85	1,592		
	地域枠			2		2			
	研究医枠			2		2			
	後期		+8	101	15	871	15		863
		セ	-5	99	5	466	5		471
関西医科大	大学合計	+521	115	112	3,961	112	3,440	<p>&lt;変更点&gt;&lt;セ・一般併用&gt;(10人)新規実施 募集人員:&lt;前期&gt;85人(大阪府枠含む)、 &lt;後期&gt;7人(大阪府枠含む)、 &lt;静岡県枠&gt;5人、&lt;セ&gt;15人 ⇒&lt;前期&gt;86人(地域枠含む)、 &lt;後期&gt;6人(地域枠含む)、 &lt;セ&gt;10人</p> <p>大学合計では、521人(115)の大幅増加で2年ぶりの増加だが、新規実施の&lt;セ・併用&gt;を除くと(98)の微減。既存の方式別では、&lt;前期&gt;(105)、&lt;セ&gt;(95)はいずれも前年度と逆の増減。&lt;後期&gt;(79)は大幅減少で2年連続減少。</p>	
	前期	+92	105	92	2,050	97	1,958		
	前期・地域枠								
	後期	-124	79		461		585		
	後期・地域枠								
		セ	-44	95	10	853	15		897
併用	セ	+597	新規	10	597				
近畿大	大学合計	-454	86	85	2,846	85	3,300	<p>大学合計では、454人(86)の減少で5年連続減少。方式別では、&lt;セ・C後期&gt;(129)のみ増加。&lt;前期A&gt;(81)は大幅減少で3年連続減少。1次試験での日程重複の他大学が2大学から3大学となったことが影響。&lt;セ・前期&gt;(83)も大幅減少で前年度大幅増加の反動が表れた。</p>	
	前期A	-318	81	65	1,327	65	1,645		
	後期	-17	97	5	655	5	672		
	C前期	セ	-120	83	10	600	10		720
	C中期	セ	-17	92	3	183	3		200
	C後期	セ	+18	129	2	81	2		63
兵庫医科大	大学合計	-901	69	95	2,003	95	2,904	<p>&lt;変更点&gt;&lt;一般B(高大接続型)&gt;(10人)新規実施 &lt;セ・前期&gt;&lt;セ・後期&gt;廃止 &lt;一般A&gt;:1次試験の大阪会場廃止、 神戸会場追加 1次試験の論を点数化(50点) 募集人員:&lt;一般A&gt;82人⇒85人</p> <p>901人(69)の大幅減少。センター利用方式廃止の影響だが、&lt;A&gt;&lt;B&gt;の2方式実施になった一般方式のみでも(94)のやや減少。</p>	
	A	-284	87	85	1,852	82	2,136		
	B	+151	新規	10	151				
	前期	セ	-735	廃止			10		735
	後期	セ	-33	廃止			3		33
川崎医科大	大学合計	-14	99	76	1,442	80	1,456	<p>&lt;変更点&gt;&lt;岡山県地域枠&gt;(10人)新規実施 募集人員:&lt;一般&gt;60人⇒50人</p> <p>大学合計では、14人(99)のみの微減だが、2年連続減少。&lt;一般&gt;(94)はやや減少だが、募集人員減少で志願倍率は22.9倍→25.8倍とアップ。&lt;地域枠&gt;合計(188)は&lt;岡山県枠&gt;新設で激増だが、既存の2方式合計では(96)のやや減少。</p>	
		-85	94	50	1,290	60	1,375		
	静岡県枠	-6	91	10	63	10	69		
	岡山県枠	+74	新規	10	74				
	長崎県枠	+3	125	6	15	10	12		
久留米大	大学合計	+600	128	90	2,720	90	2,120	<p>&lt;変更点&gt;&lt;後期&gt;(5人)新規実施 募集人員:&lt;前期&gt;85人⇒80人</p> <p>大学合計では、600人(128)の大幅増加で3年連続増加だが、新規実施の&lt;後期&gt;を除くと(87)の減少。&lt;前期&gt;(87)の減少は、1次試験での日程重複の他大学が2大学から3大学になったことが影響したが、募集人員も減少で志願倍率は24.2倍→22.5倍とダウン幅は小さかった。</p>	
	前期	-263	87	80	1,798	85	2,061		
	後期	+867	新規	5	867				
	福岡県枠	-4	93	5	55	5	59		

大学	方式	志願者数増減		2019年度		2018年度		コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
産業医科大	セ	-252	88	85	1,869	85	2,121	前年度4年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。
福岡大	大学合計	+250	107	80	3,918	80	3,668	大学合計では、250人(107)のやや増加で3年連続増加。<系統別>(101)は、1次試験での日程重複が前年度の東海大のみから、東京医科大も加わった2大学になったが、影響は全くなかった。<セ・I期>(126)は大幅増加で3年連続増加。
	系統別	+43	101	70	2,916	70	2,873	
	I期	セ	+207	126	10	1,002	10	

## 〔志願者数が多かった大学〕

大学	志願者数
帝京大	8,396 (110)
東海大	6,417 (78)
昭和大	5,640 (110)
埼玉医科大	4,917 (80)
杏林大	4,794 (111)

## 〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数
国際医療福祉大	+739
久留米大	+600
愛知医科大	+566
杏林大	+536
関西医科大	+521

## 〔志願倍率が高かった大学〕

大学	志願倍率
東海大	82.3
帝京大	76.3
埼玉医科大	61.5
金沢医科大	53.1
昭和大	51.4

## 〔志願者数が少なかった大学〕

大学	志願者数
東京医科大	1,313 (50)
川崎医科大	1,442 (76)
慶應義塾大	1,528 (68)
東北医科薬科大	1,740 (100)
産業医科大	1,869 (85)

## 〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数
東京医科大	-2,549
聖マリアンナ医科大	-1,525
帝京大	-1,208
兵庫医科大	-901
金沢医科大	-791

## 〔志願倍率が低かった大学〕

大学	志願倍率
東北医科薬科大	17.4
東京慈恵会医科大	18.3
川崎医科大	19.0
自治医科大	20.6
兵庫医科大	21.1

※いずれも大学合計の数値で算出。( )内は募集人員を示す。